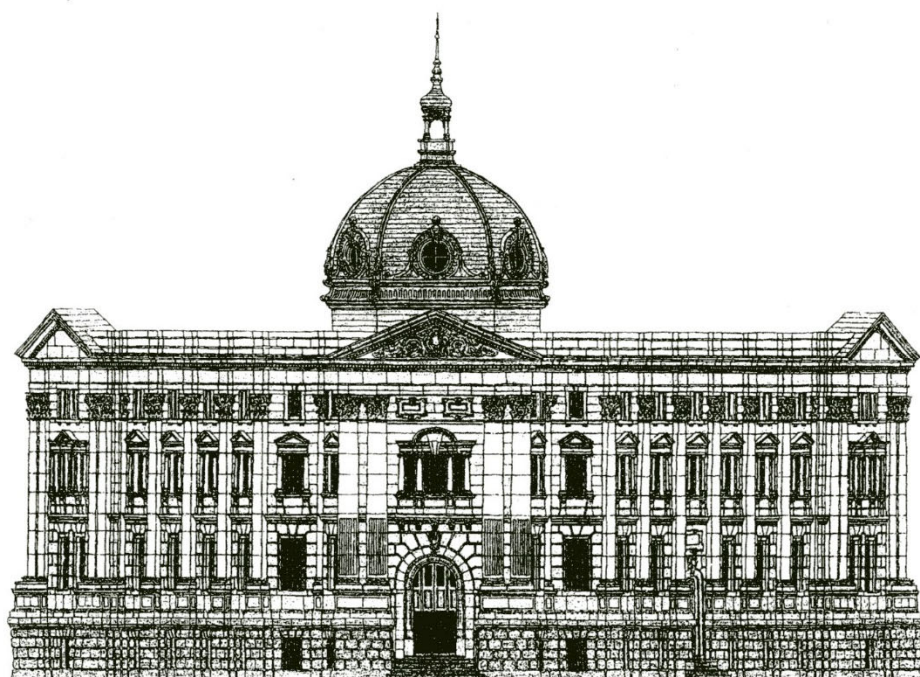


神奈川県立歴史博物館年報

令和2年度



神奈川県立歴史博物館

はじめに

令和2年度は、臨時休館からのスタートとなりました。新型コロナウイルス感染症の影響に伴い令和2年6月7日まで休館した後、再開館しましたが、感染状況の拡大により翌年1月12日から3月末日まで再度の臨時休館に至りました。3月23日以降は、事前予約に限り入館可能となりましたが、特別展等の会期変更や中止、催し物の中止など多大な影響を受ける1年となり、観覧を心待ちにしてくださった皆様にもご不便をおかけすることになりました。

特別展は、4月に幕開けの予定だった「明治錦絵×大正新版画」展を8月に変更し、会期を短縮して復活開催しました。世界に誇る日本美術の粋である近代の木版画の展開を紹介し、見応えのある展示で好評を得ました。当初の予定どおり10月開催となった「相模川流域のみほとけ」展では、相模川流域という新たな切り口で、普段はみることのできない秘仏や非公開の貴重な仏像を一堂に会し、多くの来館者の方にご観覧いただきました。12月から開催した「かながわの正月」展では、地域に根差した多彩な行事を通して、新しい年が豊かになるよう願う人々の活力ある営みを紹介しましたが、会期半ばで休館に至りました。

特別陳列「出土文字資料からみる古代の神奈川」は、県内の遺跡から出土した木簡などの文字資料から、明らかになりつつある古代神奈川の様相について紹介しました。開催が叶いましたが、わずか6日間の開催となってしまったことは残念でなりません。

学習支援活動では、外出自粛が続く中で、子どもたちが自宅で楽しめるようWeb上に特設サイト「おうちでかながわけんぱく」を新たに開設するほか、近隣他館と連携した夏休み恒例の子ども向けイベント「ミュージアム・ミッション」では、ミュージアムを実際に訪れるのに替えてWeb上で開催するなど、工夫しながら取り組みました。このほか、学芸員が学校に出向いて講義する「出張講座」を引き続き実施するとともに、感染状況を踏まえ、一部の学校とはオンライン形式で実施しました。

また、対面でレファレンスを行うことの多いミュージアムライブラリーでは、安全確保に留意しつつ、利用者に寄り添った情報提供等を引き続き行いました。

当館運営にご協力をいただいているボランティアの方々には、9月から12月までの約4ヵ月間と大幅に活動を制約せざるを得なくなった上、これまで行ってきたボランティア展示解説も実施困難な中で、看視活動を中心にご活躍いただきました。

新型コロナウイルス感染症対策に限らず、昨今の豪雨等の自然災害を踏まえ、9月には資料の緊急搬出訓練を初めて実施しました。その事例をもとに11月に横浜市内で開催された全国博物館大会分科会において発表するなど、文化財を後世に伝えるための取組を進めました。

令和2年度の博物館活動は、例年とは大きく異なるものとなりましたが、今後も県民の皆様の生涯学習支援により一層尽力し、Webサイトの充実やオンラインでの展開などを視野に入れつつ、多くの皆様に当館の魅力を体感していただけるよう職員一同、取り組んでまいります。

神奈川県立歴史博物館

目 次

はじめに

1 沿革・理念

- (1) 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 神奈川県立歴史博物館の理念・・・・・・ 4
- (3) 神奈川県立歴史博物館の使命と運営
方針・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

2 管理運営

- (1) 組織・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - ア 組織及び分掌
 - イ 職員名簿
- (2) 歳入・歳出・・・・・・・・・・ 7
 - ア 歳入
 - イ 歳出
- (3) 入館者状況・・・・・・・・・・ 7
 - ア 入館者数
 - イ 有料入館者内訳
 - ウ 無料入館者内訳
 - エ 特別展の入館者状況
- (4) 広報・広聴・・・・・・・・・・ 9
 - ア 広報実績
 - イ ホームページアクセス件数
 - ウ Twitter ツイート数・フォロワー数
- (5) 事業評価・・・・・・・・・・ 9
 - ア 各目標値及び評価指標の達成状況
 - イ 総括
- (6) 施設概要・・・・・・・・・・10
 - ア 概要
 - イ 館内施設
 - ウ 館外施設
 - エ 外部協力
 - オ 平面図

3 調査・研究

- (1) 館独自の研究事業費によるもの・・・・ 14
 - ア 総合研究
 - イ 個別研究
 - ウ グループ研究
 - エ 調査研究成果報告会
- (2) 日本学術振興会科学研究費助成事業
によるもの・・・・・・・・・・ 22
- (3) その他外部研究資金によるもの・・・・ 25
- (4) 個人研究活動・・・・・・・・ 26
 - ア 研究報告書
 - イ 個人研究活動

4 資料収集・修理・保管・利用

- (1) 考古資料・・・・・・・・・・・・ 37
- (2) 歴史資料・・・・・・・・・・・・ 38
- (3) 美術資料・・・・・・・・・・・・ 40
- (4) 民俗資料・・・・・・・・・・・・ 42
- (5) 写真資料・・・・・・・・・・・・ 43
- (6) 資料の燻蒸等・・・・・・・・・・ 43
- (7) その他の資料・・・・・・・・・・ 43
 - ア 図書
 - イ 写真
 - ウ 情報システム

5 展示・教育普及・学習支援

- (1) 総合テーマ展示(常設展)・・・・・・ 47
- (2) 特別展・・・・・・・・・・・・ 48
- (3) コレクション展・・・・・・・・ 62
- (4) その他の展示・・・・・・・・ 63
- (5) 教育普及・学習支援事業・・・・・・ 73
 - ア 県立社会教育施設公開講座
 - イ 特別展等関連行事
 - ウ 学芸員による展示解説
 - エ ミュージアムトーク「今月の逸品」
 - オ その他の行事
 - カ 子ども・青少年向け教育普及事業
 - キ 中止した行事
 - ク 学校連携事業の状況
- (6) ミュージアムライブラリー・・・・・・ 82
- (7) 普及印刷物・・・・・・・・・・ 83
 - ア 図録
 - イ 広報印刷物
 - ウ 神奈川県立歴史博物館だより
- (8) ボランティアの活動・・・・・・・・ 83
 - ア 活動状況及び実績
 - イ 専門研修
 - ウ その他の研修
- (9) 博物館実習生の受け入れ・・・・・・ 85
 - ア 見学実習
 - イ 実務実習

6 資料

- (1) 条例・規則・・・・・・・・・・・・ 86
 - ア 神奈川県立の博物館条例
 - イ 神奈川県立の博物館組織規則
 - ウ 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則
- (2) 利用案内・・・・・・・・・・・・ 90
- (3) 新型コロナウイルス感染症の影響
による臨時休館の状況・・・・・・ 91

1 沿革・理念

(1) 沿革

昭和38年6月	神奈川県教育庁に博物館準備事務室を設置
昭和41年11月	神奈川県立博物館条例の制定により、神奈川県立博物館を設置 神奈川県立博物館組織規則の制定により、庶務部、学芸部の2部を置く
昭和42年3月	神奈川県立博物館開館(20日)
4月	附属機関の設置に関する条例の一部改正により神奈川県博物館協議会を設置 (委員20名)
6月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部に庶務課、経理課の2課を置く
昭和43年4月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部に学芸課、人文課、自然課の3課を置く
昭和44年3月	旧館である旧横浜正金銀行本店が国の重要文化財に指定される
7月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部を管理部に、庶務課を管理課に名称変更
昭和47年8月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課の名称を廃し、企画調整課、学芸第一課、学芸第二課及び学芸第三課の4課を置く
昭和49年8月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部に施設保全課を置く
昭和52年5月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課を廃止
昭和53年9月	文部省学術研究機関の指定を受ける
昭和55年2月	入館者数100万人達成
昭和62年4月	第2次新神奈川計画の重点政策「文化施設21世紀構想」の一環として、博物館再編整備事業策定
昭和63年12月	神奈川県立博物館整備構想懇談会が「神奈川県立博物館整備構想に関する提言—自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方—」を提出
平成2年3月	人文系博物館の整備計画・展示計画策定
平成3年3月	博物館総合情報システム整備計画、資料収集計画を策定
平成4年3月	展示基本設計
平成5年3月	改修工事基本・実施設計、展示工事実施設計
4月	県立博物館休館(～7年3月)
10月	改修工事及び展示工事開始
平成6年11月	改修工事終了
平成7年1月	神奈川県立博物館条例改正に伴い「神奈川県立博物館」は「神奈川県立歴史博物館」と名称変更、神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、企画情報部に企画普及課及び情報資料課の1部2課を置き、管理部の施設保全課を廃止
3月	展示工事終了、博物館情報システムの一部稼働開始 神奈川県立歴史博物館開館(18日)
6月	国の史跡に指定される
平成9年7月	博物館ボランティアが活動を開始
平成11年2月	金銅装笈・椿彫木朱漆笈・清拙正澄墨跡・石室善攻墨跡・源頼朝袖判下文・源頼家袖判下文が県の重要文化財に指定される 神奈川の職人の道具(17職種1,982点)が県の有形民俗文化財に指定される
4月	重要文化財の公開承認施設として文化庁から承認される

- 平成 13 年 1 月 三浦市間口洞窟遺跡出土品(450 点)が県の重要文化財に指定される
- 3 月 附属機関の設置に関する条例の一部改正により、神奈川県博物館協議会を廃止
- 平成 18 年 4 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部管理課と経理課を統合し管理課に改め、企画情報部企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる
- 平成 19 年 11 月 旧館である旧横浜正金銀行本店が、経済産業省により近代化産業遺産(横浜港周辺の関連建築物群)に認定される
- 平成 21 年 8 月 入館者数 200 万人達成
- 平成 28 年 6 月 空調設備等改修工事のため休館(～平成 30 年 4 月)
- 9 月 事務室を(宇徳ビル 6 階に)移転
- 10 月 空調設備等改修工事開始
- 平成 29 年 12 月 空調設備等改修工事終了
- 平成 30 年 4 月 空調設備等改修工事終了に伴い、博物館業務を再開

(2) 神奈川県立歴史博物館の理念

神奈川県立歴史博物館の前身は昭和 42 年開館の神奈川県立博物館である。昭和 62 年から自然系と人文系が分離分館する再編整備の検討が行なわれ、平成 7 年のリニューアル開館に至るまで、3 回にわたって博物館活動の理念やテーマが検討・提案された。

ア 検討・提案の経緯

- (ア) 昭和 63 年 12 月、神奈川県立博物館整備構想懇談会から提出された「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」(以下「提言」という。)
- (イ) 平成 2 年 3 月に策定された「神奈川県立人文系博物館(仮称)整備計画」(以下「整備計画」という。)
- (ウ) 平成 7 年 3 月の再編整備時に作られた「神奈川県立歴史博物館概要説明」(以下「概要」という。)

イ 活動理念・テーマ

(ア) 「提言」における活動理念・テーマ

a 人文系博物館の「意義」(「提言」を要約、抜粋)

- (a) 文化の視点からの未来の探求
- (b) 考古、歴史、美術、民俗等を統合化した新しい文化史の創造
- (c) 歴史的、文化的特色による神奈川のアイデンティティーの探求
- (d) 振幅の大きな神奈川の歴史にみる人々の生き方の探求
- (e) 神奈川の文化と内外の文化との交流や相互関係の探求
- (f) 文化史的意義のある資料の集積と後世への継承

b 「基本テーマ」等の設定

(a) 基本テーマ：「文化の交流と変容」

上記の意義を踏まえ、また、神奈川の文化と歴史を専門的かつ学際的な観点から総合的にとらえる唯一の博物館として活動していくため、基本テーマが設定された。

(b) サブテーマ：「神奈川の文化と歴史を考える」「日本・世界の神奈川を考える」

空間的、時間的な広がりのある視点や、先人から受け継がれた地域の固有性をとらえる視点に立って 2 つのサブテーマが設定された。

(c) 展開の視点

これらの基本テーマ、サブテーマを、展示をはじめとした様々な博物館活動に反映させるため、次のような展開の視点が設けられた。

- [継 承] 各時代の文化と時代を超えて継承される文化を歴史の流れの中でとらえる
- [交 流] 他の国や他の地域との文化交流を空間的、時間的広がりの中でとらえる
- [変 容] 文化の変容をダイナミックにとらえる
- [風 土] 文化の特色を地域風土を通してとらえる

(イ) 「整備計画」における活動理念・テーマ

上記「提言」を受け、平成2年に「整備計画」が策定され、再編整備の具体的な内容がまとめられたが、「提言」における博物館の意義、性格、基本テーマなどは、歴史博物館のあるべき姿を示す目標・指針として継承されることとなった。

(ウ) 「概要」における活動理念・テーマ

平成7年のリニューアル開館に際して作成された「概要」では、当館を「かながわの文化と歴史」を総合的に扱う博物館と位置付けて博物館活動の基本テーマとし、展示テーマを「文化の交流と変容」とすることが示された。

(3) 神奈川県立歴史博物館の使命と運営方針

当館が令和元年度に作成した「神奈川県立歴史博物館評価書（社会教育施設個別評価）」では、当館の使命と運営方針を次のように定めている（事業評価の概要については9ページを参照）。

ア 神奈川県立歴史博物館の使命

神奈川県立歴史博物館は、「かながわの歴史と文化」を通史的・総合的に扱う唯一の博物館として、県民や利用者が「かながわ」への理解を深め、「かながわ」に魅力を感じ、「かながわ」の新たな価値を見出すことができる博物館活動を展開します。

イ 神奈川県立歴史博物館の運営方針

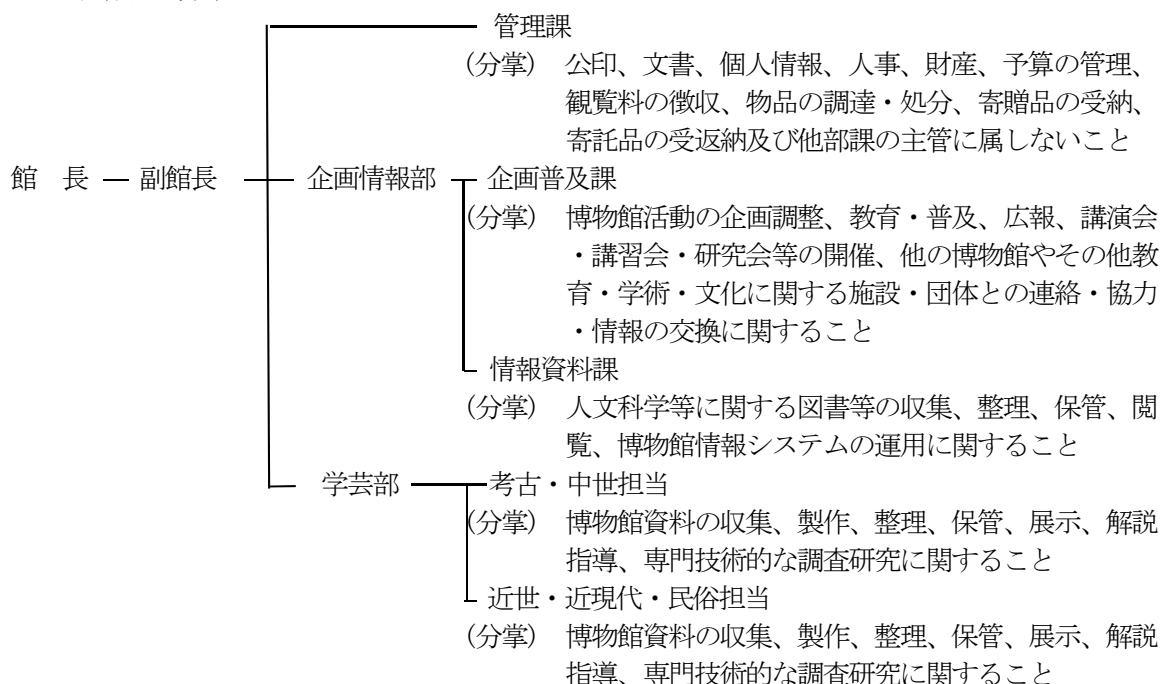
かながわの歴史や文化に関する様々な貴重な資料を適切に保存・活用し、未来につなぐとともに、専門性を発揮した調査研究活動を着実に進め、特色を生かした魅力ある展示や講座等を展開し、地域や関係機関等とも連携しながら、人生100歳時代において生涯にわたる県民の学びを支援します。

2 管理運営

(1) 組織

(令和2年4月1日現在)

ア 組織及び分掌



イ 職員名簿

館長(技術)	薄井 和男	非常勤写真職	井上 久美子
副館長	吉田 浩	非常勤資料整理員	檜皮 千穂
管理課長	岡崎 郁夫	非常勤資料整理員	加茂 たがね
管理課 副主幹	阿部 雅明	非常勤事務補助員	三瓶 裕子
主査	上松 純子	非常勤事務補助員	神津 由紀子
主事	肥田野 希	非常勤事務補助員	泉山 花江
主任専門員	竹内 廣一	学芸部長	望月 一樹
非常勤事務補助員	西村 純子	専門員	新井 実
非常勤事務補助員	沼田 とも子	非常勤事務補助員	杉山 誠
非常勤事務補助員	佐々木 誠	非常勤資料整理員	吉澤 智恵子
非常勤自動車運転員	大塚 清志	非常勤資料整理員	中村 菜貴
企画情報部長	小森 晴美	(考古・中世担当)	
企画普及課長	丹治 雄一	主任学芸員	小井川 理
企画普及課 主査	岡田 和子	主任学芸員	千葉 毅
主任主事	田村 佳大	学芸員	神野 祐太
学芸員(兼務)	武田 周一郎	学芸員	橋本 遼太
非常勤博物館学習指導員	中澤 洋	学芸員	渡邊 浩貴
非常勤事務補助員	松井 礼子	学芸員	梯 弘人
非常勤事務補助員	野島 愛子	(近世・近現代・民俗担当)	
非常勤資料整理員	渡邊 実華子	主任学芸員	嶋村 元宏
非常勤学芸員	豊田 倫子	主任学芸員	桑山 童奈
非常勤学芸員	市野 悦子	主任学芸員	角田 拓朗
非常勤学芸員	福田 真由美	学芸員	新井 裕美
情報資料課長	宇賀田 信	学芸員	武田 周一郎
主査	小川 和哉	学芸員	寺西 明子
主任専門員	森 由紀	非常勤学芸員	根本 佐智子
専門員	黒田 博明	非常勤学芸員	三浦 麻緒
非常勤司書	鈴木 隆雄		

(2) 歳入・歳出

ア 歳入

(単位：千円)

科 目	金 額	内 訳
教育使用料	9,775	観覧料収入、目的外使用許可使用料
教育費国庫補助金	3,548	国庫補助金
公有財産売却収入	295	ぐるっとパス清算金
教育事業収入	3,295	図録販売収入
教育受講料収入	189	県立社会教育施設公開講座受講料
教育立替収入	181	ミュージアム・ショップ、喫茶等の光熱水費
雑入	24	複写代、芸術文化助成
合 計	17,307	

イ 歳出(人件費含まず)

(単位：千円)

事 業 名	金 額	内 訳
教育施設維持修繕費	1,163	施設・設備の修繕
県立社会教育施設公開講座事業費	78	講座の開催
維持運営費	66,736	維持管理・事業運営
博物館事業費	24,603	展示事業、調査研究、資料整備、学習支援等
情報システム整備費	51,160	システム運用、データ入力等
合 計	143,740	

(3) 入館者状況

ア 入館者数

(単位：名)

月	展示室入館者			フリーゾーン 利用者	合 計
	有料入館者	無料入館者	小 計		
4	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0
6	666	128	794	225	1,019
7	1,115	280	1,395	128	1,523
8	2,301	554	2,855	162	3,017
9	6,812	1,450	8,262	311	8,573
10	4,785	1,348	6,133	328	6,461
11	6,798	2,561	9,359	101	9,460
12	1,369	847	2,216	229	2,445
1	357	173	530	28	558
2	0	0	0	0	0
3	525	326	851	201	1,052
合計	24,728	7,667	32,395	1,713	34,108

イ 有料入館者内訳

(単位：名)

月	個人				団体(団体扱い含む)				合計
	20歳以上	20歳未満	高校生	65歳以上	20歳以上	20歳未満	高校生	65歳以上	
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	432	32	7	128	67	0	0	0	666
7	683	64	14	204	150	0	0	0	1,115
8	1,240	146	27	319	457	28	0	84	2,301
9	2,456	196	39	1,490	1,867	88	0	676	6,812
10	1,389	139	42	1,369	1,077	45	0	724	4,785
11	1,908	165	62	1,969	1,491	73	0	1,130	6,798
12	502	60	33	289	380	16	0	89	1,369
1	128	20	0	57	114	6	0	32	357
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	266	35	12	153	58	1	0	0	525
合計	9,004	857	236	5,978	5,661	257	0	2,735	24,728

ウ 無料入館者内訳

(単位：名)

月	条例別表備考欄指定の無料入館者				減免による無料入館者							合計
	未就学 幼児	小学生	中学生	特別 支援 学校	高校生	生徒 引率 者	優待 券	招待券	障が い者	ぐるっ とパス 入場券	その 他	
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	15	42	4	0	0	0	3	13	34	6	11	128
7	23	84	13	0	1	0	1	9	63	46	40	280
8	32	171	33	18	0	1	2	43	88	91	75	554
9	32	189	124	0	11	11	28	556	210	180	109	1,450
10	29	164	160	0	24	10	16	554	158	130	103	1,348
11	38	371	428	0	12	15	20	1,106	229	160	182	2,561
12	7	365	40	0	0	24	8	147	67	112	77	847
1	2	10	1	0	2	0	4	103	25	11	15	173
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	7	35	147	0	0	1	5	61	24	19	27	326
合計	185	1,431	950	18	50	62	87	2,592	898	755	639	7,667

エ 特別展の入館者状況(前掲表内数)

(単位：名)

特 別 展 名	有料鑑賞者	無料鑑賞者	合 計
明治錦絵×大正新版画	4,464	1,255	5,719
相模川流域のみほとけ	6,865	3,546	10,411
かながわの正月	648	646	1,294
合 計	11,977	5,447	17,424

(4) 広報・広聴

ア 広報実績

令和2年度の広報実績は次のとおり(館のPR、特別展・テーマ展、催しもの等)。

(単位：件)

媒体別	紙媒体				電波媒体		インター ネット	計
	新聞	雑誌	単行書	その他	テレビ	ラジオ		
件数	84	47	0	5	34	3	89	262

イ ホームページアクセス件数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
HP	62,785	81,141	97,472	92,818	115,221	162,755	137,264	124,107	92,344	98,930	82,036	109,591	1,256,464

参考(内数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
デジタル ミュージアム	1,025	1,541	1,632	1,257	1,372	1,673	1,390	1,175	1,243	1,186	1,109	1,307	15,910

ウ Twitter ツイート数・フォロワー数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
Twitter ツイート数	16	23	25	27	29	73	28	35	26	27	21	26	356
Twitter フォロワー数	9,254	9,300	9,320	9,348	9,368	9,474	9,609	9,663	9,681	9,737	9,762	9,790	—

(5) 事業評価

平成30年度から県立社会教育施設(県立図書館、川崎図書館、金沢文庫、近代美術館、生命の星・地球博物館、当館)において、事業評価を実施することとし、全館共通の評価項目による「社会教育施設評価書(目標設定・実施結果)」(以下、全館共通評価)を作成している。

また、令和元年度からは、全館共通評価に加えて、「神奈川県立歴史博物館評価書(社会教育施設個別評価)」(個別評価)を作成し、当館が独自に設定した評価指標による事業評価をあわせて実施している。

令和2年度における事業評価の概要は次のとおりである。

ア 各目標値および評価指標の達成状況

	達 成 (目標値 ≥ 100%)	ほぼ達成 (目標値 ≥ 80%)	未 達 (目標値 < 80%)	—
全館共通項目	4	4	0	4
個別評価項目 (定量評価)	5	3	0	8

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う臨時休館等が達成値へ大きな影響を与えた項目については「達成度」を記載せず「—」とした。

	達 成 (チェックリストクリア数 80%以上)	ほぼ達成 (同クリア数 50%以上80% 未満)	未 達 (同クリア数 50%未満)
個別評価項目 (定性評価)	14	0	0

イ 総括

新型コロナウイルス感染症による2度の臨時休館〔令和2年4月1日～6月7日及び令和3年1月12日～3月31日（3月23日以降は事前予約をした方に限り入館）〕の影響は事業全般に大きく及び、観覧者や講座等参加者、学校の団体利用を含む入館者数、観覧料及び事業等収入も激減したが、1日当たりの観覧者数は健闘したと言える。これは、担当学芸員の独自企画による展示の魅力はもとより、展示内容紹介の特設ページをHP上に開設するなどの工夫や、HP・ツイッター等による継続的な情報発信なども寄与したと考える。また、新たな取り組みとして、コロナ禍でうち時間が増えた子ども向けにHPに「うちでかながわけんぱく」を開設したり、常設展示室に子ども向けの資料解説「子どもキャプション」を設置したり、高等学校の日本史の学習内容とリンクした常設展ガイド「高校生のための展示資料50」をHPに掲載したりするなど、当館の魅力発信や来館者サービスを工夫したことは特筆される。このほか、バリアフリーアドバイザーによる調査を依頼し、来館者サービスを高める取り組みを実施した。

再開準備から職員が一丸となってコロナ対策に様々な取り組み、来館者の方々の手指消毒等のご協力のもと、当館で感染者を出さずに運営できたことは誇るべき成果である。今後も感染症対策に万全を期して運営を継続するとともに、オンラインによる展示の補完や講座をはじめとして、ウィズコロナ、アフターコロナにおける博物館活動について検討を進める必要がある。

(6) 施設概要

ア 概要

(ア) 施設の規模

敷地面積	4,160.82 m ²
構造	石・煉瓦造り（一部鉄筋コンクリート造り）地上3階・地下1階
延床面積	10,565.47 m ²
部門別面積	展示部門＝約3,896 m ² 、学習支援部門＝約386 m ² 、収蔵部門＝約619 m ² 研究部門＝約1,306 m ² 、サービス部門＝約438 m ² 、管理部門＝約1,251 m ² その他共用部分＝約2,670 m ²

(イ) 建物の特徴

旧館部分	旧横浜正金銀行本店本館(明治37年(1904)竣工、設計：妻木頼黄) ネオ・バロック様式
新館部分	神奈川県立博物館として新築(昭和42年(1967))
指定状況	国指定重要文化財(建物旧館部分・昭和44年(1969)3月12日指定) 国指定史跡(平成7年(1995)6月27日指定)

(ウ) 施設の状況

- 1 階：【展示室、学習支援関係諸室】
特別展示室、コレクション展示室、
ミュージアムライブラリー、ミュージアムショップ、喫茶室、情報処理室 等
- 2 階：【展示室、管理課・企画情報関係諸室】
総合テーマ展示室(近世・近代・現代、民俗)
館長室、管理課、企画情報部、応接室、図書整理室、書庫 等
- 3 階：【展示室、学芸部関係諸室】
総合テーマ展示室(古代・中世)

学芸部、資料整理室、保存修復処置室/印刷室、作業室 等
 地下1階：【講堂、バックヤード諸設備】
 講堂、写場、写真整理室、その他機械室 等

イ 館内施設

1階のフリーゾーンには来館者のために次の施設がある。

(ア) ミュージアムショップ

博物館の刊行物(展示解説書、特別展図録)をはじめ、神奈川の文化や歴史に関する書籍、所蔵資料の絵はがき、博物館見学の記念になるような品々を販売する。運営は民間の企業が行っている。

(イ) 喫茶室 (喫茶ともしび)

来館者に休憩してもらえるように喫茶室がある。喫茶の他、軽食を提供し、店内には県内の福祉施設で作られた品々も販売されている。運営は「社会福祉法人 県央福祉会」が行い、知的障がい者の就業の場ともなっている。

(ウ) ミュージアムライブラリー

県民の学習活動を支援する場として設置している。図書、情報システム端末(デジタルミュージアム用)などがあり、展示を中心とした神奈川の歴史や文化について学ぶことができる。

ウ 館外施設

昭和42年(1967)の開館以来継続的に収集してきた資料により、館内の収蔵庫の狭隘化が進行してきたため、現在、神奈川県教育委員会生涯学習部文化遺産課が所管する「文化遺産課収蔵センター」(旧神奈川県立野庭高等学校校舎)の一角を「野庭資料庫」(旧体育館、面積3,100.84㎡)として占有し、民俗資料等の一部を収蔵している。

エ 外部協力

神奈川県立歴史博物館には、県内の博物館の質的向上や文化財に対する普及啓発を行う次の外部団体の事務局が設置されている。

(ア) 神奈川県文化財協会

昭和29年(1954)から活動している任意団体である。現在は会員に対しての講演会、見学会など文化財に関する知識の啓発活動を中心に活動している。協会員数207人(令和2年4月1日現在)。

事務局長	副館長	吉田 浩
事務局次長	学芸部長	望月 一樹
事務局員	企画普及課長	丹治 雄一
〃	学芸員	橋本 遼太
〃	学芸員	武田 周一郎
〃	主査	上松 純子
〃	主事	肥田野 希
〃	専門員	新井 実

(イ) 神奈川県博物館協会

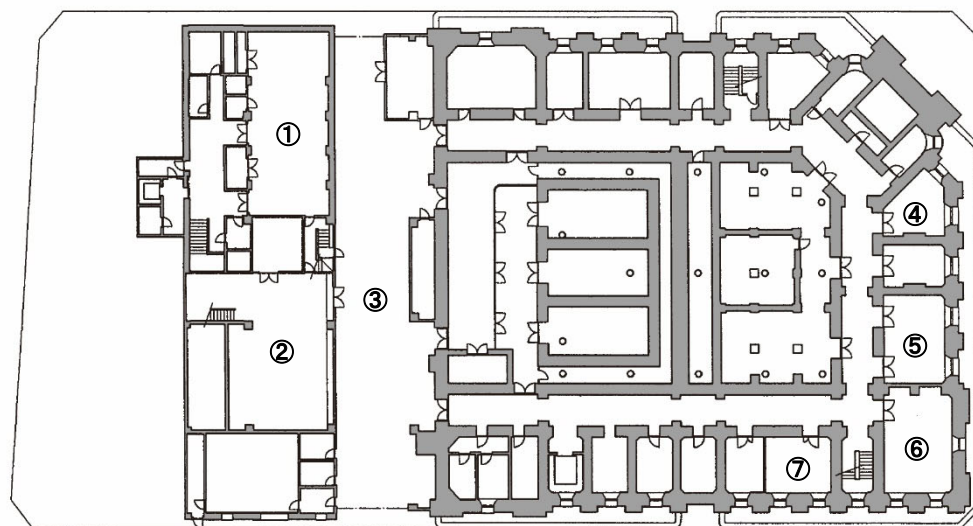
昭和30年(1955)から活動している県内博物館施設の任意団体で、博物館のPR、職員の研修、会報の発行など各種活動を行っている。加盟館園数98館(令和2年4月1日現在)。

会長	館長	薄井 和男
事務局長	副館長	吉田 浩
事務局次長	学芸部長	望月 一樹
人文科学部会幹事	学芸員	新井 裕美
事務局員	主任専門員	竹内 廣一
〃	非常勤事務補助員	杉山 誠

オ 平面図

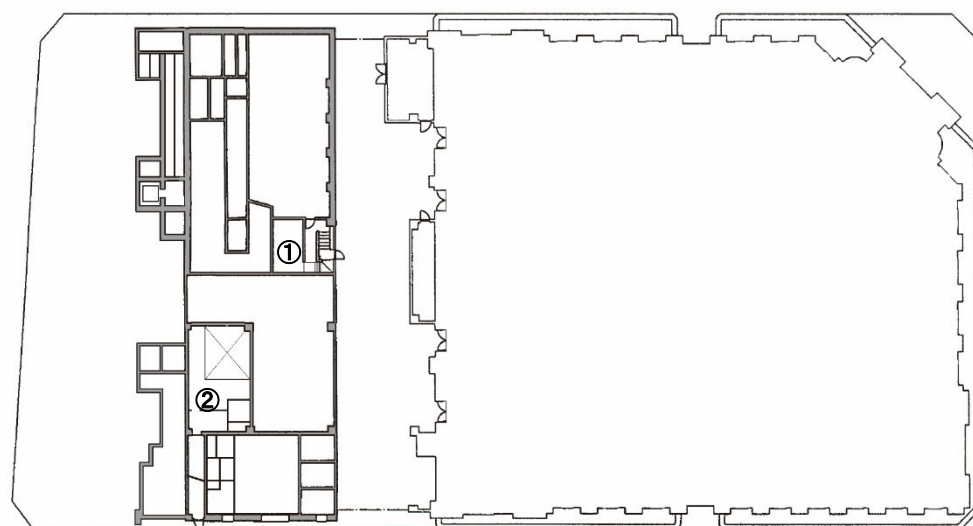
地階

- ①講堂
- ②空調機械室
- ③サービスヤード
- ④資料クリーニング室
- ⑤展示準備室
- ⑥写場
- ⑦写真整理室



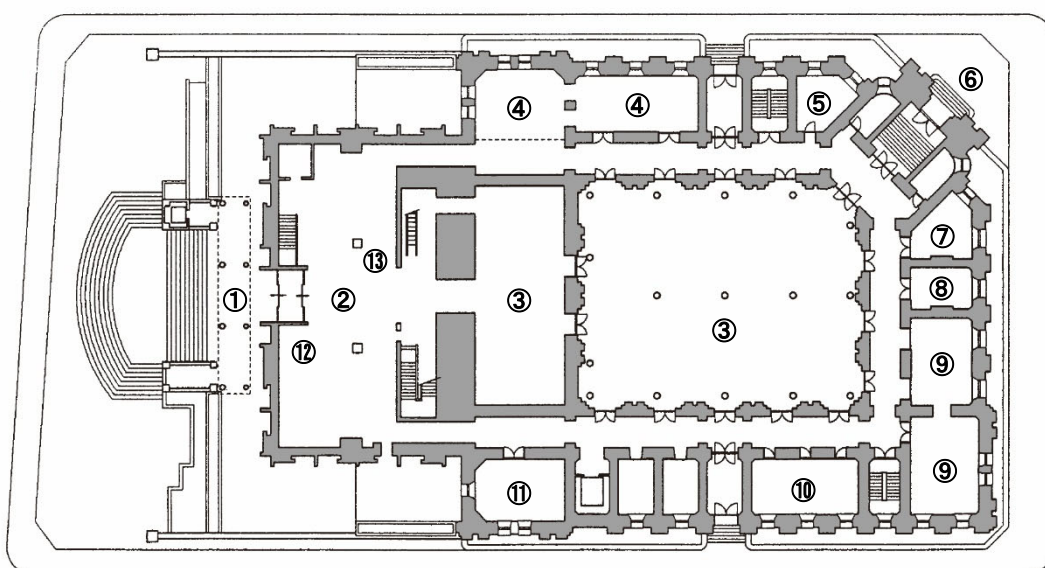
中1階

- ①映写室
- ②中央監視室



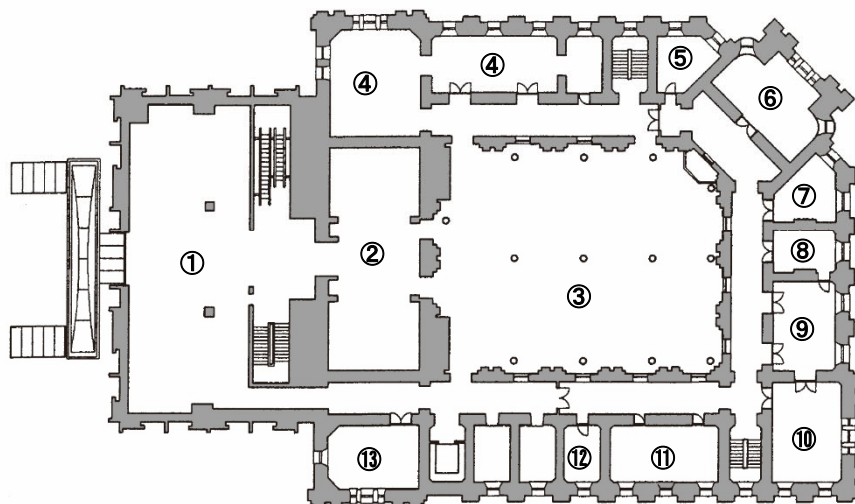
1階

- ①正面玄関
- ②エントランスホール
- ③特別展示室
- ④コレクション展示室
- ⑤ボランティアルーム
- ⑥馬車道玄関
- ⑦情報処理室
- ⑧書庫
- ⑨ミュージアム
ライブラリー
- ⑩会議室
- ⑪喫茶室
- ⑫ミュージアム
ショップ
- ⑬総合受付



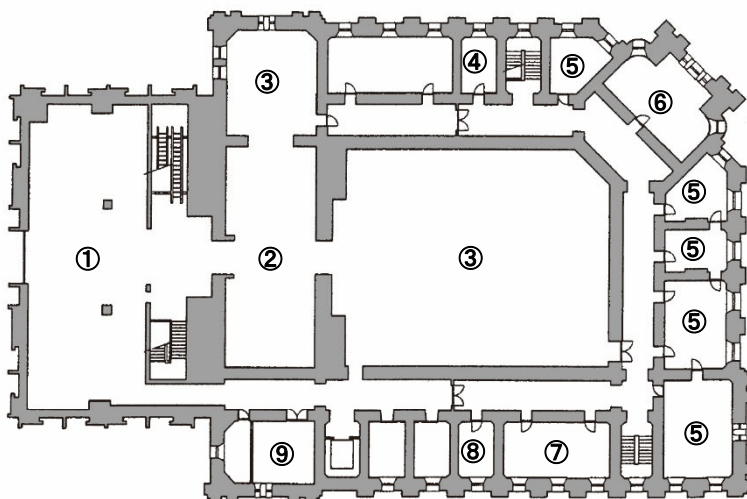
2階

- ①総合テーマ展示室 テーマ 3
- ②総合テーマ展示室 テーマ 4
- ③総合テーマ展示室 テーマ 4/5
- ④総合テーマ展示室 テーマ 5
- ⑤図書整理室
- ⑥書庫
- ⑦電話交換室
- ⑧館長室
- ⑨応接室
- ⑩管理課室
- ⑪企画情報部室
- ⑫第2 応接室
- ⑬空調機械室



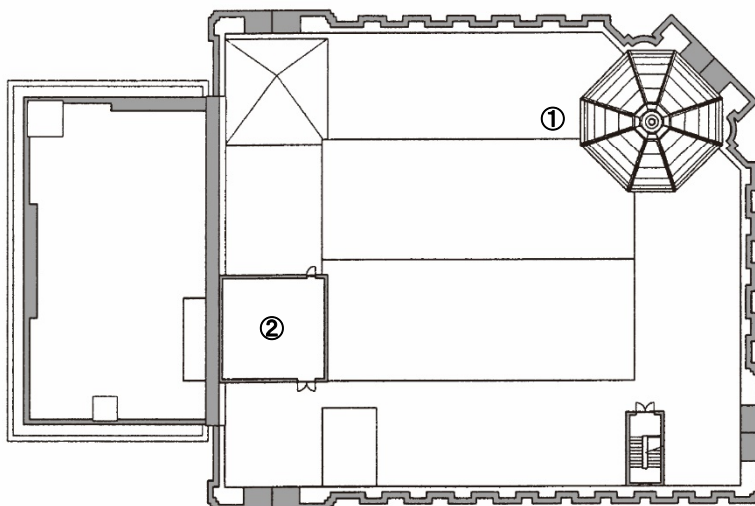
3階

- ①総合テーマ展示室 テーマ 1
- ②総合テーマ展示室 テーマ 1/2
- ③総合テーマ展示室 テーマ 2
- ④畳敷作業室
- ⑤資料整理室
- ⑥保存修復処置室／印刷室
- ⑦学芸部室
- ⑧共同作業室
- ⑨空調機械室



屋上

- ①ドーム
- ②空調機械室



3 調査・研究

(1) 館独自の研究事業費によるもの

ア 総合研究

研究課題：神奈川県域における大正・昭和期の文化財保護・地域史研究と在野研究者の関係性をめぐる研究

研究代表者：主任学芸員 千葉 毅

研究分担者：学芸員 武田 周一郎、学芸員 神野 祐太、元三浦市教育委員会 須田 英一 氏

研究期間：平成30～令和2年度

概要：神奈川県域における当該期の文化財調査・保護に携わった人物のうち、赤星直忠に焦点をあて、赤星の残したフィールドノート（赤星直忠博士文化財資料館所蔵、全6冊）の整理を進めた。フィールドノートは、全ページをデジタル化のうえオンライン公開（PDF版、デジタルアーカイブ）することとした。また、当館が所蔵する赤星直忠旧蔵資料群の再リスト化を行い、全点の写真とともに『神奈川県立歴史博物館資料目録 赤星直忠旧蔵資料目録』として刊行した。

イ 個別研究

研究課題：本光寺文書の研究

研究代表者：学芸員 梯 弘人

研究期間：令和2年度

概要：当館に所蔵される「本光寺文書」の研究を行った。本光寺は、戦国大名北条氏によって小田原城下に建立された寺院であり、本光寺に伝来した文書が、「本光寺文書」である。本光寺が属する大徳寺関東龍泉派と、檀越であった戦国大名北条氏の関係に着目して、考察を行った。本研究の成果として、論文「本光寺にみる北条氏と大徳寺関東龍泉派の関係」を当館発行の研究報告へ投稿した。

ウ グループ研究

次のテーマでグループごとに研究を進めている。

考 古：神奈川県内遺跡・遺物調査

中 世：宋風文化の研究

近世・近代：横浜の木版印刷に関する基礎的研究

現 代：戦後横浜における映画館活動に関する基礎的研究

民 俗：民俗社会における贈答慣行

エ 調査研究成果報告会

（第1回）

開催日時：5月12日（火）紙上報告

内 容：総合研究および個別研究の成果などについて報告した。（令和元年度分）

(ア) 総合研究

発表者：主任学芸員 千葉 毅

テーマ：神奈川県立金沢文庫、横須賀市自然・人文博物館保管考古資料と赤星直忠

概要：大正～昭和期の在野考古学研究者旧蔵資料の来歴調査を行った。具体的には、神奈川県立金沢文庫保管の来歴不詳の考古資料および横須賀市自然・人文博物館が保管する赤星直忠旧蔵とされている考古資料の調査により、横須賀市自然・人文博物館が保管する資料の中に、かつて金沢文庫で保管されていた可能性のある資料が存在していることを指摘した。その背景として赤星直忠と横須賀考古学会の存在、行政による文化財保護、博物館運営の黎明期という時代背景が反映されていることを指摘した。なお、本発表は総合研究の成果の一部である。

(イ) 個別研究

発表者：学芸員 渡邊 浩貴

テーマ：鎌倉御家人の音楽環境と京・鎌倉・本拠

概要：本報告では、京都の貴族社会で育まれた音楽文化がどのように武家権門である鎌倉幕府や御家人たちに受容されていたのかを検討したものである。その概要を以下に記すと、当初、鎌倉幕府には音楽儀礼を実施するほどの人材が揃っておらず、京都の地下楽人を招き実施していた。こうした状況から次第に幕府では独自に楽人を編成するようになり、鶴岡八幡宮寺など都市鎌倉内でも音楽伝習がされるようになっていき、さらに地方の御家人本拠地でも音楽文化が根付くようになっていった。本研究では、「音楽」という視点から鎌倉幕府や御家人の文化受容の様相を明らかにした。

(ウ) 自由論題

a 発表者：学芸員 梯 弘人

テーマ：めざせ桜井武兵衛！！ ～桜井武兵衛よりもさらに下級の武士たちについて～

概要：当館所蔵の「桜井家文書」に記載される「同心給」について考察した。「同心給」により編成される存在は、「一騎合」と呼ばれる下層武士であり、直接北条氏当主と主従関係を結んでいる家臣に付属されたと考えられている。この仕組みは「寄親・寄子制」として定義されている。関連資料を確認すると、資料上では「寄子を預ける」と表現される一方、実態として寄親となる家臣が寄子となる下級武士を集める必要があること、寄親が寄子の勤怠管理を行うことが定められているものの、管理監督責任に関する罰則がないなどの事実を確認することができた。最期に、紅林氏という武士を取り上げ、寄子として編成されるまでを確認した。戦で功績をあげるだけでは北条氏と直接の主従関係を結ぶことができず、久木氏という家臣のもとでさらに北条氏への奉公を続けたあと、久木氏の寄子として編成された。

b 発表者：学芸員 橋本 遼太

テーマ：時衆教団形成期における遊行上人の肖像観と時宗の絵画について

概要：特別展「真教と時衆」(2019年)の開催を機に得た知見を以下の3点に絞って報告した。第1に、時衆教団形成期における遊行上人の肖像観そして当館所蔵の一遍上人像について、第2に、時衆教団が生んだ絵画における型の踏襲について、第3に遊行上人縁起絵巻真光寺本にみられる錯簡について。

c 発表者：学芸員 神野 祐太

テーマ：他阿真教像について一関東の肖像彫刻を中心に

概要：肖像彫刻(祖師像)の研究は膨大にあるものの時宗祖師像についての研究は少ないのが現状である。今回、関東近郊の寺院に伝わる時衆二祖他阿真教の彫像を実査し、基礎データを得ることができた。そのうえで各像を比較検討し、真教像を時衆史の中に位置づけた。

d 発表者：主任学芸員 小井川 理

テーマ：鎌倉彫における学校用標本製作について

概要：鎌倉彫博古堂の明治期の受注記録には「標本」「学校用標本」と記載されるものが散見される。「標本」として受注している製品の多くは「瓶台」であり、現在「瓶敷」の名で流通するものと近い機能と形状を持っていたと考えられる。形状やサイズ、文様に一定の規格があり、比較的安価な価格帯の商品で、地理歴史等の教育標本を取り扱う複数の業者を取引先としていた。「瓶台」(瓶敷)は瓶鍋の下に敷き床や卓に熱を直接に伝えないために使われたものと解されるが、円形板を彫って文様を表わし漆をかけて仕上げるシンプルな構造の器物であり、故に木彫漆塗という鎌倉彫の技法的特色をわかりやすく示す見本にふさわしく、板状で規格の整った点が出荷輸送にも効率であったこともあって、学校用標本としての機能を期待されたのではないかと考える。学校教育における標本の需要は、明治10年代から始まり昭和戦前期まで継続し、その後は衰退するとされる。鎌倉彫における学校用標本製作の様相は近代社会の中で鎌倉彫が担った仕事の一端を示すものとして注目される。

e 発表者：学芸部長 望月 一樹

テーマ：帷子川河口域における新田開発について

概要：川崎沿岸において海中新田開発を構想し、宝暦12年に池上新田の開発に成功した池上太左衛門幸豊は、幕府の命を受け新開場見立てを実施した。本報告の帷子川河口域の新田開発も、幸豊の見立てを契機に始まり、以後幕末に至るまで継続的に進められていった。そこでこれまでの研究を整理しつつ、あらためてその経過と実態について考えた。

f 発表者：非常勤学芸員 根本 佐智子

テーマ：幕末期地方藩士による江戸在勤日記の基礎的研究について

概要：本研究は神奈川県立歴史博物館所蔵『松平造酒助江戸在勤日記』（全五十冊）を翻刻し、日記の内容を整理するとともに、松平造酒助の国元である鶴岡市にある関連資料と比較検討し、幕末期地方上級藩士における江戸勤番中の公務・諸相を研究し、理解を深めることを目的とする。鶴岡市立郷土資料館所蔵「松平武右衛門文書」の調査を行ったところ、系図によって松平造酒助の生年や家族関係が判明した。また、200件あると考えられていた造酒助江戸在勤中の書簡は97件で、年代順にならべることで『日記』との対照が可能となった。江戸へ出立した日、庄内に帰した日、江戸での住環境や長州征伐御供御免以降造酒助が積極的に取り組む藩への西洋砲銃導入の様子が明らかとなった。

g 発表者：主任学芸員 嶋村 元宏

テーマ：仙台藩儒・大槻磐溪の情報収集活動について

概要：本報告は、科研費『開国期・危機的状況下における知識人の情報活動と意思決定過程に関する研究』（18K00952）の成果の一部である。仙台藩儒・大槻磐溪によるペリー第2回来航時の情報収集活動について自ら記した『米夷紀事』（国立国会図書館所蔵）を紹介し、主に以下の2点を明らかにした。大槻磐溪のペリー再来航にかかわる情報収集活動について、同行した人物として門人・横手新太郎、駒三、仙台藩御用絵師・辻探昌、銚子出身の宮内彦太郎が判明した。また、浦賀奉行所与力・中島三郎助、同・香山英左衛門、上田藩士恒川才八のほか、中津藩士、長州藩士、某藩士、吞存山人など、幕府役人や諸藩士、身分不詳の者たちからも情報を得ていた。また、封建的で非開明的であり、海外事情に疎い者たちとの評価がなされてきた儒学者が、ペリー来航時における探索活動を担っていたこと、特に昌平黌関係者によって重要情報が共有化されるなど、儒学者情報ネットワークと呼ぶべきシステムが構築されていたことを明らかにしてきたが、あらたに磐溪の画像作成に昌平黌に関わる林大学頭、松崎満太郎が直接的に関与していた。

h 発表者：企画普及課長・学芸員 丹治 雄一

テーマ：真鶴町教育委員会所蔵「土屋文雄氏所蔵資料」について

概要：本報告では、真鶴町教育委員会が所蔵する近代の神奈川県を代表する石材企業家であった土屋大次郎および土屋家の事業活動に関する資料で構成される資料群「土屋文雄氏所蔵資料」の概要を、これまで調査を継続してきた同じく土屋大次郎に関わる資料群である神奈川県立公文書館所蔵「土屋家文書」との関連も交えて紹介した。同資料には、茨城県内の石材企業家らが中心となって1907（明治40）年に設立した帝国石材株式会社の設立に関わる資料や、昭和戦前期に行われた日本銀行本店増築棟建設への土屋家からの石材納入などの新資料が含まれていることが判明した。詳細調査は今後の課題であるが、「土屋文雄氏所蔵資料」を含む土屋大次郎および土屋家の事業活動に関する一連の資料群は、近代の石材産業史の実態解明につながる重要な資料群であることを指摘した。

i 発表者：学芸員 武田 周一郎

テーマ：朝鮮総督府臨時土地調査局「地形通報」に関する基礎的研究

概要：1910年代の朝鮮総督府臨時土地調査局における地図作製の動向を理解するため、同局技術課地形科の「地形通報」を分析した。その結果、測量成果を図化する工程で地名の情報や地

物の描法に関して、測量原図の精度に個人差が生じていた実態が明らかになった。例えば、楮剥地の描法が各人各様で規程を無視したものが多かったことが挙げられる。

j 発表者：学芸員 新井 裕美

テーマ：神奈川県と千葉県の湯立神事について

概要：本発表では、神奈川県内及び本県周辺で神事として催行されている湯立及び神楽を分析対象とした。現在でも神奈川県内では、旧相模国鎌倉郡・同国三浦郡・旧武蔵国久良郡・同国橋樹郡地域鎌倉郡、三浦郡、旧武蔵国久良岐郡、同国橋樹郡において湯立及び神楽が盛んに催行されている。また、地理的にも近い東京都や房総半島にも湯立神事が多数催行されており、今回は主に千葉県の調査結果の概要を報告した。

k 発表者：非常勤学芸員 三浦 麻緒

テーマ：大草家神楽衣裳と地芝居衣裳

概要：大草家は旧津久井郡根小屋村の神楽の元締家である。江戸時代より根小屋村の神職をつとめた。明治以降は、記紀神話を題材とした神代神楽（里神楽）のほか面芝居や地芝居（農村歌舞伎）も行ったが、1965（昭和40）年の上演を最後に廃業した。当館では、大草家より寄贈を受けた地芝居資料群と神楽資料群を所蔵している。今回は、1970（昭和45）年に寄贈を受けた地芝居資料群（79点）の再整理について報告した。

l 発表者：主任学芸員 桑山 童奈

テーマ：錦絵にみる文明開化―青空の横浜から赤い空の東京への変遷

概要：安政6年の開港以後、新しく造られた横浜の町や外国人がもたらした西洋の文化を描いた横浜浮世絵について2019年に展覧会を開催した。その後の課題として、明治期に風景を描いた錦絵について横浜浮世絵からの連続性を考察するために文明開化の表現と空の色に注目して調査した。明治元年に江戸から改称して、横浜に代わって西洋化の先端を走り続けた東京の町には新しい建造物や乗り物があらわれた。その様子を描いた錦絵を開化絵と呼ぶが、空（天）一面が真っ赤なものが少なくない。また、将軍に代わって旧江戸城の主となった天皇と皇后（昭憲皇太后）の様子を描いた錦絵が盛んに出版された。都内各所に出かけた天皇・皇后のいる風景を描いた錦絵にも空が赤い作品が少なくない。開化絵＝赤絵であることは、これまでも理解されているが、本研究では横浜浮世絵からの連続性を考察するために、空が真っ赤に表現される時期と風景であっても空が赤く表現されなかった題材について調査した。

m 発表者：主任学芸員 角田 拓朗

テーマ：五姓田派の在外作品調査研究

概要：2019年6月におこなった五姓田派の在外作品調査研究について、その後、国内での追加調査などで明らかになったところを追加した。特に、ガーンジー島に所在した作品群のコレクターである、ジェイムス・サマレーズの日本国内の履歴について、クリストファー・ドレッサーと行動をともし、国内を周遊していた事実を指摘した。

n 発表者：非常勤資料整理員 中村 茉貴

テーマ：創造美育協会が戦後美術に与えた影響―島崎清海資料群の調査を中心に

概要：創造美育協会本部事務局長を約16年務めた島崎清海の資料から、同協会の活動を調べ、戦後美術に与えた影響関係を考察した。特に目立った取り組みとして、①美術教育、②版画普及、③コレクターの育成、④美術家支援の事例を紹介し、さまざまな人やモノが交流する「場」を提供する運動を行っていたことを発表した。

（第2回）

開催日時：3月9日（火） 口頭報告・紙上報告

内容：総合研究および個別研究の成果などについて報告した。（令和2年度分）

《口頭報告》

(ア) 総合研究

発表者：主任学芸員 千葉 毅

テーマ：当館所蔵の赤星直忠旧蔵資料群と赤星直忠考古学研究資料デジタルアーカイブについて

概要：総合研究の一環として刊行した『赤星直忠旧蔵資料目録』および、『赤星直忠考古学研究資料デジタルアーカイブ』について報告した。『目録』は、考古分野、民俗分野、歴史分野にわたる当館所蔵赤星直忠旧蔵資料群の全貌を刊行したものである。『デジタルアーカイブ』は、赤星直忠博士文化財資料館が所蔵する『考古学研究資料』全6巻の全ページをデジタル化し、メタデータとともにデジタルアーカイブとしてCC-by(クリエイティブ・コモンズによるライセンス表示)で公開する試みである。三浦半島を中心として、神奈川県域の文化財に関する広く深い記録を含むこの資料をデジタルアーカイブとして公開することは、当該地域の地域史を考えるうえで大変意義のあることと考えている。

(イ) 個別研究

発表者：学芸員 梯 弘人

テーマ：本光寺文書とその周辺

概要：当館所蔵の本光寺「本光寺文書」をとおして、本光寺のありかたについて考察を行った。本光寺について、北条氏一門の菩提寺としての位置づけを確認した。北条氏から土地を寄進され、税金の免除も認められるなど、本光寺は特権的な寺院であると考えられる。住持職の継承に関わる史料も残されており、本光寺の本寺である早雲寺との関わりを確認することができた。なお早雲寺と本光寺との関係については今後検討すべき課題であると考えている。また北条氏当主から祈祷への礼状が送られていることも確認できた。本光寺には、北条氏一門の死後を弔う菩提寺としての性格のほか、北条氏当主の現世利益を祈る祈願寺としての性格があったのではないかとと思われる。

(ウ) グループ研究

発表者：学芸員 新井 裕美

テーマ：正月に子どもたちが各戸をまわる行事について

概要：発表者は、令和2年度特別展「かながわの正月」において、小正月における子ども行事を取り上げた。本発表はその展示にかかる基礎的研究として各地の事例を収集したものである。神奈川県には1月14日前後に、正月に子どもたちが各戸をまわる行事として、どんど焼きの材料集め、福おどり、アクマツパライ、オカリコ（大磯町大磯）、チャッキラコ（三浦市三崎）、カセドリなどがある。今回は何かしらの門付け芸のような口上が伴う行事に着目した。また、静岡県伊豆半島や山梨県の富士・東部地域の類例も収集した。

(エ) 自由論題

a 発表者：学芸員 神野 祐太

テーマ：相模川流域の仏像

概要：令和2年度秋に開催した特別展「相模川流域のみほとけ」の事前調査やその後の調査での知見を報告した。海老名市・龍峰寺千手観音菩薩立像の製作年代と茅ヶ崎市・宝生寺阿弥陀如来及び両脇侍立像の伝来について考察した。また、海老名市・国分寺不動明王坐像について奈良仏師の作である可能性を指摘した。

b 発表者：主任学芸員 嶋村 元宏

テーマ：幕末期における対外関係文書は如何に読まれた—大槻磐溪の書き込みを手掛かりに—

概要：本報告は、嘉永5年夏、新任オランダ商館長ドンケル・クルティウスから幕府へ提出されたアメリカの対日政策に関する情報書の受取の顛末がまとめられた「和蘭告密書御請取始末」（宮城県図書館所蔵）を、仙台藩儒者・大槻磐溪が如何に読んだかということに関して、磐溪が記した書き込みをとおして明らかにしたものである。この作業により、磐溪はオランダの真意を理解しようとし、幕府の対応を批判的に見ていたことが明らか

かになった。また、磐溪が幕府の対外政策を如何に評価していたかを具体的に知ることができた。「和蘭告密書御請取始末」を入手した嘉永6年のペリー来航直後は、アメリカからの要求を拒絶すべきとの立場にあったことを明らかにした。すなわち、磐溪は当初から西洋諸国すべてに対して全面的な「開国」を認めようという立場はなかったのである。なお、磐溪がいつから、何を契機として、アメリカを含む西洋諸国への「開国」に積極的な立場となったかについては、今後の課題として残された。

- c 発表者：非常勤資料整理員 中村 栄貴

テーマ：創造美育協会の活動とその関係者—島崎清海宛書簡から読み解く

概要：島崎清海が保管していた書簡類約500通を中心に調査を進めた。美術評論家・美術家との交流関係が読み取れる書簡を挙げ、その中でも創造美育協会の活動の軸としていた刊行物の編集、セミナー等の開催について触れた文脈を一部紹介した。同時に本資料群が他分野にわたる先行研究に関連し、広く活用される見込みがあることも説明した。

《紙上報告》

- a 発表者：学芸員 渡邊 浩貴

テーマ：中世鎌倉音楽史の射程—都市鎌倉の音楽とその展開をめぐって—

概要：本報告は、中世鎌倉での音楽受容の実相を鎌倉期を通じて検討するものである。本研究では、中世鎌倉での音楽受容のあり方の時期を「楽人招請型」と「独自編成型」の二つに分類して検証し、それぞれの期間での京都楽人と都市鎌倉・鎌倉幕府の関わりや実際に音楽儀礼を担った鎌倉側の人材、政治的な影響を考察した。検証の過程で、鎌倉幕府が京都政界との交流を深めれば深めるほど、音楽受容のあり方はより濃密なものとなる経緯がうかがえるとともに、その一方で鎌倉で独自の音楽文化も育まれるようになった。かかる音楽受容の経過から鎌倉側での京都文化のとらえ方などを知る手がかりを得ることもできた。

- b 発表者：学芸員 橋本 遼太

テーマ：清拙正澄墨蹟「与鏡空浄心偈頌」（神奈川県立歴史博物館）にみられる雲母摺り装飾と墨蹟本文との関連について

概要：清拙正澄墨蹟「与鏡空浄心偈頌」（神奈川県立歴史博物館）について、その料紙に雲母摺り装飾が施されていることを新たに目視で確認したこと、墨蹟の行取りから判断して筆者の清拙は雲母で施された高士の図様を意識して揮毫しているであろうことを報告した。

- c 発表者：臨時学芸員 佐藤 登美子

テーマ：笈とは何か—六十六部関連資料より考察する

概要：筆者はこのたび京都府福知山市観音寺所蔵の金銅装笈を調査する機会を得たが、この作品には六十六部廻国聖が所持していたことを示す天正年間の文書、小型の仏像が付属していることから、六十六部と笈の関係を改めて考察する必要性に迫られている。近世の六十六部の使用していた笈は、多くは無いものの、納経帖などの資料とともに各地に残っていることが知られ、中世の箱笈と同じ系譜に連なるものだと考えられる。両者の形状を比較した時、笈の簡素化が指摘でき、これは近世における六十六部廻国の庶民への広がりと共にそれに伴う道具としての実用性の追求の結果と言える。また逆に大きさ・装飾の両面で肥大化する作例も見られることから、職業的な六十六部が衆目を集めより多くの浄財を集めるための装置としても機能していたことを指摘したい。また、使用者の具体的な姿としては、六十六部廻国を発願した俗人、六十六部廻国を行う山伏、職業的な六十六部などがいること、彼らは各地に奉納する法華経、納札、納経帖、往来手形等を収めて笈を背負い、あわせて薬、椀など巡礼に必要な生活具を収めていたこと、また小型の仏像を収めて人々に対して開帳していた様子などが見えて来る。そして何より、笈は六十六部という身分を示す重要なシンボルであったことがわかる。作例の少ない中世笈

を補足する意味でも、六十六部信仰と使用された笈の理解を深めることは今後の研究にも重要な視点であると考え。美術工芸的な価値に重きを置くあまりモノの歴史をある時期で区切ってしまうと、研究者自身の視野を狭める結果となってしまう。

d 発表者：学芸部長 望月 一樹

テーマ：近世川崎宿の成立に関する覚書

概要：川崎宿の成立については、これまで元和9年とするのが、ほぼ定説となっている。一方、資料によっては寛永4年、あるいは寛永6年とする見方もあることから、あらためて整理が必要と考えた。本報告では、元和9年時点では常時の伝馬役が命じられたものの宿場としての基本的な機能はすべて揃っておらず、最終的には寛永6年になって川崎は宿場として成立したものと考えた。

e 発表者：非常勤学芸員 根本 佐智子

テーマ：幕末期地方藩士による江戸在勤日記の基礎的研究

「松平造酒助江戸在勤日記」に見る松平造酒助の勤務

概要：参勤交代などで藩主に伴って藩士が江戸や大坂の屋敷の勤務につくことを勤番というが、江戸勤番武士の日記についての研究は、各藩の勤番武士の日記を詳細に分析・検討し、勤番武士の行動（勤務や外出）や生活（長屋での余暇）の具体像を明らかにすることが進められている。先行研究のある5件の例と比較検討し、松平造酒助の勤務がどのようなものであったのか検討を行った。松平造酒助の江戸在勤は、幕府より命じられた江戸市中取締の任を担うためのもので、有事の出陣とも考えられるものであり、先行研究の例に比べかなり繁多であったと言える。特に、急速御人数繰出候節之御取調掛については江戸市中取締の根幹に関わる役であり、秋保政右衛門の庄内下り後は松平造酒助一人が担っていたことを明らかにした。また八戸藩・松山藩などに見られた外出制限が庄内藩邸にもあり、上級武士には適用されていなかったこと、竹内主馬の外出三昧による勤務怠慢のために上級武士も適用されるようになったことなどを明らかにした。

f 発表者：学芸員 寺西 明子

テーマ：相模国津久井県与瀬村名主役一坂本家文書の基礎的研究と安永8年漆斗立帳一件から一

概要：坂本家文書（1080点）は、昭和48年（1973）から当館において借用していたもので、平成30年度に寄贈を受け入れたものである。坂本家は代々与瀬村名主であり甲州道中与瀬宿本陣・問屋役を務めた家で、今後資料に対する物理的な整理を進めると同時に、名主問屋坂本家に関する基礎的研究をすすめる必要がある。そのため、今後の研究・活用の基礎となるよう、与瀬村内村役等諸職の整理を行った。坂本家文書に残された資料から、与瀬村の八代名主内蔵助は、文政2年（1819）から翌3年にかけて与瀬村名主変遷、坂本家系譜、諸書類の記し方等、名主役に必要である情報を整理しようと試みていることがわかる。名主役変遷や村政にまつわる諸書類を整理する背景のひとつには、安永8年（1779）に起こった小原組との争論があったと考えられる。この安永8年漆斗立一件においては名主役の正統性も争点となっており、双方の主張の整理を行った。

g 発表者：主任学芸員 桑山 童奈

テーマ：版木の再利用による錦絵の新版出版について

概要：複数の版木を摺り重ねて出版する浮世絵版画の出版では、先に出版されていた絵の版木を利用して、新たな別の絵として出版されることがある。本稿では2021年度開催の特別展「錦絵にみる明治時代—丹波コレクションにみる近代ニッポン—」の調査の中、当館丹波コレクションで発見した、そのような出版の例を6組紹介した。その6組についてオリジナルと思われる版と再利用の版を比較して、①版木が再利用までの期間は短いもので約7ヶ月、最長で約6年であり、版権が移動したものもあること、②版木が再利用される錦絵は例えば天皇の動向を描いたものなど似たような出来事を描いていること、

③明治期には錦絵の出版が盛んであったがこのような版木の再利用が出版総数を増やしているのではないかということを指摘した。

h 発表者：企画普及課長・学芸員 丹治 雄一

テーマ：石材商「服部與兵衛」について—明治期の神奈川県内の石材産業との関わりを中心に—

概要：本報告では、東京の有力な石材問屋として明治期の石材業界で重きをなした「伊豆屋」服部與兵衛の事業活動のうち、神奈川県内の石材産業との関わりについて、これまでの調査で把握した資料を再検討することにより可能な限り跡づけることを試みた。資料の制約により断片的な把握にとどまったが、服部による神奈川県産石材の継続的な取り扱いを確認することができ、これまでの研究で明らかにした白丁場石と服部の関係についても、さらに積極的な役割を持っていた可能性が考えられることに言及した。

i 発表者：主任学芸員 角田 拓朗

テーマ：明治期図画教育に果たした五姓田派の役割—市村才吉郎を事例として

概要：五姓田派は、初代五姓田芳柳・五姓田義松ら五姓田家を核とし、多くの弟子たちによって構成される絵師・画家集団である。明治前期に本格的な西洋絵画の技術を全国に普及した功績が五姓田派の特徴と、これまで諸氏により指摘されてきた。五姓田派に属した弟子たちの多くが明治期の図画教師として全国で活躍していた事実がその端的な理由で、美術教育史の先行研究により具体化されたポイントである。さて、五姓田派の弟子の一人に、市村才吉郎がいる。これまで石川県の図画教師として活躍していたことは判明していたものの、明らかな彼の作品は見出し得なかった。昨年末、明らかに彼の手になる挿絵が発見されたことから、その内容を分析し、明治期における五姓田派の図画教育にかかる貢献の一端を明らかにすることを本報告の目的とする。新出の作品とは、『加賀国江沼郡名所案内記』と題された名所案内を目的とした冊子である。奥付には、「画工同県金沢市川原町七十二番地／士族 市村才吉郎」とあり、所収の挿絵すべてが彼の作品と考えられる。挿絵の概要をまとめると、表紙は多色石版画で静物画の様相を示す。本文挿絵は単色石版画で、名所案内記という性格上、風景が多い。描写は、西洋画の技術であるハッチング、陰影をほどこし、義松以来の技術を確認できる。しかし毛筆で描いた点とも見て取れ、いわゆる新旧の技術が混交している点が明治らしさ、五姓田らしさといえる。ただ、このことを時代の過渡の様相として、曖昧に理解することが、およそ誤りといえる。というのも、すでに金子一夫により指摘される通り、市村は地方教育の現場では鉛筆よりも毛筆を採用することの必要性を主張しているためである（金子一夫『近代日本美術教育の研究 明治時代』中央公論美術出版、1992年、296ページほか）。この柔軟性や知的な対応もまた、五姓田派の特徴と指摘することが可能だろう。さらに、彼が描いた作品と図画教科書の距離を考えてみたい。このたび整備中のデータベースをもちい、風景を描いた作品などと比較すると、時代の特徴というといえる「風景画」と構成要素が共通することを指摘できる。つまり、このような一般書や図画教科書など多様に展開し、かつ地域の実情にあわせたニーズと絡めながら、いわゆる西洋絵画を展開することにより、徐々に普及していったと具体的に理解することが可能となる。

j 発表者：学芸員 武田 周一郎

テーマ：大縮尺都市図を用いた横浜歴史GISの構築—1930年代の関内地区を対象に—

概要：都市横浜の時空間情報を蓄積した「横浜歴史GIS」の構築を企図し、その端緒として1930年代の土地宝典を用いて、関東大震災後の関内地区における街路や土地の区画をGISで復原した。現時点で関内地区のうち山下町を除く範囲のトレースが概ね終了し、今後、関連情報の整備により、レファレンスサービスの向上が期待される。

k 発表者：非常勤学芸員 三浦 麻緒

テーマ：神奈川の雑煮と隣接地域との比較

概要：正月の行事食である雑煮は、各地で様々な具や味付けが確認される。神奈川県では、里

芋・大根・角餅に鯉節出汁の醤油仕立ての汁が一般的であるが、神への供物の雑煮には、里芋・大根だけという所も多い。雑煮の内容については、他県からの移住者の増加や婚姻のしきたりの変化などにより、さらに実態が捉え難いものとなっている。本発表では、特別展「かながわの正月」に関連して調査した神奈川県域の雑煮についての報告と、隣接地域である東京都と千葉県雑煮事例について比較・考察した。

(2) 日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの

神奈川県立博物館であった昭和53年度から、文部省学術研究機関の指定を受け、科学研究費補助金が交付されるようになった。神奈川県立歴史博物館に機構変更後も継続して指定されている。令和2年度の採択は13件である。

ア 研究種目名：基盤研究(B)

課題番号：19H01677

研究課題：明治期図画手工教科書データベースの充実と活用に基づく教科横断的学習の史的研究

研究代表者：岡山大学 教授 赤木 里香子 氏

研究分担者：主任学芸員 角田 拓朗

研究期間：令和元～3年度

研究実績概要：データベース作成のための、データ整理及び入力を進めた。令和2年3月に美術家教育学会にて研究成果報告を行った。また、明治美術学会例会にて研究成果報告を予定し、準備を進めている。令和4年2月頃の完全版リリースに向けて、システム制度設計を本格化させた。また最終年度に向けて、研究論考にかかる調査研究に着手した。なお、成果公開の一環として予定していた、令和2年4月から実施予定だったコレクション展示は中止となり、その代替案として「おうちでかながわけんぱく」のうち、「絵が上手くなる！」をオンラインコンテンツとしてリリースした。

イ 研究種目名：基盤研究(B)

課題番号：19H01313

研究課題：西還・北還東国武士の社会的権力化

研究代表者：国立歴史民俗博物館 准教授 田中 大喜 氏

研究分担者：学芸員 神野 祐太、学芸員 渡邊 浩貴

研究期間：令和元～4年度

研究実績概要：本年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点及び緊急事態宣言発出期間があり、県外調査の実施が困難であった。そのため前年度に実施した佐賀県小城市でのフィールド調査で得られた調査やデータの整理、関連する文献調査を行った。

ウ 研究種目名：基盤研究(B)

課題番号：20H01314

研究課題：オランダ別段風説書の研究

研究代表者：青山学院大学 教授 岩田 みゆき 氏

研究分担者：主任学芸員 嶋村 元宏

研究期間：令和2～4年度

研究実績概要：本研究は、アヘン戦争を契機として、従来の「風説書」とは別にオランダ船が日本へもたらした、詳細で体系的な海外情報である「別段風説書」について、その内容と国内における動向を研究するものである。

研究分担に従い、オランダ別段風説書の活用について研究を進めている。本年度は一つの事例として、JSPS 科研費 JP18K00952 により収集・解読した『大槻清崇雑記』（修史局写、明治時代、国立公文書館）に含まれる仙台藩儒者大槻磐溪による書き込みを分析し、「大槻磐溪の異国情報分析—『大槻清崇雑記』中の朱書きから—」と題して、磐溪が別段風説書をはじめとする海外情報書からいかなる異国認識をもつに至ったかについて口頭報告をおこなった。報告では、嘉永5年に着任したオランダ商館長ドンケル・

クルティウスがもたらしたヴァタビア総督文書の受取可否に関する顛末をまとめた「和蘭告密書御請取始末」の写や、嘉永2年から嘉永5年までの別段風説書の抜き書き、および嘉永6年のペリー来航時の情報書を、嘉永6年のペリー第1回来航後の7月以降にまとめ、論評を書き加えたことを明らかにした。そして、幕府の対米方針などに批判的であること、磐溪はゴールドラッシュに強い関心を持ち、ゴールドラッシュに沸く米国は、膨張主義を進め日本の開国を推進しようとしているとの認識にたち、嘉永4年段階で米国使節の来航を予測していたことなどを導くことができた。
また、「大槻磐溪襍録」（宮城県図書館）を調査し、『大槻清崇雑記』の原本であることを確認した。

エ 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：17K02339

研究課題：原三溪関係資料の基礎的研究－コレクション形成の具体相の解明－

研究代表者：主任学芸員 小井川 理

研究分担者：学芸員 武田 周一郎、学芸員 神野 祐太、学芸員 橋本 遼太、学芸員 渡邊 浩貴、
日本女子大学 教授 古川 元也 氏

研究期間：平成29～令和2年度

研究実績概要：調査対象資料の基礎データ収集、関連資料等の調査研究を行った。

オ 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：18K00951

研究課題：幕末期地方藩士による江戸在勤日記の基礎的研究

研究代表者：非常勤学芸員 根本 佐智子

研究協力者：元企画普及課長 古宮 雅明、学芸員 寺西 明子

研究期間：平成30～令和3年度

研究実績概要：本研究は神奈川県立歴史博物館所蔵『松平造酒助江戸在勤日記』を翻刻し、日記の記述を研究するとともに、国元である鶴岡市にある関連資料と比較検討し、理解を深めるものである。鶴岡市郷土資料館所蔵「松平武右衛門文書」造酒助書簡の調査及び翻刻が終了し、日記・書簡を対照しての資料分析を開始した。

カ 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：18K00952

研究課題：開国期・危機的状況下における知識人の情報活動と意思決定過程に関する研究

研究代表者：主任学芸員 嶋村 元宏

研究期間：平成30～令和2年度

研究実績概要：“危機的状況下におかれた人間は、それまでに蓄積した自らの経験と知識に照らし合わせ、その危機をどのように知覚し、いかなる対応をとることで、新たな時代を迎え入れようとしたのか、――いまだに多くの課題が積み残されている日本開国史研究において、認知科学の手法を援用して、この普遍的な問いに一つの解を示すことが本研究の目的である。本年度は、COVID-19感染拡大の影響もあり、関西大学図書館での調査が中止となるなど、想定外の状況もあったが、函館市中央図書館、石川県立図書館所蔵資料の調査をおこない研究を進めた。なお、最終年度にあたることから、その成果について『科研費報告書』（令和3年3月刊）としてとりまとめるとともに、「科学費助成事業成果報告パネル展示 『米夷紀事』にみる大槻磐溪によるペリー来航前後の情報収集活動」（会期：令和3年3月31日～10月4日）を開催することで、学術界ならびに社会へ研究成果を還元した。また、『神奈川県立博物館研究報告－人文科学－』第48号へ論文「仙台藩儒・大槻磐溪によるペリー来航前後の情報収集活動とその活用」を投稿する準備も行った。

キ 研究種目名：基盤研究 (C)

課題番号：18K01111

研究課題：岩石・石材を素材とした歴史系および自然系博物館による地域学習プログラムの協働開発

研究代表者：企画普及課長・学芸員 丹治 雄一

研究分担者：神奈川県立生命の星・地球博物館情報資料課長 山下 浩之、同主任学芸員 田口 公則

研究期間：平成30～令和2年度

研究実績概要：本研究は、岩石・石材を素材にして、神奈川県内の各地域における大地の形成（自然史的条件）とそこで展開された人間の営み（歴史的事象）を地域の歴史として一体的に捉え、理解し学ぶことができる地域学習プログラムを、歴史系博物館である神奈川県立歴史博物館と自然史系博物館である神奈川県立生命の星・地球博物館の学芸員の文理融合の研究組織による協働研究で作成し、その実践を行うことで、地域の歴史に対する理解の促進に資することを目的としている。研究3年目の今年度は、当初計画では研究期間の最終年度となるため、着手中の県西地域、県央地域、横浜・川崎地域の各学習プログラムの完成度を高めるとともに、三浦半島地域の学習プログラムもまとめる予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、プログラム作成のための資料調査や現地調査、学習プログラムの実践を行うことができなかった。研究期間を延長することとしたので、自然史的条件と歴史的事象の関係性をスムーズに理解してもらうために、自然系と歴史系のストーリーの接続部分に工夫・改善を加えて、これまで実施できていない博物館での講座型と学校での授業型の実践を行うことが最終年度の課題である。

ク 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：19K00187

研究課題：近代日本美術史における大倉孫兵衛の活動に関する総合的調査研究

研究代表者：主任学芸員 角田 拓朗

研究期間：令和元～3年度

研究実績概要：基礎文献・資料等の収集を実施し、当館が寄託をうけている《大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖》の目録整備とその分析を実施した。研究成果公開の一環として、令和2年9月から特別展「明治錦絵×大正新版画」を実施した。その研究成果を、令和3年4月開催予定の美術史学会東支部例会にて口頭発表の予定である。関連して、森村組輸出台帳の調査を開始した。

ケ 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：19K01218

研究課題：南関東地方における湯立神楽の基礎的研究

研究代表者：学芸員 新井 裕美

研究分担者：非常勤学芸員 三浦 麻緒、横須賀市自然・人文博物館学芸員 瀬川 渉 氏

研究協力者：横浜市歴史博物館 羽毛田 智幸 氏、國學院大學 非常勤講師 高久 舞 氏

研究期間：令和元～3年度

研究実績概要：本研究は、神奈川県内及び本県周辺で奉納される湯立神楽を分析対象として、地域研究の一助とすることを目的とする。現在でも相模国鎌倉郡・同国三浦郡・武蔵国久良岐郡・同国橋樹郡・房総半島等では湯立神楽が盛んに奏される。これを大別すると鎌倉鶴岡八幡宮に奉仕していた職掌家に依る「職掌系湯立神楽」と職掌家に依らない「非職掌系湯立神楽」があり、後者の発生は前者の伝播に因るとされてきた。そのため従来の研究では、専ら前者に関心が払われていたために後者の実態は等閑視され、地域毎の湯立神楽の類似・相違点、関係性は未詳である。そこで本研究は、両者の祈願内容・演目・所作・神楽場の設え・催行する組織等の項目で両者の比較研究を行い、「非職掌湯立神楽」の現行を考察する。

コ 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：19K01149

研究課題：歴史的な鳥瞰図に対する博物学的な視点から観た数値標高モデルによる再構築

研究代表者：神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員 新井田 秀一

研究分担者：学芸員 武田 周一郎

研究期間：令和元～3年度

研究実績概要：本研究は、鳥瞰図に描かれた地物の位置関係や投影法等について数値標高モデルを用いて解析し、これらの図が持つ主張や意図を理解することを目標とする。本年度は、1942（昭和17）年頃に小田原市役所が発行した吉田初三郎の「小田原景勝鳥瞰図」を事例として作成過程等を検討し、結果をもとに研究代表者の所属機関で講座を実施した。

サ 研究種目名：若手研究

課題番号：18K12251

研究課題：鎌倉～南北朝時代における絵所の並立と絵師の交流をめぐる調査研究

研究代表者：学芸員 橋本 遼太

研究期間：平成30～令和3年度

研究実績概要：おもに鎌倉時代～南北朝時代に制作された絵画を対象に、図像や技法を比較しながら、制作集団の違いや図像の転写関係を考察する研究課題。特別展「十王図」の準備過程で総世寺（小田原市久野）の十王二使者図を調査する機会を得た。

シ 研究種目名：若手研究

課題番号：18K12252

研究課題：相模川中流域の仏像彫刻に関する調査研究

研究代表者：学芸員 神野 祐太

研究期間：平成30～令和2年度

研究実績概要：本年度は、当館で開催した特別展「相模川流域のみほとけ」や刊行した図録に本研究課題の成果の一部を盛り込み、研究成果を広く一般に公表できた。特別展開催中にも調査を進め、茅ヶ崎市宝生寺阿弥陀如来及び両脇侍立像、同浄見寺弁才天坐像等を実査及び写真撮影をおこなった。一方で新型コロナウイルス感染症予防の観点から、県内外の寺院への調査は縮小せざるを得なかった。

ス 研究種目名：若手研究

課題番号：19K13451

研究課題：近代東アジアにおける地図製図・印刷技術の展開過程に関する基礎的研究

研究代表者：学芸員 武田 周一郎

研究期間：令和元～4年度

研究実績概要：本研究は、近代の日本・台湾・朝鮮における地図製図・印刷技術の展開過程を明らかにすることを目的とする。本年度は、大正期の朝鮮総督府臨時土地調査局における地図印刷事業の動向を理解するため、「地形図製版印刷関係書類」を分析した。本資料は、臨時土地調査局と、同局の地形図製版業務を受託した陸地測量部との間の往復文書の控である。検討の結果、交渉の経緯が詳細に明らかになり、成果を口頭発表で公表した。

(3) その他外部研究資金によるもの

ア 助成内容：公益財団法人 河川財団河川基金助成事業

研究課題：戦国大名北条氏の水資源開発を事例とした博物館展示普及事業

研究代表者：学芸員 渡邊 浩貴

研究期間：令和元～2年度

研究実績概要：当館所蔵「北条家文書」の整理・撮影・調査を実施し、また箱根町早雲寺でも未整理の近世文書分の整理・撮影・調査を行った。こうした基礎的作業を通じて、戦国大名北条氏の系譜をひく近世狭山藩北条氏における、文書集積と家譜・由緒形成にいたる諸相を検討した。

イ 助 成 内 容：公益財団法人 クリタ水・環境科学振興財団国内研究助成

研 究 課 題：GIS を用いた前近代村落社会の水環境と「紛争・共生」に関する歴史学的研究—滋賀県甲賀市水口町における水利灌漑の復原作業を通じて—

研 究 代 表 者：学芸員 渡邊 浩貴

研 究 期 間：令和元～2 年度

研究実績概要：本研究は、地域社会における水利灌漑の歴史的変遷が、村落社会やそれを構成する多様な社会集団の形成において、いかなる影響を与えてきたのかを、フィールドワークに基づいた現地調査から実証的にあきらかにするものである。また本研究では、村落社会をとりまく水環境を、「紛争」と「共生」という二つの側面から捉え直し、両者が絡まり合いながら、中世後期から近世・近代、そして現代へとつながる村落が歴史的に形成される過程を検証する。具体的には、滋賀県甲賀市水口町内の村落を対象とする。調査では水口町歴史民俗資料館にて資料の所在を確認した上で、3 ヶ村（宇川・宇田・植）の区有文書を調査・撮影し、その翻刻を行った。

ウ 助 成 内 容：公益財団法人 横浜学術教育振興財団研究助成事業

研 究 課 題：神奈川県における音楽芸能のアーカイヴス化を通じた非文字資料・文字資料の歴史民俗学的研究—金沢・三浦半島地域の芸能 GIS 作成の試み—

研 究 代 表 者：学芸員 渡邊 浩貴

研 究 期 間：令和2 年

研究実績概要：本研究は、神奈川県内に今も残る音楽をとまなう民俗芸能を対象に、芸能の所作・ワザ・祭礼具（民具）・聞き書きなどの非文字資料をアーカイヴス化する作業を通じ、文字資料とあわせ、これら音楽芸能を民俗学的・歴史学的アプローチからその成立・伝播・継承にいたる歴史的展開過程を総合的に明らかにすることを目的としている。本年度はコロナの影響が大きく、フィールドワークを実施できなかった。そのため、文献資料を中心に県内の音楽芸能関連の資料を収集し、その歴史的変遷を明らかにした。

エ 助 成 内 容：2020 年度青山学院大学文学部附置人文科学研究所研究プロジェクト

研 究 課 題：近世日本における海外情報の研究

研 究 代 表 者：青山学院大学 教授 岩田 みゆき 氏

研 究 分 担 者：主任学芸員 嶋村 元宏（青山学院大学文学部特別研究員）

研 究 期 間：令和2 年度

研究実績概要：本研究は、「鎖国」政策をとった江戸時代において、海外情報がどのように日本へ伝えられ、幕府・諸藩をはじめとして、民衆世界にまで広まっていったのか。またそのことが日本の近世社会をどのように特徴づけていったのか、ということについて、具体的な事例をもとに明らかにしていくことを目的としている。

研究分担に従いつつ、JSPS 科研費 JP18K01314「オランダ別段風説書の研究」と密接に関係している研究であることから、その成果もふまえ、大槻磐溪による情報分析について研究報告をおこなった。

(4) 個人研究活動

ア 研究報告書

(ア) 『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第47号 令和2年12月25日発行

a 種 別：論文

表 題：初期鎌倉幕府の音楽と京都社会—「楽人招請型」の音楽受容とその基盤—

筆 者：学芸員 渡邊 浩貴

要 旨：本稿は、平安期の京都貴族社会で醸成された音楽文化が、列島社会へどのように伝播し受容されていったのかを、鎌倉幕府を事例に検討するものである。とくに幕府成立段階の源氏将軍期から摂関家将軍期までの期間を中心に、その音楽受容の形態を「楽人招請型」と呼称し、①初期鎌倉幕府の「楽人招請型」音楽受容の形態とその歴史的変遷、②初期鎌倉幕府における音楽文化の受容基盤、の二点について具体的に分析を加えた。明らかとした点は以下

の通りである。①鶴岡八幡宮寺の神事整備を通じて、京都地下楽家楽人の招請と秘曲伝授がされ、鎌倉幕府による音楽受容は源頼朝段階で到達点を迎える。その結果、本社石清水八幡宮に匹敵しうる神威の具備や都市鎌倉周辺で完結するような音楽儀礼を形成し、その音楽文化の遺産は次代の源頼家・実朝の両將軍期へ継承される。その一方で、京都音楽界との関わりの希薄化という結果をもたらし、源氏將軍家が途絶え、京都から摂関家將軍九条頼経が下向してくると、執権北条泰時期に京都音楽界との関係再構築が行われ、頼朝の先例に擬えて再び京都楽人による音楽教習が復活する。初期鎌倉幕府の音楽受容は、一時的な断絶を経るものの基本的に京都地下楽人を招請し秘曲をはじめ音楽伝習を受けることで成立していたのである。如上の受容形態を、本稿では「楽人招請型」と名づけた。②鎌倉幕府の受容基盤に着目すると、「楽人招請型」期で音楽文化の担い手として登場する人物の殆どが京都社会と何らかの繋がりを持つ。鶴岡陪従大江氏一族や鶴岡舞人舞童）を供出する大江広元・藤原邦通・藤原俊兼等も京都政界をルーツに持つ。また京都要人の饗応の場や、鎌倉で行われる遊興芸能の場では、在京経験を経て音楽芸能を摂取している工藤祐経や畠山重忠らが祇候し、京都楽人の音楽教授も受けている。「楽人招請型」期の音楽受容は、京都政界にルーツを持つ下級官人や在京経験のある御家人を担い手としてなされていた。初期鎌倉幕府での音楽受容形態は「楽人招請型」であり、その受容基盤は京都政界にルーツを持つ下級官人や京都社会と関わり在京経験のある御家人たちに限定される。そのことは畢竟、地方政権であった初期鎌倉幕府の音楽文化そのものが、京都社会に属する、ないし関わる人材によって支えられていたことにほかならず、京都社会に依拠した音楽受容であったと評価できる。

キーワード：鎌倉幕府、音楽、京都政界、京都音楽界、地下楽人

b 種 別：資料紹介

表 題：横浜市十王堂免遺跡の縄文時代礫斧―林國治氏旧蔵資料―

筆 者：玉川文化財研究所 戸田 哲也 氏・中山 豊 氏・主任学芸員 千葉 毅

要 旨：神奈川県立歴史博物館が所蔵する横浜市十王堂免遺跡採集の縄文時代礫斧を報告した。これらは1950年代後半に、在野考古学研究者の林國治が採集した資料群である。十王堂免遺跡採集の礫斧は、完形品・略完形品が373点、破損品が37点、合計410点が収蔵されている。本稿では完形品・略完形品を対象に、刃部の作出部位、作出手法（打製・局部磨製）、作出面（片刃・両刃）および礫斧のサイズといった点で分類を行い、182点を図化した。一遺跡における撚糸文期に伴う礫斧として、現在知られている資料の中で最大点数となる石器群であり、礫斧形態の全容がうかがえる基準的資料と言える。

キーワード：縄文時代、石器、礫斧、十王堂免遺跡、赤穂原遺跡、林國治

c 種 別：資料紹介

表 題：九月廿三日町日付北条氏規状について

筆 者：学芸員 梯 弘人

要 旨：当館所蔵の北条家文書に含まれる、北条氏規書状を取り上げる。翻刻を行い、文中に使される「一夜帰」、「程有間敷」と「秘蔵」の用例をもとに、文書の内容の確認を行った。検討の結果、天正七年から九年の間に作成された文書であり、北条氏と徳川氏の間で宇治茶や茶の湯に関する贈答など、文化的交流を示す史料であることを明らかにすることができた。

キーワード：北条家文書、北条氏規、一夜帰、秘蔵、無上、茶の湯

d 種 別：資料紹介

表 題：富士山宝永噴火被災地への幕府の救済活動に関する紹介資料

筆 者：元企画普及課長 古宮 雅明

要 旨：富士山宝永噴火で大きな被害を受けた足柄上郡金井嶋村の瀬戸家文書、同郡皆瀬川村の井上家文書のなかから幕府の御救策実施状況を記録している史料二点と、淘綾郡中里村の高橋家文書から幕府勘定奉行荻原重秀の酒匂川普請への関わり的一端を示す史料一点を翻刻

した。いずれも未紹介で、噴火災害に対する公権力の関わりを解明する上での重要な手がかりとなる史料である。

キーワード：富士山宝永噴火、足柄上郡金井嶋村・皆瀬川村、御救金、酒匂川川普請、荻原重秀

e 種 別：資料紹介

表 題：松平造酒助江戸在勤日記―慶応元年閏五月九日より同年八月十一日―

筆 者：非常勤学芸員 根本 佐智子・元企画普及課長 古宮 雅明

要 旨：当館所蔵「松平造酒助江戸在勤日記」の翻刻。筆者松平造酒助は庄内藩士、家禄は千四百石。組頭や家中武器取扱掛をつとめた人物である。造酒助は元治元年八月より慶応元年八月まで江戸に在勤している。本稿は慶応元年閏五月九日より同年八月十一日まで、全五十綴のうち、「四十」～「五十終」を掲載、本号で完結となる。造酒助は中村三内らと横浜より舶来のミニエール銃（ミニエール銃）を手に入れ「大ハマリ」、本所の矢場で日々鉄砲稽古に勤む。天狗党の乱以降、庄内藩への西洋銃器の導入を造酒助は主張してきたが、その影響により家中が購入した数は五十挺を越えた。江戸市中は静謐となり、神田天王祭の様子を柳原屋敷の長屋から見物、納涼のため両国橋へ出、橋の上で西瓜を割り食べるなど、「東都於大橋西瓜割給事一生の癖之実也」と残り少ない江戸での生活を満喫している様子が伺える。日記は八月十一日で終わり、十四日に出立する旨が記されている。慶応元年八月二十七日、造酒助は無事庄内へ到着した。

キーワード：松平造酒助、庄内藩、慶応元年、江戸市中取締、新徴組、ミニエール銃

イ 個人研究活動

〈凡例〉（刊行年などは西暦で統一）

氏名（役職・専門分野等）

(ア) 著作

- a 単著・共著・学術論文
- b 書評・余録
- c 資(史)料紹介

(イ) 学術口頭報告

(ロ) 図録執筆・解説書執筆

(エ) 新聞・雑誌等への寄稿

(オ) 各種調査委員会等

(カ) 講師等

- a 外部依頼講座講師等
- b 当館主催講座等講師
- c 当館出張講座講師

(キ) ここ1年間の課題・研究テーマ

薄井 和男（館長・美術・中世）

- (ア)b 『相模川流域のみほとけ』に寄せて（特別展図録『相模川流域のみほとけ』、pp. 6-9、神奈川県立歴史博物館、10月）

「再開館のご挨拶」（『神奈川県立歴史博物館だより』、通巻214号、pp. 2）

- (オ) 相模原市文化財保護審議会委員、逗子市文化財保護審議会委員、厚木市文化財保護審議会委員、川崎市文化財保護審議会委員、大磯町文化財保護審議会委員、平塚市文化財保護審議会委員、秦野市文化財審議会委員、時宗文化財調査委員

- (カ)b 県博セミナー「相模原の仏像と神奈川県博の悉皆調査」（「相模川流域の仏教美術とその周辺をさぐる」第1回、於神奈川県立歴史博物館講堂、10月18日）

展示解説（特別展「相模川流域のみほとけ」、於神奈川県立歴史博物館、11月7日）

- (キ) 県内所在の神社所蔵の神像調査を行った。

望月 一樹（学芸部長・歴史・近世）

- (ア)a 「神奈川県博物館協会の防災対策とレスキュー活動」（『博物館研究』第55巻9号、pp.6-9、日本博物館協会、8月）
- b 特別陳列『出土文字資料からみる古代の神奈川』によせて（『神奈川県立歴史博物館だより』、通巻216号、pp.5-6、2月）
- (イ) 帷子川河口域における新田開発について（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
近世川崎宿の成立に関する覚書（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、3月）
- (ウ) 図版解説「国厨」墨書土器 他4件（特別展図録『相模川流域のみほとけ』、神奈川県立歴史博物館、10月）
- (エ) 交通史学会運営委員、シルク博物館運営委員、大山街道ふるさと館運営懇談会アドバイザー、
- (カ)a 「日本書紀と神奈川」（於神奈川県立図書館、12月20日）
川崎宿ボランティア養成講座「川崎宿起立400年 東海道川崎宿の概要」（於東海道かわさき宿交流館、1月20日）
国寶史蹟研究会「出土文字資料からみる古代の神奈川」（於神奈川県立歴史博物館、3月28日）
- b ミュージアムトーク「今月の逸品」（「上白根遺跡出土の火葬骨蔵器」、3月）
- (キ) 新出資料である「川崎年代記録 下」を分析し、これまで通説とされてきた川崎宿の元和9年起立説について再考を加えた。また県内出土の木簡や墨書土器等の出土文字資料について、調査を進めた。

丹治 雄一（企画普及課長・歴史・近代）

- (ア)a 「4.2 その他（石材中心）」（阿部 猛・落合 功・谷本 雅之・浅井 良夫編『生産・流通（下）一鉱山業・製造業・商業・金融一』郷土史大系、pp.61-62、朝倉書店、10月）
- b THE けんぱく PUNCH 休館中の博物館活動（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻214号、pp.8、8月）
- (イ) 真鶴町教育委員会所蔵「土屋文雄氏所蔵資料」について（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
石材商「服部與兵衛」について—明治期の神奈川県内の石材産業との関わりを中心に—（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、3月）
- (エ) 「分科会2『コロナ時代の新しい博物館像』に参加して」特集1 第68回全国博物館大会参加記（『神奈川県博物館協会会報』第92号、pp.6-8、神奈川県博物館協会、3月）
- (オ) 首都圏形成史研究会常任委員
- (カ)a 神奈川県立生命の星・地球博物館「先生のための地層と化石入門」（於生命の星・地球博物館・厚木市七沢周辺、11月28日・29日）
- b 旧横浜正金銀行本店本館建物見学会Ⅰ（9月26日）Ⅱ（12月4日）
博物館入門講座「神奈川県立歴史博物館を知ろう」Ⅰ（9月6日）Ⅱ（9月20日）
- (キ) 科学研究費助成事業にかかる近代石材産業史研究として、神奈川県産石材「白丁場石」「根府川石」「七沢石」の調査などを行った。

（先史）

千葉 毅（主任学芸員・考古）

- (ア)a 「横浜市港北区日吉一帯における戦争遺跡をめぐる活動のあゆみと現状」（『年報 首都圏史研究2019』pp.85-89、首都圏形成史研究会、6月）
『赤星直忠考古学研究資料 第1巻 1922.6～1925.8』（神奈川県立歴史博物館・赤星直忠博士文化財資料館、pp.1-146、3月）
- b 「第3回肖像権ガイドライン円卓会議参加報告」（『デジタルアーカイブ学会誌』第4巻第3号、デジタルアーカイブ学会、7月）
- c 横浜市十王堂免遺跡の縄文時代礫斧—林國治氏旧蔵資料—（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第47号、共著：戸田 哲也 氏、中山 豊 氏、千葉 毅、pp.23-56、12月）

- (イ) 神奈川県立金沢文庫、横須賀市自然・人文博物館保管考古資料と赤星直忠（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
当館所蔵の赤星直忠旧蔵資料群と赤星直忠考古学研究資料デジタルアーカイブについて（調査研究成果報告会口頭報告、神奈川県立歴史博物館、3月）
「展示室で写真が撮りたい！—博物館展示室での写真撮影対応に関する現状整理—」（考古学・文化財のためのデータサイエンス・サロン online#05「考古学・文化財資料とデータの公開・利用を考える」、考古形態測定学研究会、12月12日）
- (オ) 三田史学会委員
- (カ) a 玉縄・市民学芸員育成講座「縄文時代のかまくらと考古学の視点」（玉縄城址まちづくり会議主催、於玉縄ふるさと館、10月15日）
歴史（川崎学）講座「縄文時代—自然〈「豊かさ」と「厳しさ」〉と共に生きる」（かわさき市民アカデミー、10月3日）
b 博物館入門講座「学芸員の目と技」（拓本—考古資料の「記録」—、9月6日）
ミュージアムトーク「今月の逸品」（「三浦市間口洞穴遺跡と神奈川県立博物館の発掘調査」、2月）
c 出張講座「考古学入門」（横浜市立間門小学校、12月22日）
- (キ) 総合研究の一環として、県下の学史的な未報告考古資料の整理報告を進めた。当館所蔵の考古資料に関わる情報の整理も継続している。また、博物館が蓄積してきた多様な情報のオンライン公開のための整理、検討を進めている。

（中世）

渡邊 浩貴（学芸員・歴史）

- (ア) a 「中世舞楽面と雨乞儀礼—相模国大住郡下糟屋村の高部屋神社を事例に—（上）」（『民具マンスリー』第53巻1号、pp. 13193-13205、神奈川大学日本常民文化研究所、4月）
「中世舞楽面と雨乞儀礼—相模国大住郡下糟屋村の高部屋神社を事例に—（下）」（『民具マンスリー』第53巻3号、pp. 13254-13262、神奈川大学日本常民文化研究所、6月）
「博物館における ICT の利活用と中世文書展—神奈川県立歴史博物館の再開館事業と「ポケット学芸員」導入の報告をかねて—」（『日本史攷究』第44号、pp. 71-94、日本史攷究会、12月）
初期鎌倉幕府の音楽と京都社会—「楽人招請型」の音楽受容とその基盤—（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第47号、pp. 1-22、12月）
「園場整備地域の景観復原技法確立と地域実践 —滋賀県甲賀市水口町の前近代水資源開発と社会集団の関わりから—」（『学術研究助成報告集』第6集、pp. 51-76、公益財団法人国土地理協会、2月）
b 研究余録「小弓公方足利氏と豊臣政権の邂逅をめぐって—『足利頼淳宛豊臣秀吉朱印状』発給の経緯をさぐる—」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻214号、pp. 6-7、8月）
c 「足利頼淳宛豊臣秀吉朱印状」の紹介—豊臣政権と関東足利氏の再興の視点から—（『史學』第88巻3・4号、pp. 437-440、三田史学会、5月）
- (イ) 鎌倉御家人の音楽環境と京・鎌倉・本拠（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
「鎌倉御家人の音楽環境と地域基盤—相模地域の音楽文化と鎌倉御家人の拠点—」（鎌倉御家人研究会、於神奈川県立歴史博物館、10月4日）
中世鎌倉音楽史の射程—都市鎌倉の音楽とその展開をめぐって—（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、3月）
- (ウ) 図版解説「星谷寺鐘銘」他6件（特別展図録『相模川流域のみほとけ』、神奈川県立歴史博物館、10月）
- (オ) 立川市史編さん室古代・中世史部会主任調査員
- (カ) a 2020年度ICP「鎌倉をめぐる歴史と文化」「中世の病と救済①—説経「小栗判官」を読む—」（鎌倉市大路ビル、12月20日）
2020年度ICP「鎌倉をめぐる歴史と文化」「中世の病と救済②—説経「小栗判官」のモデル—」（鎌倉市大路ビル、3月28日）

- b ミュージアムトーク「今月の逸品」(「曾我一族の中世」、1月)
- c 出張講座「中世武士の鎌倉」(フェリス女学院中学・高等学校、1月22日)
- (キ)a 昨年度から引き続いて「中世都市鎌倉の音楽受容と地域的展開」をテーマに、平安末期から鎌倉期における鎌倉幕府・都市鎌倉での音楽受容や、東国社会への伝播状況について研究を行ってきた。文献資料のみならず、考古資料や美術資料、民俗資料も含めた総合的な中世音楽文化の復元を目指す。なお、本年度は横浜学術教育振興財団より研究助成の採択を受け、研究課題「神奈川県における音楽芸能のアーカイブス化を通じた非文字資料・文字資料の歴史民俗学的研究」を進めた。
- b 館所蔵・保管資料の調査研究に加え、令和3年度特別展「早雲寺」(開催予定)、および令和4年度特別展「永福寺」(開催予定)に関する調査研究を進めた。

小井川 理(主任学芸員・美術[工芸])

- (イ) 鎌倉彫における学校用標本製作について(調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月)
- (エ) ミュージアムクリップ 特別展の『縁』と新型コロナ禍(『博物館研究』Vol.55 No.5、通巻624号、pp.44、5月)
- (カ)b ミュージアムトーク「今月の逸品」(「眞葛焼 高浮彫牡丹に眠猫覚醒蓋付水指」、6月)
- (キ) 館所蔵・保管資料(中世工芸および近代工芸)と日本美術工芸史に関する調査研究を行った。

神野 祐太(学芸員・美術[彫刻])

- (ア)a 「相模川流域の仏像」(特別展図録『相模川流域のみほとけ』、pp.10-16、神奈川県立歴史博物館、10月)
- b 特別展『相模川流域のみほとけ』の見どころ(『神奈川県立歴史博物館だより』、通巻215号、pp.2-4、10月)
- (イ) 他阿真教像についてー関東の肖像彫刻を中心にー(調査研究成果報告会口頭報告、神奈川県立歴史博物館、5月)
相模川流域の仏像(調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、3月)
- (ウ) 図版解説「千手観音立像」他49件(特別展図録『相模川流域のみほとけ』、神奈川県立歴史博物館、10月)
図版解説「如来坐像(伝阿弥陀如来像)」他2件(特別展図録『横浜の仏像ーしられざるみほとけたちー』、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団、1月)
『神奈川県立歴史博物館資料目録 赤星直忠旧蔵資料目録』(神奈川県立歴史博物館、3月)
- (エ) 特別展「相模川流域のみほとけ」連載全5回(『毎日新聞』神奈川版、10月21日、28日、11月5日、11日、20日)
「保木薬師堂のしおり」(保木薬師信徒会、3月)
- (カ)a 「相模川流域のみほとけ」(神奈川県文化財協会主催、於神奈川県立歴史博物館、10月21日、22日)
「相模川流域のみほとけ」(国宝史蹟研究会主催、於神奈川県立歴史博物館、10月29日)
えびな文化財探求舎講演会「相模川流域のみほとけたち」(海老名市教育委員会主催、於海老名市役所、11月23日)
ギャラリートーク「横浜の仏像」(横浜市歴史博物館主催、於横浜市歴史博物館講堂、2月13日)
- b 入門講座「相模川流域のみほとけたち」(於神奈川県立歴史博物館、10月11日)
県博セミナー「相模川中流下流域の仏像」(「相模川流域の仏教美術とその周辺をさぐる」第2回、神奈川県立博物館講堂、10月25日)
展示解説 特別展「相模川流域のみほとけたち」(於神奈川県立歴史博物館、10月10日、17日、24日、31日、11月14日、21日、28日)
ミュージアムトーク「今月の逸品」(「阿弥陀如来坐像」、12月)
- c 出張講座 「鎌倉大仏になってみよう」(横須賀市立浦賀小学校、7月16日)
出張講座 「鎌倉大仏になってみよう」オンライン開催(相模原市立大野台中学校、2月2日)
- (キ) 相模川流域の仏像について調査研究をおこなった。近年の調査研究成果を盛り込んだ特別展「相模川流域のみほとけ」を担当した。

橋本 遼太（学芸員・美術〔絵画〕）

- (イ) 時衆教団形成期における遊行上人の肖像観と時宗の絵画について（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
清拙正澄墨蹟「与鏡空浄心偈頌」（神奈川県立歴史博物館）にみられる雲母摺り装飾と墨蹟本文との関連について（調査研究成果報告会口頭報告、神奈川県立歴史博物館、3月）
- (ウ) 図版解説「夢窓疎石像」他1件（特別展図録『相模川流域のみほとけ』、神奈川県立歴史博物館、10月）
- (キ) 所蔵する中世絵画について調査研究をおこない、特別展図録『相模川流域のみほとけ』に図版解説を執筆した。

佐藤 登美子（臨時学芸員・美術・〔工芸〕）

- (ウ) 作品解説「屈輪文大香合」他34件（特別展図録「鎌倉の伝統工芸『鶴岡八幡宮 その始まりからの歩み』」、pp.51-55、鎌倉文華館鶴岡ミュージアム、3月）
- (イ) 笈とは何か ―六十六部関連資料より考察する（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、3月）
- (キ) 館蔵および保管の工芸品についての調査研究、整理作業を行った。
中世における六十六部廻国聖とその信仰に関連する工芸品について、調査研究を行った。

梯 弘人（学芸員・歴史）

- (ア)a 「『北条五代記』にみる『山上宗二記』の情報について」（『小田原地方史研究』第30号、pp.2-14、小田原地方史研究会、6月）
c 九月廿三日付北条氏規書状について（『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第47号 pp.57-64、12月）
- (イ) 「臨済宗寺院としての本光寺」（小田原地方史研究会報告、於小田原市民交流センター、2月6日）
めざせ桜井武兵衛！！ ～桜井武兵衛よりもさらに下級の武士たちについて～（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
本光寺文書とその周辺（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、3月）
- (カ)a 玉縄・市民学芸員育成講座「玉縄北条氏にまつわる当館所蔵の古文書について」（玉縄城址まちづくり会議主催、於玉縄ふるさと館、10月10日）
鎌倉の歴史を楽しむ講座「戦国時代の史料にみる病への対処」（NPO法人鎌倉地域振興協会主催、於若宮大路ビル、10月25日）
- b 博物館入門講座「学芸員の目と技」（「古文書の伝来について」9月20日）
- c 出張講座「鎧兜の移り変わりから見る歴史」（フェリス女学院、11月19日、20日）
- (キ) 当館所蔵「本光寺文書」の内容分析を行った。

村上 幸奈（非常勤学芸員・美術〔絵画〕）

- (キ) 十一面観音像の頭上面の形態に関する研究を行った。

（近世）

寺西 明子（学芸員・歴史）

- (ア)c 「旅と養生」（『旅行用心集』八隅蘆庵著）（『ボランティアニュース』84号、神奈川県立歴史博物館ボランティア会、11月）
- (イ) 「地域還元のための資料整理と活用」（第1回研修会、於神奈川県立歴史博物館、9月8日）
相模国津久井県与瀬村名主役一坂本家文書の基礎的研究と安永8年漆斗立帳一件から―（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、3月）
- (カ)b ミュージアムトーク「今月の逸品」（「山中藩陣屋之図」、10月）
- (キ) 主に館蔵現代資料に関する整理・調査を進めるとともに、常設展示室へのトピック展示を行った。

根本 佐智子（非常勤学芸員・歴史）

- (ア)c 松平造酒助江戸在勤日記―慶応元年閏五月九日より同年八月十一日―（『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第47号、pp. 77-110、12月）
- (イ) 幕末期地方藩士による江戸在勤日記の基礎的研究について（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
「幕末期地方藩士による江戸在勤日記の基礎的研究 『松平造酒助江戸在勤日記』に見る松平造酒助の勤務」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、3月）
- (カ)a 第2回企画展記念講演会「二ヶ領用水と高津の村々」（於大山街道ふるさと館 7月19日）
認定NPO法人かわさき市民アカデミー「街角の文化財に学ぶ―地図を読む楽しさ 村絵図を読み解く下菅生村絵図」（於川崎市生涯学習プラザ 11月18日）
「街角の文化財に学ぶ―地図を読む楽しさ 下菅生村・天真寺新田を歩く」（於菅生神社ほか 11月25日）
- b ミュージアムトーク「今月の逸品」（「関八州大絵図」、5月）
「おうちでかながわけんぱく」（「ひらがなになかなどんかな」12月26日公開、「おうちでおんせんきぶん」2月18日公開）
- c 出張講座「絵図で見る江戸時代」（横浜市立上瀬谷小学校 11月5日）
- (キ) 科学研究費の「松平造酒助江戸在勤日記」「松平武右衛門文書」の調査研究。初期裁許絵図の研究。当館所蔵近世資料の調査研究を行った。

桑山 童奈（主任学芸員・美術）

- (ア)b 「特集 新型コロナウイルスと展覧会 神奈川県立歴史博物館」（『浮世絵芸術』No.181、国際浮世絵学会、pp. 89-90、1月）
錦絵にみる明治時代―丹波コレクションが語る近代ニッポン―（『神奈川県立歴史博物館だより』、通巻216号、2月）
- c 「感染症と浮世絵」（『マイウェイ』No.117、公益財団法人はまぎん産業文化振興財団、pp. 2-3、3月）
- (イ) 錦絵にみる文明開化―青空の横浜から赤い空の東京への変遷（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
版木の再利用による錦絵の新版出版について（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、3月）
- (エ) 作品解説「歌川豊春〈浮世異国景跡和藤内三官之図〉」他22件（一般財団法人日本浮世絵博物館編『日本浮世絵博物館 浮世絵名品100選』作品解説、pp. 45-151、小学館、9月）
- (オ) 国際浮世絵学会理事・企画委員、藤沢市藤澤浮世絵館運営委員、公益財団法人氏家浮世絵コレクション評議員
- (カ)b ミュージアムトーク「今月の逸品」（「二代広重『諸国名所百景』」、8月）
- (キ) 丹波コレクション「明治歴史絵」に関する研究。

(近代)

嶋村 元宏（主任学芸員・歴史）

- (ア)a 『開国期・危機的状況下における知識人の情報活動と意志決定過程に関する研究』（平成30年度～令和2年度 科学研究助成事業 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C) 研究成果報告書、日・英文、pp. 1-70、3月）
- (イ) 「大槻磐溪の異国情報分析―『大槻清崇雑記』中の朱書きから―」科研費「オランダ別段風説書の研究」（JSPS 科研費 JP01314）／青山学院大学文学部附置人文科学研究所研究プロジェクト
「近世における海外情報の研究」共催、Webex Meetings ミーティングNo.: 166 495 5695（リモート研究会、8月1日）
仙台藩儒・大槻磐溪の情報収集活動について（調査研究報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
幕末期における対外関係文書は如何に読まれたか―大槻磐溪の書き込みを手掛かりに―（調査研究報告会口頭報告、神奈川県立歴史博物館、3月）

科学研究費助成事業成果報告パネル展示 「『米夷紀事』にみる大槻磐溪によるペリー来航前後の情報収集活動」(神奈川県立歴史博物館、3月31日～10月3日)

- (ウ) 「Column 3 幕末日本へ伝えられた世界初の万国博覧会」(橋爪紳也著・監修/乃村工藝社編、『博覧会の世紀 1851-1970』、pp. 28-29、青幻舎、2月)
- (オ) 明治維新史学会会誌編集委員
青山学院大学文学部附置人文科学研究所特別研究員
独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員(平成29年12月1日～平成30年11月30日) ※本委員の就任については、委嘱先が氏名を公表するまでは、守秘義務が課されていることから、平成30年度の年報に掲載できなかった。
- (カ) c 出張講座「日本の開国と異文化交流」(横浜市立駒林小学校、11月19日)
出張講座「日本の開国と異文化交流」(川崎市立宮内小学校、11月20日)
- (キ) 歴史研究面においては、「19世紀中葉における国際秩序の変容」をメインテーマに研究を継続するとともに、今年度は特に以下の課題について研究を進めた。
JSPS 科研費 JP18K00952「開国期・危機的状況下における知識人の情報活動と意思決定過程に関する研究」(研究代表者)は、3ヵ年計画の最終年度にあたることから、報告書(冊子体)ならびにパネル展示としてまとめ、学術界ならびに一般社会へその成果を公表した。JSPS 科研費 JP20H01314「オランダ別段風説書の研究」(研究分担者)については、役割分担にしたがい、オランダ別段風説書の活用事例について報告するとともに、宮城県図書館所蔵史料の調査をおこなった。青山学院大学文学部附置人文科学研究所特別研究員として、「近世における海外情報」をテーマに研究すすめた。

角田 拓朗(主任学芸員・美術・近代)

- (ア) b 「回顧の実」(『美人画研究会誌 紫陽花』3号、pp. 10-13、美人画研究会、6月)
書評 いまを生きる「美人画」:『芸術新潮』二〇二〇年三月号特集を読む(『美人画研究会誌 紫陽花』4号、pp. 41-48、美人画研究会、1月)
展覧会へのあゆみ 特別展「明治錦絵×大正新版画 世界が愛した近代の木版画」によせて(『神奈川県立歴史博物館だより』、通巻214号、pp. 4-5)
「展覧会後記 「明治錦絵×大正新版画 世界が愛した近代の木版画」(『浮世絵芸術』181号、pp. 78-79、国際浮世絵学会、1月)
- c 「山村耕花 四代目尾上松助の蝙蝠安」(『国華』1501号、pp. 62-63、国華社、11月)
- (イ) 五姓田派の存外作品調査研究(調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月)
明治期図画教育に果たした五姓田派の役割 ―市村才吉郎を事例として―(調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、3月)
「明治期図画手工教科書データベースの活用による史的研究の可能性」(第43回 美術科教育学会愛媛大会、赤木 里香子 氏、山口 健二 氏、金子 一夫 氏、角田 拓朗、3月)
- (ウ) 特別展図録『明治錦絵×大正新版画 世界が愛した近代の木版画』(pp. 1-200、神奈川県立歴史博物館、4月)
- (エ) 「錦絵から陶磁器へ ―横浜発クールジャパンの軌跡―」(『横浜 YOKOHAMA』vol. 68、pp. 61-64、神奈川新聞社、4月)
特別展「明治錦絵×大正新版画」連載(『毎日新聞』8月21日、26日、9月4日、11日)
- (オ) 明治美術学会監事、松戸市美術品等選定委員会委員、馬車道日曜画家展審査委員
- (カ) a 神奈川県博物館協会令和2年度第1回研修会「コロナ禍における博物館活動」事例報告 神奈川県立歴史博物館 夏の特別展の取り組み 展示の新たな対応を模索して(於神奈川県立歴史博物館オンライン、2月10日～3月31日)
- b ミュージアムトーク「今月の逸品」(「五姓田義松《六面相》」、11月)
- (キ) 特別展「明治錦絵×大正新版画」の開催にかかる調査研究を実施、特別展閉幕後も継続して森村組資料の調査へと展開している。また、明治期の図画教科書にかかる科学研究費調査研究も進展し、データベース公開へ向けての基礎作業がおよそ終了し、次年度公開にむけた、事例研究をおこなった。さらに五姓田派研究を継続、特に弟子たちの動向について細部の調査を積み上げている。いずれも次年度、成果公開の予定である。

(現代)

武田 周一郎 (学芸員・歴史)

- (ア) a 『地図で楽しむ横浜の近代』 (岡田 直 氏、吉崎 雅規 氏と共著、風媒社、7月)
 - b 「神奈川県立歴史博物館の地図資料 : “Homo sapiens”の観点から」 (『地図情報』 40 巻 3 号、11 月)
書評 上杉 和央著『歴史は景観から読み解ける はじめての歴史地理学』 (『歴史地理学』 63 巻 2 号、pp. 41-44、3 月)
- (イ) 朝鮮総督府臨時土地調査局「地形通報」に関する基礎的研究 (調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5 月)
 - 「大正期の朝鮮総督府における地図印刷事業の動向」 (歴史地理学会大会紙上報告、5 月)
 - 「収蔵庫の浸水を想定した資料搬出訓練の実践と課題」 (全国博物館大会分科会 3、於横浜開港記念会館、11 月 26 日)
 - 大縮尺都市図を用いた横浜歴史 GIS の構築—1930 年代の関内地区を対象に (調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、3 月)
- (ウ) 「武蔵国鶴見寺尾郷絵図の世界を眺める視線の重層性」 (特別展図録『武蔵国鶴見寺尾郷絵図の世界』、p. 86、神奈川県立金沢文庫、3 月)
『神奈川県立歴史博物館資料目録 赤星直忠旧蔵資料目録』 (神奈川県立歴史博物館、3 月)
- (エ) 首都圏形成史研究会常任委員、歴史地理学会編集委員
- (カ) a 神奈川県立生命の星・地球博物館「秋の地形地質観察会—神奈川県鳥瞰図スペシャル—」 (11 月 7 日)
 - b ミュージアムトーク「今月の逸品」 (「昭和の冷蔵庫」、9 月)
 - c 出張講座「博物館・学芸員の仕事」 (東京都立桜修館中等教育学校、1 月 27 日)
- (キ) 主に館蔵現代資料を対象として調査を進めるとともに、総合研究や科研費の研究課題に取り組んだ。特に地図の印刷技術に関する研究に注力している。

(民俗)

新井 裕美 (学芸員・民俗)

- (ア) b 特別展『かながわの正月—よい年になりますように—』を準備中! (『神奈川県立歴史博物館だより』、通巻 215 号、pp. 5-7、10 月)
 - c 「感染症に対峙した人々」 (『郷土神奈川』 59 号、pp. 38-43、3 月)
- (イ) 神奈川県と千葉県の湯立神事について (調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5 月)
正月行事に子どもたちが各戸をまわる行事について (調査研究成果報告会口頭報告、神奈川県立歴史博物館、3 月)
- (ウ) 特別展図録「かながわの正月—よい年になりますように—」 (神奈川県立歴史博物館、12 月)
- (エ) 特別展「かながわの正月—よい年になりますように—」連載 (『毎日新聞』 12 月 25 日、1 月 15 日、22 日)
- (オ) 大磯町国府祭町委託調査員、相模民俗学会運営委員
- (カ) a 文化財協会講演会 特別展「かながわの正月—よい年になりますように—」 (12 月 16 日、17 日)
 - b 連続講座「かながわの正月行事」
展示解説 特別展「かながわの正月—よい年になりますように—」 (12 月 12 日、19 日、26 日)
子ども向けイベント「カドニュードウをつくろう」 (特別展「かながわの正月—よい年になりますように—」、12 月 20 日午前・午後)
 - c 出張講座「昔の道具を調べよう」 (横浜市立美しが丘東小学校、12 月 18 日)
- (キ) 神奈川県内の正月行事の事例を収集し、分析を行った。それに伴い、県内の正月行事にかかる資料調査を実施した。また、南関東地方における湯立神楽について、報告書等から事例を収集・整理した。

三浦 麻緒（非常勤学芸員・民俗）

- (イ) 大草家神楽衣裳と地芝居衣裳（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
神奈川の雑煮と隣接地域との比較（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、3月）
- (ウ) 「かながわ雑煮考」（特別展図録『かながわの正月』、pp. 38-43、神奈川県立歴史博物館、12月）
- (エ) 「かながわの正月 ②正月料理 県内の雑煮、捉えにくい実態 地域、時代で多様な味」（『毎日新聞』朝刊、1月8日）
- (カ) a 健康福祉推進事業の講演会（「食と健康—民俗学の視点から—」、於神奈川県生活衛生営業指導センター、3月25日）
ミュージアムトーク「今月の逸品」（「相模人形芝居—本朝廿四孝より勝頼と八重垣姫—」、7月）
- (キ) 館所蔵の民俗資料の整理。神奈川県内の雑煮についての調査・研究。科研費の研究分担者として県内の湯立神楽についての事例を収集・整理した。

中村 茉貴（非常勤資料整理員・美術・近現代）

- (ア) c 翻刻補助『東京経済大学百二十年史 資料編 第一巻』（東京経済大学百二十年史編纂委員会、日本経済評論社、11月）
- (イ) 創造美育協会が戦後美術に与えた影響—島崎清海資料群の調査を中心に（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
創造美育協会の活動とその関係者—島崎清海宛書簡から読み解く（調査研究成果報告会口頭報告、神奈川県立歴史博物館、3月）
- (ウ) 補助「東京経済大学創立120周年記念展示 東京経済大学120年と創立者大倉喜八郎」（東京経済大学主催、於大倉集古館、10月）
- (キ) 島崎清海（元創造美育協会本部事務局長）の資料のうち主に書簡類の調査を行い、館内外向けに資料群の内容を説明するための準備を進めた。今後も引き続き資料調査を続け、戦後の美術教育および美術家の活動に与えた影響を見極めたい。

4 資料収集・修理・保管・利用

〈凡例〉

ア 購入、 イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換、 ウ 修理、 エ 貸出、 オ 特別利用、 カ その他

(1) 考古資料

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	深鉢形土器（横浜市三の丸遺跡）他	個人（東京都在住）	令和3年1月19日	1件64点
合計				1件64点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	壺（神奈川県立横須賀高等学校裏山遺跡）他	平成7年2月10日	-	1件3点
2	灰釉陶器碗（上浜田遺跡）他	平成30年4月12日	-	108件237点
合計				109件240点

エ 貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	小林幸雄氏コレクション	横浜市鶴見区役所・横浜市末吉地区センター1Fロビー	展示	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日	1件72点
2	土製頭部片（横浜市公田ジョウロ遺跡） 土偶（仏向貝塚、上白根町、三ツ沢貝塚）	横浜ユーラシア文化館・横浜ユーラシア文化館特別展・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館巡回特別展「しきしまの大和へ」関連展示「くらべてみよう！よこはまと大和を」での展示	展示	令和2年6月13日 ～7月12日	4件6点
3	珠文縁単弁五葉蓮華文軒丸瓦（複製・復元） 均整唐草文軒平瓦（複製・復元） 鬼瓦（複製・復元） 珠文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦（複製・復元） 扁行唐草文軒平瓦（複製・復元）	海老名市教育委員会教育長・常設展示及び史跡相模国分寺跡指定100周年にかかわる企画展示での展示	展示	令和2年9月17日 ～令和3年3月27日 *新型コロナウイルス感染症の影響により期間を以下に変更 ～令和3年12月31日	1件5点
合計					6件83点

オ 特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	環状斧形石器（破片）（間口洞窟出土）*県指定 環状石器 （横浜市旭区白根町、横浜市内）	個人・研究のため	熟覧 メモ 撮影	令和2年8月18日	1件3点
2	台付甕（横浜市都筑区大熊町宮原）	個人・研究のため	熟覧 実測 メモ 撮影	令和3年2月26日	1件1点
3	台付甕（横浜市都筑区大熊町宮原）	個人・研究のため	熟覧 実測 メモ 撮影	令和3年2月26日	1件1点
合計					3件5点

(2) 歴史資料

ア 購入

No.	資料名	概要	規格・寸法	数量
1	川崎駅駅長室案内標	昭和30～40年代	横47.0×奥行12.0×高32.0cm	1件1点
2	大正期川崎市関係地図	大正8年・大正15年	縦82.0×横115.0cm 他	2件2点
3	曾我師助書下	暦応2年(1339)	縦29.3×横40.2cm	1件1点
合計				4件4点

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	宮内家関係資料	個人(神奈川県在住)	令和2年9月11日	156件247点
2	横浜指路教会銘板 他	横浜指路教会	令和2年7月16日	2件2点
3	往来手形之事 文化十二年三月	個人(神奈川県在住)	令和2年9月24日	1件1点
4	鈴木快輔家資料 文書資料	個人(神奈川県在住)	令和2年9月24日	2件93点
5	鈴木快輔家資料 版木			
6	旧日本陸軍双眼鏡 他	個人(神奈川県在住)	令和2年10月27日	2件2点
7	横浜正金銀行辞令	個人(神奈川県在住)	令和3年2月25日	1件1点
8	八木和子関係資料	個人(神奈川県在住)	令和3年2月25日	24件26点
9	菊池香一郎詩集	個人(東京都在住)	令和3年2月25日	1件1点
10	化学天秤	神奈川県立産業技術総合研究所	令和3年3月18日	1件1点
合計				190件374点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	帝政ロシア製32ポンド砲(旧居留地90番出土の大砲)	平成16年2月1日	1件1点
2	長谷川氏所蔵文書	平成23年2月17日	1件22点
3	岩松家文書	平成25年2月1日	210件350点
4	稲葉正則書状 他	平成30年7月1日	1件2点
5	瀬戸 灰釉劃花木葉文梅瓶 他	令和元年10月16日	3件4点
合計			216件379点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	烏帽子形兜	昭和43年10月22日	-	1件1点
2	古瀬戸瓶子	昭和45年9月1日	-	1件1点
3	刀片(三増合戦場出土)	昭和47年6月10日	-	1件1点
4	関山家文書	昭和47年9月8日	-	1件24点
5	久崎家資料	昭和47年9月13日	-	1件197点
6	瀬戸 四耳壺 他	昭和48年7月1日	-	1件3点
7	渥美 灰釉壺 他	昭和48年10月1日	-	1件6点
8	本多家文書	昭和49年3月1日	-	1件953点
9	御用取締りのぼり	昭和49年4月26日	-	1件1点
10	嘆願書	昭和52年3月23日	-	1件1点
11	生麦村新地実測図(神奈川県令中島信行宛)	昭和52年12月1日	-	1件5点
12	舊荻野山中建物之繪図 他	昭和53年12月1日	-	1件19点
13	寺井家文書	昭和55年2月15日	-	1件16点

14	散弾銃	昭和55年4月1日	-	1件1点
15	羽柴秀吉知行充行状 天正十一年六月五日付	昭和58年5月20日	-	1件1点
16	平本家文書	昭和58年10月14日	-	1件1,309点
17	黒船来航絵巻	平成4年5月15日	-	1件1点
18	日月鳳凰螺鈿鞍	平成4年11月1日	-	1件1点
19	旧小田原城天守閣模型	平成5年12月15日	-	1件1点
20	辰御年貢可納割付之事 他	平成6年7月20日	-	1件2点
21	享保十四年九月酉之内検見引牒 他	平成6年10月7日	-	1件22点
22	中国青磁碗 線描き蓮弁文 他	平成18年6月1日	-	1件50点
23	旧横浜正金銀行本店本館改修工事関係資料	平成20年9月1日	-	1件7点
24	旧横浜正金銀行本店本館彩色立面図 他	平成22年10月15日	-	1件119点
25	銅造 明治天皇立像 他	平成23年12月15日	-	1件3点
合計				25件 2,745点

ウ 修理

No.	資料名	(備考)	数量
1	関八州大絵図	(制作年代 江戸時代)	1件1点
合計			1件1点

エ 貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	豊臣秀吉朱印状(足利頼淳宛) 足利義氏遺臣等(古河公方家奉行)連署状(6月3日付) 足利義氏遺臣等(古河公方家奉行)連署状(6月3日付)	さくら市ミュージアム—荒井寛方記念館— 第101回企画展「喜連川足利氏誕生の軌跡〜古河公方・小弓公方〜」	展示	令和2年11月28日 〜12月23日	3件3点
2	大般若経(巻三五五) 大般若経(巻四五四) 瀬戸灰釉壺 個人蔵 古銭(瀬戸灰釉壺納入品) 個人蔵	神奈川県立金沢文庫 特別展「武蔵国鶴見寺尾郷絵図の世界」	展示	令和3年3月26日 〜5月23日	4件4点
合計					7件7点

オ 特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	御沙汰書	個人研究調査	閲覧 撮影	令和2年8月26日	1件5点
2	自神奈川至小田原東海道図 相模国輿地全図	箱根町立郷土資料館	熟覧 撮影	令和2年8月26日	2件2点
3	坂本家文書	個人研究調査	熟覧 撮影	令和2年9月30日	1件53点
4	摺物東海道 上 摺物東海道 下	個人研究調査	閲覧 撮影	令和2年11月27日	2件2点
合計					6件62点

(3) 美術資料

ア 購入

No.	資料名	概要	規格・寸法	数量
1	祖栄筆 蘆葉達磨図	室町時代	縦45.5cm×横25.1cm	1件1点
2	川端玉章筆 函嶺景卷	明治6年(1873)	縦18.6cm×横520.7cm	1件1点
合計				2件2点

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換
(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	鍾馗図	個人(神奈川県在住)	令和2年5月26日	1件1点
合計				1件1点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	重要文化財 木造他阿真教坐像	平成17年5月24日	1件1点
2	束帯天神像 他	平成21年4月24日	9件9点
3	祖栄筆 柳に鷺図 他	平成21年8月1日	27件36点
4	眞葛焼(渡蟹水盤 他)	平成22年3月1日	28件37点
5	潘閭図 右都御史筆	平成25年7月2日	1件1点
6	齋藤俊吉氏旧蔵作品群	平成27年6月18日	1件63点
7	仁阿弥道八作焼締急須	平成27年6月26日	1件9点
8	一遍他阿真教像 他	平成28年3月25日	2件2点
9	山崎勢威子肖像	平成31年3月1日	1件1点
10	高橋広湖筆 松 他	平成28年5月20日	19件19点
11	絵瀬戸草文輪花皿 他	平成28年6月24日	7件49点
12	近代絵画作品群	平成29年3月1日	37件37点
13	開鶏下絵(下村観山) 他	平成29年5月1日	11件14点
14	本多錦吉郎 鍾馗図	平成30年4月1日	1件1点
15	大倉孫兵衛旧蔵 錦絵画帖 他	平成30年4月1日	2件598点
16	二河白道図 他	平成31年3月8日	4件4点
17	初代五姓田芳柳 婦人像 他	平成31年4月1日	15件16点
18	伝周文筆 山水図	平成31年4月1日	1件1点
19	僧形像頭部・誕生釈迦仏立像	平成31年4月10日	2件2点
20	新生紙パルプ商事株式会社寄託作品	平成31年5月31日	49件55点
21	女立像	令和元年6月19日	1件1点
22	右都御史之印 二十四孝図扇面 他	令和元年8月11日	10件33点
23	如水宗淵筆 山水図 他	令和元年8月21日	16件17点
24	鐸 奈良利寿作	令和元年11月15日	1件1点
25	蝶耳人物花鳥図香炉 他	令和元年11月15日	5件7点
26	極彩色鳳凰花瓶	令和元年11月15日	1件2点
27	ワーグマン旧蔵短刀	令和3年3月1日	1件1点
合計			255件 1,018点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	県重要文化財 紙本墨画淡彩十六羅漢図 他	昭和44年3月1日	-	2件17点

2	県重要文化財 絹本着色 熊野権現影向図	昭和44年3月1日	-	1件1点
3	県重要文化財 絹本着色 両界曼荼羅図 他	昭和44年7月1日	-	1件37点
4	常滑印花文壺 他	昭和48年3月1日	-	1件12点
5	東海道図屏風	昭和49年7月1日	-	1件1点
6	源氏物語図屏風	昭和50年3月10日	-	1件1点
7	絹本着色 七星如意輪曼荼羅図 他	昭和50年6月1日	-	1件25点
8	横浜浮世絵	昭和52年1月10日	-	1件473点
9	張交屏風	昭和52年7月15日	-	1件1点
10	県指定重要文化財 木造薬師如来坐像	昭和56年2月25日	-	1件1点
11	大小暦コレクション	昭和59年4月1日	-	1件40点
12	鴉図(以天宗清) 他	昭和63年7月7日	-	1件2点
13	江島金沢八景図屏風 他	平成4年12月1日	-	1件4点
14	本牧風景 他	平成5年6月15日	-	1件2点
15	鶴岡八幡宮境内出土品の内 板草履の芯 他	平成7年3月1日	-	1件19点
16	仁清意鶏形香合 他	平成12年3月1日	-	1件3点
17	俵藤太絵巻	平成12年5月1日	-	1件5点
18	好色十二候 他(喜多川歌麿)	平成12年12月20日	-	1件12点
19	箱根権現縁起絵巻 付 納入箱	平成13年8月1日	-	1件2点
20	賀茂真淵筆 伊勢物語古意 6冊 他	平成28年9月20日	-	12件19点
合計				32件677点

ウ 修理

No.	資料名	(備考)	数量
1	刀	(赤羽刀 No. 2515、官報 No. 2672、銘「相州住廣次作」、江戸時代初期)	1件1点
2	刀	(赤羽刀 No. 2516、官報 No. 2673、銘「廣次作」、江戸時代初期)	1件1点
3	長吉筆 布袋図	(室町時代)	1件1点
4	隅田花吾妻賑	(明治21年)	1件3点
合計			4件6点

エ 貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	東海道五十三次細見図会 藤沢歌川広重(初代) 東都名所高輪廿六夜待遊興之図 歌川広重(初代)	森アーツセンターギャラリー 「おいしい浮世絵」展	展示	令和2年8月15日 ～8月28日	2件2点
2	裸婦 百武兼行	佐賀県立博物館 佐賀県立博物館 50周年特別展 「THIS IS SAGA-2つの海が世界とつながり、佐賀をつくった-」	展示	令和2年9月18日 ～11月3日	1件1点

3	薬師如来坐像 保木薬師堂	横浜市歴史博物館	展示	令和3年1月23日 ～3月21日	2件2点
	大日如来坐像 宝生寺	特別展「横浜の仏像―しられざるみほとけたち」			
4	自画像 五姓田義松	一宮市三岸節子記念美術館	展示	令和3年1月30日 ～3月14日	2件2点
	人物習作 五姓田義松	一宮市三岸節子記念美術館企画展「自画像展」			
5	犬追物絵巻	神奈川県立金沢文庫	展示	令和3年3月26日 ～5月23日	3件3点
	釈迦十六善神像 弘明寺	特別展「武蔵国鶴見寺尾郷絵図の世界」			
	釈迦十六善神像 宝生寺				
6	鎌倉彫屈輪文香合	鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム 特別展「鶴岡八幡宮鎌倉彫名品展」	展示	令和3年3月26日～ 5月16日	12件12点
	鎌倉彫屈輪文香合				
	鎌倉彫獅子文香合				
	鎌倉彫七宝繫文筆				
	鎌倉彫七宝繫文燭台				
	鎌倉彫葡萄文台子				
	鎌倉彫鳳凰牡丹文六角卓				
	鎌倉彫獅子牡丹文卓				
	鎌倉彫阿弥陀位牌図鉦架支板				
	鎌倉彫阿弥陀三尊図鉦架支板				
	鎌倉彫残滓入れ				
	鎌倉彫草花文錫杖				
合計					22件22点

オ 特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用 方法	利用期間	数量
1	下村観山《画稿貼込帳》	個人研究調査	熟覧 撮影	令和3年1月20日	3件3点
	下村観山《草花禽虫写生図巻》				
	下村観山《スクラップブック》				
合計					3件3点

(4) 民俗資料

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換 (寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	庚申塔	個人（神奈川県在住）	令和3年3月28日	1件3点
合計				1件3点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	ダイカイ 他	平成27年5月14日	2件3点
合計			2件3点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	お食初め膳 他	昭和46年10月23日	－	1件3点
2	燭台	昭和47年3月6日	－	1件1点
3	長持 他	昭和47年3月6日	－	1件2点
4	お歯黒さし 他	昭和47年3月8日	－	1件2点

5	お歯黒の道具	昭和47年3月11日	-	1件1点
6	ミノ	昭和47年7月11日	-	1件2点
7	天狗の面 他	昭和48年2月27日	-	1件3点
8	帳場格子 他	昭和48年3月2日	-	1件15点
9	結納樽	昭和48年4月1日	-	1件1点
10	お馬板、ツノダル	昭和48年8月20日	-	1件3点
11	鏡台と鏡 他	昭和49年4月26日	-	1件4点
12	張子面木型	昭和51年6月19日	-	1件7点
13	獅子頭 他	昭和54年3月1日	-	1件11点
14	婚礼用具	昭和54年3月1日	-	1件1点
15	足踏み脱穀機	平成6年4月15日	-	1件2点
16	渡辺紳一郎時計コレクション	平成28年7月1日	-	1件22点
合計				16件80点

ウ 修理

No.	資料名	備考	数量
1	藤野町浄瑠璃人形	娘	1件4点

(5) 写真資料

令和2年度写真撮影資料

ア 特別展図録用

相模川流域のみほとけ

かながわの正月ーよい年になりますようにー

錦絵にみる明治時代ー丹波コレクションが語る近代ニッポンー

十王図

開基500年記念 早雲寺ー戦国大名北条氏の遺産と系譜ー

イ コレクション展示用

赤星直忠と神奈川県立博物館ー赤星直忠コレクション展ー

ウ 特別陳列用

出土文字資料からみる古代の神奈川

(6) 資料の燻蒸等

IPM(総合的病害虫管理 Integrated Pest Management)に基づき、日常的には「予防」の観点から資料保存活動を進めている。年に2回、文化財害虫調査ならびに空中浮遊菌調査を実施し、文化財害虫の生息状況やカビの発生危険度の把握に努めている。

本年度は展覧会出品予定資料および新収蔵資料等に対し、9月および11月に炭酸ガス燻蒸を行った。

(7) その他の資料

ア 図書

令和2年度図書資料の状況は次のとおりである。全国の博物館・美術館等からの寄贈も多く、当館の貴重な資料として活用されている。

受入種別	受入			除籍数	総数	ライブラリー公開数
	購入	寄贈	合計数			
図 書(冊)	4	611	615	5	21,698	4,325
図 録(冊)	0	554	554	7	17,400	656
逐次刊行物(タイトル)	23	23	—	3	2,535	83

※逐次刊行物はタイトル数で、寄贈は新規のみの数値。誌名変更等による新規書誌作成分を含む。

イ 写真

展示・調査研究資料として、収蔵資料を中心に撮影したフィルム 122,713 件とデジタルカメラデータ 36,659 件を保存し、データベース化するとともに、写真の特別利用として貸出しを行っている。

特別利用件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
件数	13	6	18	21	18	19	24	25	30	22	22	13	231
点数	14	30	37	33	28	47	40	32	74	121	93	39	588

ウ 情報システム

(ア) システム整備の目的と背景

- a 学習の支援
- b 高度な知的ニーズへの対応
- c 博物館活動の活性化、効率化
- d 研究活動の高度化
 - (a) 各種アプリケーションの利用
 - (b) 博物館が所有する情報の活用

e 情報公開

博物館の再編整備の方向（「県立博物館整備構想に関する提言」昭和 63 年度）

- (a) 高度情報化社会における自然・文化の情報センター
- (b) 映像資料等、新しい形態の資料の収集・保存と活用の拠点
- (c) 内外の博物館、学習文化施設等とのネットワークの拠点

(イ) システム開発と運用

- a システム基本設計・詳細設計 平成 5 年度
- b システム運用開始 平成 7 年度
- c システム更新 平成 13、18、23、28 年度

(ウ) 稼動しているシステム（「デジタルミュージアム」）の内容

a 展示情報システムの内容

ミュージアムライブラリーに設置された 2 台の来館者用端末と Web ページで提供している（No2 絵馬、No5 水墨画、No12 収蔵コレクションは、ミュージアムライブラリーの来館者用端末のみで提供）。一部資料については高精細拡大画像も提供している。

No.	タイトル	内容
1	浮世絵	博物館所蔵の約 7,000 点ある浮世絵の中から、浮世絵の歴史、神奈川を描いた浮世絵、横浜浮世絵、著名な浮世絵師たち、一枚の絵から見る江戸時代の風俗など、テーマごとに選択した 230 点の浮世絵を紹介。
2	絵馬	神奈川県でよく見ることが出来る絵馬や珍しい絵馬など 125 点を紹介。
3	関東大震災	震災時の惨状等を伝える写真資料 70 点を紹介。
4	古地図・絵地図	当館収蔵の古地図の中から 50 点を紹介。館内端末では拡大画像により、細部まで見ることが可能。
5	水墨画	平成 10 年度に開催した水墨画の特別展に出品された作品の中から代表的な作品 85 点を紹介。
6	横浜正金銀行	かつて世界三大為替銀行の一つに数えられた横浜正金銀行の写真資料 221 点を紹介。
7	眞葛焼	かつて世界に名を知られた横浜の焼き物の中から 46 点を紹介。

8	鎌倉彫	館蔵品の鎌倉彫の中から 32 点を紹介。
9	後北条氏関係文書	戦国大名北条氏の多様な文書の世界を人物などととも に 118 点を紹介。
10	東海道分間絵図	東海道の情景を描いた道中案内記(1 件 5 冊)を紹介。拡大画像により、細部まで見ることが可能。
11	県有形民俗文化財 職人の道具コレクション	神奈川県指定有形民俗文化財「神奈川の職人の道具コレクション」(17 職種 1,982 点)のうち、大山木地師、小田原物差職人、下駄職人、傘職人の道具など、338 点を紹介。
12	収蔵コレクション	収蔵データベースの一部について、概要を一覧形式で提供する。 考古：206 点、中世文書 96 点、彫刻：14 点、中世絵画 80 点、 浮世絵：288 点、近代歴史資料 260 点、近代絵画 156 点、民俗 306 点
計 2,722 点		
※この他に、神奈川県立生命の星・地球博物館が作成・提供している「神奈川の自然」「恐竜」「酒井コレクション細密画」「図書・雑誌検索」も閲覧が可能		

b 業務システムの内容

(a) 収蔵資料管理システム：収蔵品管理機能、画像登録機能、受入管理機能、特別利用管理運用機能、各種帳票ラベル出力機能

(b) 図書文献管理システム

(イ) システム構成

a 概要

館内 LAN を利用したサーバクライアントシステム

b 設置機器

(a) 情報処理室・電源室

収蔵システムサーバ、Web サーバ、展示情報用サーバ、
アップデートサーバ、図書サーバ、CMSサーバ、作業用パソコン

(b) ミュージアムライブラリー

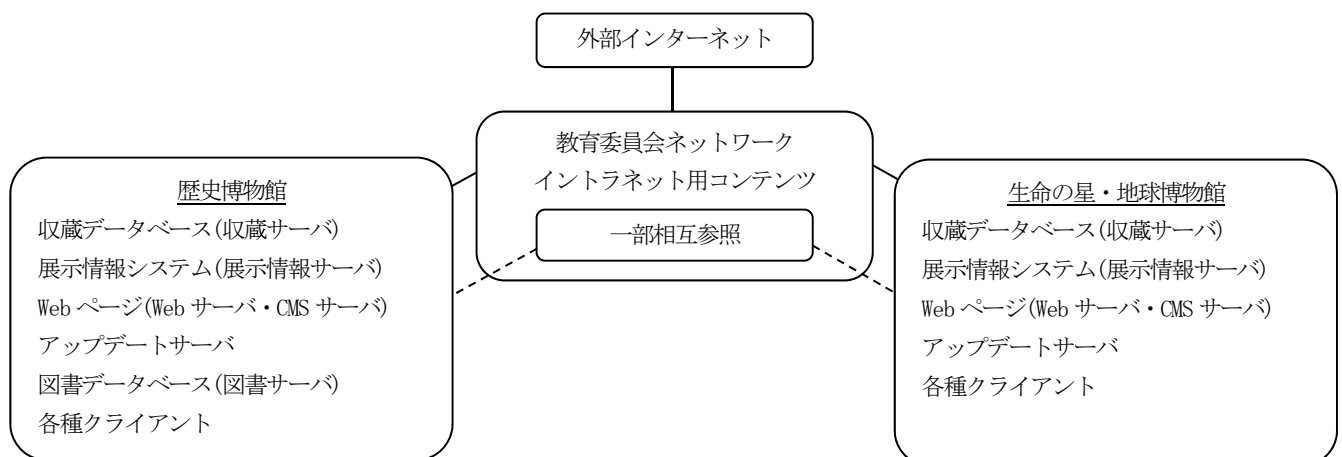
来館者用パソコン、レファレンス用パソコン

(c) 展示機材倉庫 (印刷室)

画像入力用パソコン

(d) 学芸部室・学芸部各資料整理室・管理課室・企画情報部室・図書資料整理室・写真室・暗室
各室作業用パソコン

(オ) 歴史博物館システム機器構成図



(カ) ホームページアクセス件数 (再掲)

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
HP	62,785	81,141	97,472	92,818	115,221	162,755	137,264	124,107	92,344	98,930	82,036	109,591	1,256,464

参考 (内数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
デジタル ミュージアム	1,025	1,541	1,632	1,257	1,372	1,673	1,390	1,175	1,243	1,186	1,109	1,307	15,910

5 展示・教育普及・学習支援

(1) 総合テーマ展示（常設展）

ア 常設展の概要

当館の常設展示は「文化の交流と変容」という基本テーマに基づき、「かながわの文化と歴史」について、五つの時代に分け、それぞれのテーマのもとに、人々の生活や信仰、政治や経済の変化、外来文化の影響などを、さまざまな角度からとらえ、歴史的視点で展開している。

テーマ1 さがみの古代に生きた人びと

- ・大地に生きる狩人
- ・海への進出
- ・米づくり、はじまる
- ・古墳を築く
- ・都とさがみの国

テーマ2 都市鎌倉と中世びと

- ・源頼朝と東国武士団
- ・戦国大名後北条氏
- ・掘り起こされた鎌倉
- ・唐物とその影響
- ・民衆と仏教

テーマ3 近世の街道と庶民文化

- ・宿場と関所
- ・庶民信仰と名所めぐり
- ・村の支配と生活
- ・相武の産物と江戸

テーマ4 横浜開港と近代化

- ・蒸気船が導いた新たな時代
- ・世界へ開かれたみなとYOKOHAMA
- ・文明開化の音
- ・近代化と神奈川
- ・横浜浮世絵に見る神奈川
- ・横浜正金銀行

テーマ5 現代の神奈川と伝統文化

- ・関東大震災を越えて
- ・昭和恐慌と社会変化
- ・戦時体制と敗戦
- ・占領から講和へ
- ・高度経済成長と環境の変化
- ・変貌する町と村
- ・イエと暮らし
- ・くらしの中の祈り
- ・なりわいと儀礼
- ・伝承される技術と芸能

イ 常設展の展示替えと「トピック展示」の実施

常設展の展示資料のうち実物資料については、資料保存の観点から定期的な展示替えを行っており、資料整理休館日を中心に500件以上の展示替えを実施した。また、特定の小テーマによる「トピック展示」を随時行っており令和2年度は下記の通り実施した。

〈テーマ2〉「関東水墨画壇の扇絵」、「仏教絵画の動物たち」、「絵をうつす—山水画編—」

〈テーマ3〉二代歌川広重「諸国名所百景」第四弾・第五弾、「浮世絵師が描いたうちわ絵」、昇斎一景「東京名所四十八景」第一弾・第二弾、「津久井縣日連村文書1 奇特者政右衛門」、「津久井縣日連村文書2 対外防衛と葦山農兵」、「宝永4年 富士山噴火」、「箱根七湯」

〈テーマ4〉「関野準一郎 東海道五十三次」、「五姓田義松作品選」

ウ 展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」

スマートフォンを使用し、音声ガイドにも対応可能な展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」を導入し、常設展および特別展で活用している。音声4言語（日本語・英語・中国語・韓国語）および文字5言語（日本語・英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語）、画像による解説をしており常設展の日本語・英語の音声解説は県内の高校生がナレーションをしている。また、神奈川県立平塚盲学校と連携して、視覚障がいのある方がイメージを喚起しやすい文字解説を作成するとともに、その文字解説を放送部に所属する県内の高校生が読み上げる音声解説を提供している。

(2) 特別展

ア 「明治錦絵×大正新版画 ―世界が愛した近代の木版画―」展

会 期：8月25日(火) ～ 9月22日(火)

主 催：神奈川県立歴史博物館

協 力：株式会社大倉陶園、株式会社ノリタケカンパニーリミテド、新生紙パルプ商事株式会社、大倉精神文化研究所、株式会社セリク、木版館、版画紙研究会、鎌倉市芸術文化振興財団、鎌倉市鏑木清方記念美術館、東海大学、日本女子大学

後 援：神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、共同通信社横浜支局、時事通信社横浜総局、NHK 横浜放送局、TVK(テレビ神奈川)、ラジオ日本、FM ヨコハマ、J:COM

展示資料件数：209 件

入 場 者 数：5,719 名 (有料 4,464 名、無料 1,255 名)

担 当：主任学芸員 角田 拓朗

概 要：本展は、東京オリンピック・パラリンピックの開催にあわせて、「日本」イメージを考察すべく、明治以後の木版画の展開を紹介する企画とした。当初は4月25日から6月21日の会期を予定していたが、新型コロナウイルス対策のため中止となり、上記日程で復活開催したものである。

本展の特色は、近代木版画という広範囲な対象のなかから、二人の版元に焦点を当てたことにある。明治期の錦絵として版元大倉孫兵衛であり、平成30年に当館に寄託された錦絵画帖の全点公開をひとつの目玉とした。大正新版画としては土井版画店をとりあげ、川瀬巴水、土屋光逸、ノエル・ヌエットを特集した。また蒐集家である土井利一氏、クリスチャン・ボラック氏の全面的な協力を得て、通期の全点公開も叶った。図録は新生紙パルプ商事株式会社の協力により、高品質な用紙による印刷が実現し、全点カラー図版で公開することが叶い、研究面でも大きな成果となった。展示においては、感染防止対策として、特設 web、ポケット学芸員、動画配信などを充実させた。入館者制限による対応の負担はあったものの、上記の対応により待ち時間対応や展示室内での密は解消され、全体としては好評だった。

そのほか広報面での連携として平塚市美術館と、またワークショップの連携として東海大学と、それぞれ準備を進めたが、上記と同じ理由により、実現が果たせなかったことは残念だった。また、本展では、同時開催として、コレクション展「当館所蔵近代版画コレクション選」を企画していた。当館所蔵の銅石版画を集中的に紹介する企画だったが、復活開催に際して、展示構成を変更せざるを得ず、コレクション展示は中止とした。

関 連 行 事：・実物講座「近代木版画の展開 アートとビジネスのはざまに」

・子ども向けワークショップ「木版画を摺ってみよう！」

・神奈川県博×東海大学課程資格教育センター連携プロジェクト

・実演講座「木版画を彫る・摺る」

・学芸員による展示解説

4月25日、5月3日、4日、5日、24日、31日、6月7日、14日、21日

(※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会期を変更して開催したため会期中の行事はすべて中止とした。)

出 品 目 録：(凡例) No.、名称、絵師名、年代、所蔵

1-1 大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖 当館寄託	1-5 廣田暁山 草木華鳥図会 文鳥白頭鶯海棠黃薔薇 明治11年 当館寄託(新生紙パルプ商事株式会社蔵)
1-2 孟齋芳虎 北条父子宇都宮城攻之図 慶応4年 当館寄託(新生紙パルプ商事株式会社蔵)	1-6 芝琳齋 新撰三十六花鳥 百合千鳥 明治11年頃 当館寄託(新生紙パルプ商事株式会社蔵)
1-3 大蘇芳年 明治小吏年間記事 明治9年 当館寄託(新生紙パルプ商事株式会社蔵)	1-7 芝琳齋 新撰三十六花鳥 ねむの木美人 草鶯鳥啄木鳥 明治11年頃 当館寄託(新生紙パルプ商事株式会社蔵)
1-4 楊州齋周延 鹿児島城激戦之図 明治10年 当館寄託(新生紙パルプ商事株式会社蔵)	

1-8 幸野棹嶺 棹嶺花鳥画譜 春三 海棠孔雀 大判錦絵 明治16年 当館寄託（新生紙パルプ商事株式会社蔵）	2-10 川瀬巴水 東京二十景 新大橋 大正15年 土井利一コレクション
1-9 幸野棹嶺 棹嶺花鳥画譜 春十二 藤花青鶴 大判錦絵 明治16年 当館寄託（新生紙パルプ商事株式会社蔵）	2-11 川瀬巴水 東京二十景 神田明神境内 大正15年 土井利一コレクション
1-10 幸野棹嶺 棹嶺花鳥画譜 秋九 断腸花鳥骨鶏 明治16年 当館寄託（新生紙パルプ商事株式会社蔵）	2-12 川瀬巴水 東京二十景 御茶の水 大正15年 土井利一コレクション
1-11 幸野棹嶺 棹嶺花鳥画譜 冬九 蟬梅鸚鵡 明治16年 当館寄託（新生紙パルプ商事株式会社蔵）	2-13 川瀬巴水 東京二十景 浅草観音乃雪晴 大正15年 土井利一コレクション
1-12 幸野棹嶺 棹嶺花鳥画譜 冬十 鳥鴨温牡丹 明治16年 当館寄託（新生紙パルプ商事株式会社蔵）	2-14 川瀬巴水 東京二十景 大根河岸の朝 昭和2年 土井利一コレクション
1-13 幸野棹嶺著 『棹嶺百鳥画譜』 明治14年 当館寄託 （新生紙パルプ商事株式会社蔵）	2-15 川瀬巴水 東京二十景 上野清水堂 昭和3年 土井利一コレクション
1-14 児玉永成編 『新選古代模様鑑』 天地 明治17年 当館 寄託	2-16 川瀬巴水 東京二十景 千束池 昭和3年 土井利一コレクション
1-15 渡辺省亭著 『省亭花鳥画譜』 一、二、三 明治23、24年 当館寄託（新生紙パルプ商事株式会社蔵）	2-17 川瀬巴水 東京二十景 池上市之倉（夕陽） 昭和3年 土井利一コレクション
1-16 葛飾北斎 『北斎花鳥画伝』 明治24年 当館寄託（新 生紙パルプ商事株式会社蔵）	2-18 川瀬巴水 東京二十景 桜田門 昭和3年 土井利一コレ クション
1-17 松本楓湖ほか編 『日本歴史画報』 第三号 明治25年 当館寄託（新生紙パルプ商事株式会社蔵）	2-19 川瀬巴水 東京二十景 明石町乃雨後 昭和3年 土井利 一コレクション
1-18 久保田米僊著画 『閣龍世界博覧会美術品画譜』 一、二 明治26年 当館寄託（新生紙パルプ商事株式会社蔵）	2-20 川瀬巴水 東京二十景 矢口 昭和3年 土井利一コレ クション
1-19 井口昇山工場 色絵盛上菊雀文皿 高 1.9、径 18.5 明治20年代 株式会社ノリタケカンパニーリミテド	2-21 川瀬巴水 東京二十景 荒川の月（赤羽） 昭和4年 土 井利一コレクション
1-20 森村組 色絵金彩薔薇文蓋付飾壺 明治30年代 株式 会 社ノリタケカンパニーリミテド	2-22 川瀬巴水 東京二十景 瀧之川 昭和4年 土井利一コレ クション
1-21 大倉陶園 白磁薄肉彫蓋付菓子鉢 大正2年 大倉陶園	2-23 川瀬巴水 東京二十景 桔梗門 昭和4年 土井利一コレ クション
1-22 大倉陶園 百鳥画譜絵替り皿 現代 大倉陶園	2-24 川瀬巴水 東京二十景 不忍池之雨 昭和4年 土井利一 コレクション
1-23 大倉陶園 ブルーローズティーセット 現代 大倉陶園	2-25 川瀬巴水 東京二十景 月島の雪 昭和5年 土井利一コレ クション
1-24 成瀬仁蔵宛大倉孫兵衛書簡 明治45年 大倉陶園	2-26 川瀬巴水 東京二十景 大森海岸 昭和5年 土井利一コ レクション
1-25 成瀬仁蔵宛大倉孫兵衛書簡 大正7年 大倉陶園	2-27 川瀬巴水 東京二十景 馬込の月 昭和5年 土井利一コ レクション
2-1 川瀬巴水 冬の月（戸山ヶ原） 昭和6年 土井利一コレ クション	2-28 川瀬巴水 東京二十景 平河門 昭和5年 土井利一コレ クション
2-2 川瀬巴水 富士の雪晴（田子の浦） 昭和7年 土井利一 コレクション	2-29 川瀬巴水 東京二十景 上野清水堂（試摺／薄版）昭和3年 土井利一コレクション
2-3 川瀬巴水 暮るる雪（江戸川） 昭和7年 土井利一コレ クション	2-30 川瀬巴水 東京二十景 桜田門（別摺／柳版） 昭和3年 土井利一コレクション
2-4 川瀬巴水 春之雪（京之清水） 昭和7年 土井利一コレ クション	2-31 川瀬巴水 代地の雪 大正14年 土井利一コレクション
2-5 川瀬巴水 春之雪（京之清水） 昭和7年 土井利一コレ クション	2-32 川瀬巴水 歌舞伎座 大正14年 土井利一コレクション
2-6 川瀬巴水 夜之池畔（不忍池） 昭和7年 土井利一コレ クション	2-33 川瀬巴水 浜町河岸 大正14年 土井利一コレクション
2-7 川瀬巴水 春雨（護国寺） 昭和7年 土井利一コレクシ ョン	2-34 川瀬巴水 山王の残雪 大正15年 土井利一コレクション
2-8 川瀬巴水 五月雨（荒川） 昭和7年 土井利一コレクシ ョン	2-35 川瀬巴水 芝大門 大正15年 土井利一コレクション
2-9 川瀬巴水 東京二十景 芝増上寺 大正15年 土井利一コ レクション	2-36 川瀬巴水 日光華厳龍 昭和2年 土井利一コレクション
	2-37 川瀬巴水 日光ニッ堂 昭和4年 土井利一コレクション
	2-38 川瀬巴水 浅草の朝の雨 昭和5年 土井利一コレクション

2-39 川瀬巴水 日光けごんの瀧 昭和11年頃 土井利一コレクション	2-68 土屋光逸 浅草観音仁王門 昭和9年 土井利一コレクション
2-40 川瀬巴水 十和田湖 昭和11年頃 土井利一コレクション	2-69 土屋光逸 本栖湖 昭和9年 土井利一コレクション
2-41 土屋光逸 請和使談判之図 明治28年 土井利一コレクション	2-70 土屋光逸 精進湖 昭和9年 土井利一コレクション
2-42 土屋光逸 征清軍隊奉迎之図 明治28年 土井利一コレクション	2-71 土屋光逸 根津神社 昭和9年 土井利一コレクション
2-43 土屋光逸 鎮遠号縦覧之図 明治28年 土井利一コレクション	2-72 土屋光逸 湯島天神 昭和10年 土井利一コレクション
2-44 土屋光逸 北海道大沼公園 不祥 土井利一コレクション	2-73 土屋光逸 二見が浦 昭和10年 土井利一コレクション
2-45 土屋光逸 菖蒲 不祥 土井利一コレクション	2-74 土屋光逸 雪の宮島 昭和11年 土井利一コレクション
2-46 土屋光逸 唐美人 不祥 土井利一コレクション	2-75 土屋光逸 舞子の浜 昭和11年 土井利一コレクション
2-47 土屋光逸 鍾馗 昭和24年 土井利一コレクション	2-76 土屋光逸 真鶴港 昭和11年 土井利一コレクション
2-48 土屋光逸 牛込神楽坂〈戦前初版〉 昭和14年 土井利一コレクション	2-77 土屋光逸 横浜三溪園 昭和11年 土井利一コレクション
2-49 土屋光逸 牛込神楽坂〈戦後直後摺〉 昭和20年代 土井利一コレクション	2-78 土屋光逸 横浜三溪園〈校合摺〉 昭和11年 土井利一コレクション
2-50 土屋光逸 牛込神楽坂〈昭和四十年代〉 昭和40年代 土井利一コレクション	2-79 土屋光逸 田子の浦 昭和11年 土井利一コレクション
2-51 土屋光逸 牛込神楽坂〈平成摺〉 現代 土井利一コレクション	2-80 土屋光逸 安芸宮島 昭和11年 土井利一コレクション
2-52 土屋光逸 東京風景 増上寺の雪 昭和8年 土井利一コレクション	2-81 土屋光逸 夏の月 宮島 昭和11年 土井利一コレクション
2-53 土屋光逸 東京風景 日比谷の月 昭和8年 土井利一コレクション	2-82 土屋光逸 夜の三井寺 昭和11年 土井利一コレクション
2-54 土屋光逸 東京風景 弁慶橋 昭和8年 土井利一コレクション	2-83 土屋光逸 雪の宮島 昭和12年 土井利一コレクション
2-55 土屋光逸 東京風景 高輪泉岳寺 昭和8年 土井利一コレクション	2-84 土屋光逸 名古屋城 昭和12年 土井利一コレクション
2-56 土屋光逸 東京風景 浅草観音堂 昭和8年 土井利一コレクション	2-85 土屋光逸 奈良興福寺 昭和12年 土井利一コレクション
2-57 土屋光逸 東京風景 銀座の雨 昭和8年 土井利一コレクション	2-86 土屋光逸 舞子の浜 昭和13年 土井利一コレクション
2-58 土屋光逸 東京風景 隅田川水神森 昭和9年 土井利一コレクション	2-87 土屋光逸 九州箱崎八幡宮 昭和13年 土井利一コレクション
2-59 土屋光逸 東京風景 柳橋 昭和9年 土井利一コレクション	2-88 土屋光逸 瀬戸内海明石の港 昭和13年 土井利一コレクション
2-60 土屋光逸 東京風景 根津神社 昭和9年 土井利一コレクション	2-89 土屋光逸 西湖の夕照 昭和13年 土井利一コレクション
2-61 土屋光逸 東京風景 四ツ谷荒木横町 昭和10年 土井利一コレクション	2-90 土屋光逸 箱根湖水 昭和13年 土井利一コレクション
2-62 土屋光逸 東京風景 品川沖 昭和10年 土井利一コレクション	2-91 土屋光逸 上野清水堂 昭和15年 土井利一コレクション
2-63 土屋光逸 東京風景 上野公園 昭和10年 土井利一コレクション	2-92 土屋光逸 日光五重の塔 昭和10年代 土井利一コレクション
2-64 土屋光逸 東京風景 浅草観音堂〈校合摺〉 昭和8年 土井版画展	2-93 土屋光逸 祇園の夜桜 昭和7年 土井利一コレクション
2-65 土屋光逸 亀戸天満宮 昭和8年 土井利一コレクション	2-94 土屋光逸 矢橋の帰帆 昭和7年 土井利一コレクション
2-66 土屋光逸 京都二条城 昭和9年 土井利一コレクション	2-95 土屋光逸 堅田浮身堂の雪 昭和7年 土井利一コレクション
2-67 土屋光逸 奈良猿沢の池 昭和9年 土井利一コレクション	2-96 土屋光逸 瀬戸内海 鞆之津 昭和15年 土井利一コレクション
	2-97 土屋光逸 雪晴の松島 昭和10年 土井利一コレクション
	2-98 土屋光逸 水郷潮来 昭和12年 土井利一コレクション
	2-99 土屋光逸 利根川 昭和10年代 土井利一コレクション
	2-100 土屋光逸 房州 小港 昭和10年代 土井利一コレクション
	2-101 土屋光逸 奈良 猿沢の池 昭和16年 土井利一コレクション
	2-102 土屋光逸 日光神橋 昭和14年 土井利一コレクション
	2-103 土屋光逸 東海道富士川 昭和14年 土井利一コレクション
	2-104 土屋光逸 甲州 河口湖 昭和13年 土井利一コレクション
	2-105 土屋光逸 三保の松原 昭和13年 土井利一コレクション

2-106	土屋光逸 夜の熱海 昭和14年 土井利一コレクション	2-134	ノエル・ヌエット 東京風景 両国橋 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション
2-107	土屋光逸 日光五重塔 昭和5年頃 土井利一コレクション	2-135	ノエル・ヌエット 東京風景 日本橋 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション
2-108	土屋光逸 森ヶ崎海岸 昭和5年頃 土井利一コレクション	2-136	ノエル・ヌエット 東京風景 増上寺 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館
2-109	土屋光逸 日光二荒山 昭和5年頃 土井利一コレクション	2-137	ノエル・ヌエット 東京風景 不忍池 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション
2-110	土屋光逸 天の橋立 昭和10年代 土井利一コレクション	2-138	ノエル・ヌエット 東京風景 隅田川 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館
2-111	土屋光逸 田子の浦 (カレンダー仕様) 昭和11年 土井利一コレクション	2-139	ノエル・ヌエット 東京風景 桜田門 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館
2-112	土屋光逸 木版画集「箱根選景」 昭和13年 土井利一コレクション	2-140	ノエル・ヌエット 東京風景 歌舞伎座 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館
2-113	土屋光逸 狸 昭和10年代 土井利一コレクション	2-141	ノエル・ヌエット 東京風景 明治神宮 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館
2-114	土屋光逸 鷺 昭和10年代 土井利一コレクション	2-142	ノエル・ヌエット 東京風景 日比谷 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館
2-115	土屋光逸 鴛鴦 昭和10年代 土井利一コレクション	2-143	ノエル・ヌエット 東京風景 靖国神社 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館
2-116	土屋光逸 孔雀 昭和10年代 土井利一コレクション	2-144	ノエル・ヌエット 東京風景 井之頭公園 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション
2-117	土屋光逸 鴨 昭和10年代 土井利一コレクション	2-145	ノエル・ヌエット 東京風景 赤坂見附 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館
2-118	土屋光逸 石楠花 昭和5年頃 土井利一コレクション	2-146	ノエル・ヌエット 東京風景 黒門 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館
2-119	土屋光逸 石楠花 昭和5年頃 土井利一コレクション	2-147	ノエル・ヌエット 東京風景 芝 古川 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館
2-120	土屋光逸 Process of woodcut prints 昭和10年代 土井利一コレクション	2-148	ノエル・ヌエット 東京風景 弁慶堀 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館
2-121	ノエル・ヌエット 『東京 一外人の見た印象』 昭和9年 クリスチャン・ポラックコレクション	2-149	ノエル・ヌエット 東京風景 上野公園 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館
2-122	ノエル・ヌエット 『東京 一外人の見た印象 二集』 昭和10年 クリスチャン・ポラックコレクション	2-150	ノエル・ヌエット 東京風景 紀尾井町 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション
2-123	ノエル・ヌエット 『東京 古い都・現代都市』 昭和12年 クリスチャン・ポラックコレクション	2-151	ノエル・ヌエット 東京風景 亀戸 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館
2-124	ノエル・ヌエット 『En écoutant le veilleur de nuit』 昭和15年 クリスチャン・ポラックコレクション	2-152	ノエル・ヌエット 東京風景 馬場先門 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館
2-125	ノエル・ヌエット 『Papillons endormis』 昭和17年 クリスチャン・ポラックコレクション	2-153	ノエル・ヌエット 東京風景 池上本門寺 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館
2-126	ノエル・ヌエット 『Paris』 昭和42年 クリスチャン・ポラックコレクション	2-154	ノエル・ヌエット 東京風景 浅草寺 昭和11年 明治大学図書館
2-127	ノエル・ヌエット 『東京』 昭和21年 クリスチャン・ポラックコレクション	2-155	ノエル・ヌエット 東京風景 御茶の水 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション
2-128	ノエル・ヌエット 『宮城環景』 昭和22年 クリスチャン・ポラックコレクション	2-156	ノエル・ヌエット 東京風景 神楽坂 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション
2-129	ノエル・ヌエット 酒井傳六訳『東京のシルエット』 昭和29年 クリスチャン・ポラックコレクション	2-157	ノエル・ヌエット 「東京百景」 頒布会リーフレット 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション
2-130	ノエル・ヌエット 川島順平訳『東京誕生記』 昭和30年 クリスチャン・ポラックコレクション	2-158	ノエル・ヌエット 東京風景 両国橋 (墨摺) 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション
2-131	ノエル・ヌエット 『Histoire de Tokyo』 昭和36年 クリスチャン・ポラックコレクション		
2-132	ノエル・ヌエット 東京風景 目録 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館		
2-133	ノエル・ヌエット 東京風景 桔梗門 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション 明治大学図書館		

2-159	ノエル・ヌエット 東京風景 井之頭公園〈墨摺〉 昭和11年 明治大学図書館	2-171	鐺木清方 五月雨『今様 夏の巻』 明治45年 鎌倉市鐺木清方記念美術館
2-160	ノエル・ヌエット 東京風景 御茶の水〈墨摺〉 昭和11年 明治大学図書館	2-172	鐺木清方 尾崎紅葉・原著『金色夜叉絵巻』 明治45年 鎌倉市鐺木清方記念美術館
2-161	ノエル・ヌエット 東京風景 不忍池〈校合摺〉 昭和11年 明治大学図書館	2-173	鐺木清方 ゆふ暮『文藝倶楽部』第十三卷第十二号 明治40年 鎌倉市鐺木清方記念美術館
2-162	ノエル・ヌエット 東京風景 明治神宮〈校合摺〉 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション	2-174	鐺木清方 伽羅『文藝倶楽部』第十四卷第五号 明治41年 鎌倉市鐺木清方記念美術館
2-163	ノエル・ヌエット 東京風景 靖国神社〈校合摺〉 昭和11年 クリスチャン・ポラックコレクション	2-175	鐺木清方 いで湯の夕べ『文藝倶楽部』第十八卷第十一号 大正元年 鎌倉市鐺木清方記念美術館
2-164	ノエル・ヌエット 国会議事堂 昭和11年 明治大学図書館	2-176	鐺木清方 こすもす『文藝倶楽部』第十九卷第十四号 大正2年 鎌倉市鐺木清方記念美術館
2-165	ノエル・ヌエット 東京 平河門 昭和25年 明治大学図書館	2-177	橋口五葉 盆持てる女 大正9年 神奈川県立歴史博物館
2-166	ノエル・ヌエット 東京 神田明神 昭和25年 明治大学図書館	2-178	橋口五葉 紅筆を持てる女 大正9年 神奈川県立歴史博物館
2-167	ノエル・ヌエット 東京 井之頭 昭和25年 明治大学図書館	2-179	橋口五葉 夏衣の女 大正9年 神奈川県立歴史博物館
2-168	ノエル・ヌエット 肉筆スケッチ「歌川広重墓所」 昭和20年 クリスチャン・ポラックコレクション	2-180	『大近松全集』木版附録 大正11～14年 土井利一コレクション
2-169	ノエル・ヌエット 絵葉書集「TOKYO」 昭和30年代 クリスチャン・ポラックコレクション	2-181	鳥居言人 髪梳き 昭和8年 土井利一コレクション
2-170	石井柏亭 東京十二景 新ばし 大正4年頃 土井利一コレクション	2-182	鳥居言人 髪梳き〈絶版摺〉 昭和8年 土井利一コレクション
		2-183	ポール・ジャクレー 翡翠の女 昭和15年 土井利一コレクション
		2-184	鐺木清方 築地明石町 昭和6年 土井利一コレクション

イ 「十王図」展【中止】

会 期：7月18日(土) ～ 8月30日(日)
主 催：神奈川県立歴史博物館
担 当：学芸員 橋本 遼太
関 連 行 事：・講演会「神奈川県所有《十王図》の修理内容とその特殊性」7月19日(日)
・子ども向け講演会「ほんとうは怖くない！エンマさま」8月2日(日)
・講演会「十王図の図像と転写にみる死生観」8月23日(日)
・学芸員による展示解説
7月18日、25日、8月1日、8日、15日、22日、29日

ウ 「相模川流域のみほとけ」展

会 期：10月10日(土) ～ 11月29日(日)
主 催：神奈川県立歴史博物館
後 援：神奈川県新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、共同通信社横浜支局、時事通信社横浜総局、NHK 横浜放送局、TVK(テレビ神奈川)、ラジオ日本、FMヨコハマ、J:COM、相模原市教育委員会、平塚市教育委員会、藤沢市、茅ヶ崎市教育委員会、厚木市教育委員会、海老名市教育委員会、座間市教育委員会、寒川町教育委員会、愛川町教育委員会
助 成：文化庁[令和2年度地域の文化資産を活用した展覧会支援事業]
展示資料件数：75件
入 場 者 数：10,411名(有料6,865名、無料3,546名)
担 当：学芸員 神野 祐太

概要：相模川流域に伝わる仏像を中心とした仏教美術を紹介する初めての展覧会である。古代には相模国の国府・国分寺・国分尼寺が営まれ、中世には鎌倉仏教の高僧が往来した。その地域に伝わる海老名市龍峰寺千手観音菩薩像（重要文化財）をはじめ、初公開を含む多数の仏像が一堂に会する貴重な機会である。海老名市温故館と連携し、当該地域からの来館者が増え、これまで知られていなかった地域の魅力の再評価につながった。

関連行事：・入門講座「相模川流域のみほとけたち」10月11日(日)
 ・県博セミナーⅠ期「相模川流域の仏教美術とその周辺をさぐる」
 10月18日、25日、11月1日、8日、15日(日)
 ・現地見学会「相模国分寺を歩く」11月11日(水)
 ・子ども向け「ぶつぞうぬりえにいどむ！」(会期中実施)10月10日(土)～11月29日(日)
 (※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため展示室内での開催は中止し、HP上に掲載した。)
 ・風景印押印イベント
 (※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため中止)
 ・学芸員による展示解説
 10月10日、17日、24日、31日、11月7日、14日、21日、28日

出品目録：(凡例) No.、指定、作品/資料名、材質/技法、製作年、所蔵

*資料名の前に付した記号のうち、◎は重要文化財、□は区・市指定文化財を示す。

1 三角縁四神二獣鏡 (平塚市 真土大塚山古墳) 青銅製 3世紀 東京国立博物館	17 十一面観音菩薩頭上面 (平塚市 四之宮下郷廃寺跡) 銅造 平安～鎌倉時代 12～13世紀 平塚市博物館
2 銅鏃 (平塚市 真土大塚山古墳) 青銅製 古墳時代 4世紀 東京国立博物館	18 □「国厨」墨書土器 (平塚市 稲荷前A遺跡) 奈良時代 8世紀 平塚市教育委員会
3 巴形銅器 (平塚市 真土大塚山古墳) 青銅製 古墳時代 4世紀 東京国立博物館	19 「大住」墨書土器 (平塚市 稲荷前A遺跡) 平安時代 9世紀 平塚市教育委員会
4 軒丸瓦 (茅ヶ崎市 下寺尾廃寺跡) 奈良時代 8世紀 茅ヶ崎市教育委員会	20 「曹司」墨書土器 (平塚市 高林寺遺跡) 平安時代 9世紀 平塚市教育委員会
5 鬼瓦 (茅ヶ崎市 下寺尾廃寺跡) 奈良時代 8世紀 神奈川県教育委員会	21 「大佛」墨書土器 (平塚市 天神前遺跡) 平安時代 10世紀 平塚市教育委員会
6 千手観音菩薩懸仏 (茅ヶ崎市 下寺尾廃寺跡) 銅造 平安～鎌倉時代 12～13世紀 茅ヶ崎市教育委員会	22 瓦塔 (平塚市 神明久保遺跡) 平安時代 8～9世紀 平塚市教育委員会
7 経軸端 (茅ヶ崎市 下寺尾廃寺跡) 銅製 平安時代 12世紀 茅ヶ崎市教育委員会	23 □匙 (平塚市 山王A遺跡) 佐波理製 奈良時代もしくは新羅時代 8世紀 平塚市教育委員会
8 板状銅製品残欠 (茅ヶ崎市 下寺尾廃寺跡) 銅製 平安時代か、茅ヶ崎市教育委員会	24 ◎千手観音菩薩立像 木造 奈良～鎌倉時代 8～13世紀 海老名市・龍峰寺
9 匙 (茅ヶ崎市 下寺尾廃寺跡) 佐波理製 奈良時代もしくは新羅時代 8世紀 茅ヶ崎市教育委員会	25 □大日如来坐像 木造 平安時代 12世紀 寒川町・安楽寺
10 水煙残欠 (海老名市 相模国分寺跡) 銅製 奈良～平安時代 8～9世紀 海老名市教育委員会	26 □菩薩立像 木造 2軀 平安時代 12世紀 厚木市・延命寺
11 軒丸瓦 (海老名市 相模国分寺跡) 奈良時代 8世紀 海老名市教育委員会	27 十一面観音菩薩立像 木造 平安時代 12世紀 藤沢市・法照寺
12 鬼瓦 (海老名市 相模国分寺跡) 奈良～平安時代 8～9世紀 海老名市教育委員会	28 □聖観音菩薩立像 木造 平安時代 12世紀 相模原市緑区・普門寺
13 軒丸瓦 (海老名市 相模国分寺跡) 奈良時代 8世紀 海老名市教育委員会	29 □阿彌陀如来坐像 木造 平安時代 12世紀 相模原市緑区・顕鏡寺
14 「法華寺」墨書土器 (海老名市 国分尼寺北方遺跡) 奈良～平安時代 8～9世紀 海老名市教育委員会	30 □聖観音菩薩立像 銅造 平安時代 12世紀 相模原市緑区・八幡神社
15 軒丸瓦 (平塚市 大会原遺跡) 奈良時代 8世紀 神奈川県教育委員会	31 阿彌陀如来立像 木造 平安時代 12世紀 藤沢市・普門寺
16 天部形立像 (平塚市 六ノ城遺跡) 銅造 奈良～平安時代 8～9世紀 神奈川県教育委員会	32 不動明王坐像 木造 平安時代 12世紀 海老名市・国分寺

- 33 経筒残欠 (平塚市 南金目琉球山経塚) 銅製 平安時代 仁平4年(1154) 平塚市博物館
- 34 ◎薬師如来坐像 木造 鎌倉時代 建久8年(1197) 藤沢市・養命寺
- 35 □日光・月光菩薩立像 木造 鎌倉時代 13～14世紀 藤沢市・養命寺
- 36 ◎阿弥陀如来及び両脇侍立像銅造 鎌倉時代 13世紀 茅ヶ崎市・宝生寺
- 37 菩薩立像 銅造 鎌倉時代 13世紀 相模原市南区・無量光寺
- 38 □合子形念持仏 (愛川町 八菅山経塚遺跡) 木製 鎌倉時代 13世紀 愛川町教育委員会
- 39 如来坐像 (相模原市緑区 柵戸中原遺跡) 銅造 古代～中世 神奈川県教育委員会
- 40 □阿弥陀如来立像 木造 鎌倉時代 13世紀 平塚市・善福寺
- 41 □聖観音菩薩立像 木造 鎌倉時代 13世紀 相模原市緑区・井原寺
- 42 聖観音菩薩立像 木造 鎌倉時代 13～14世紀 相模原市緑区・正覚寺
- 43 □十一面観音菩薩立像 木造 鎌倉時代 13世紀 藤沢市・慈眼寺
- 44 □薬師如来立像 木造 鎌倉時代 13世紀 平塚市・宝積院薬師堂
- 45 巳神(伝酉神)立像 木造 鎌倉時代 13～14世紀 平塚市・宝積院薬師堂
- 46 ◎他阿真教坐像 木造 鎌倉時代 文保2年(1318) 小田原市・蓮台寺
- 47 ◎中峰明本坐像 院広・院遵作 木造 南北朝時代 文和2年(1353) 山梨県甲州市・栖雲寺
- 48 蘭溪道隆坐像 木造 室町時代 15世紀 鎌倉市・常楽寺
- 49 葦航道然坐像 木造 南北朝時代 14世紀 厚木市・建徳寺
- 50 ◎夢窓疎石坐像 木造 南北朝時代 14世紀 鎌倉市・瑞泉寺
- 51 ◎夢窓疎石坐像 行成作 木造 南北朝時代 延文2年(1357) 山梨県南アルプス市・古長禅寺
- 52 ○夢窓疎石像 絹本着色 南北朝時代 14世紀 相模原市緑区・光明寺
- 53 中峰明本像 絹本着色 室町時代 15世紀 神奈川県立歴史博物館
- 54 地藏菩薩立像 木造 南北朝時代 14世紀 厚木市・建徳寺
- 55 地藏菩薩坐像 木造 南北朝時代 14世紀 相模原市緑区・光明寺
- 56 賓頭盧尊者坐像 木造 南北朝時代 14世紀 愛川町・八菅神社
- 57 ○弁才天坐像 銅造 南北朝～室町時代 14～15世紀 茅ヶ崎市・浄見寺
- 58 □南無仏太子立像 木造 南北朝時代 14世紀 茅ヶ崎市・上正寺
- 59 □薬師如来坐像 木造 室町時代 15世紀 相模原市緑区・福寿院
- 60 阿弥陀如来・薬師如来・千手観音菩薩立像 木造 室町時代 16世紀 相模原市緑区・祥泉寺
- 61 □観音 三十三応現身立像 木造 南北朝時代 14世紀 平塚市・光明寺
- 62 □白衣観音菩薩坐像 木造 室町時代 15世紀 平塚市・明王院
- 63 十一面観音菩薩坐像 銅造 室町時代 15世紀 平塚市・神田寺
- 64 摩利支天騎猪像 木造 室町時代 15世紀 相模原市緑区・安養寺
- 65 星谷寺鐘銘 拓本 紙本墨拓 原品：鎌倉時代 嘉禄3年(1227) 早稲田大学 會津八一記念博物館
- 66 胎蔵寺鐘銘 拓本 紙本墨拓 原品：鎌倉時代 弘長4年(1264) 早稲田大学 會津八一記念博物館
- 67 国分尼寺鐘銘 拓本 紙本墨拓 原品：鎌倉時代 正応5年(1292) 早稲田大学 會津八一記念博物館
- 68 筥崎山鐘銘 拓本 紙本墨拓 原品：鎌倉時代 正安2年(1300) 早稲田大学 會津八一記念博物館
- 69 大楽寺鐘銘 拓本 紙本墨拓 原品：南北朝時代 貞和6年(1350) 早稲田大学 會津八一記念博物館
- 70 伊豆走湯山東明寺鐘銘 拓本紙本墨拓 原品：南北朝時代 明德3年(1392) 東京国立博物館
- 71 国宝等防空施設整備関係文書(昭和18年度県参事会議案原稿のうち) 昭和18年(1943) 神奈川県立公文書館 頁替あり
- 72 国宝等防空施設整備関係文書(昭和19年5月度県参事会議案原稿のうち) 昭和19年(1944) 神奈川県立公文書館 頁替あり
- 73 国宝及重要美術品収蔵庫収蔵物件目録(昭和21年2月参事会議案原稿) 昭和21年(1946) 神奈川県立公文書館 頁替あり
- 74 国宝・重要美術品収蔵目録及び関連書類 昭和18・19年(1943・1944) 鎌倉国宝館 頁替あり
- 75 国宝物受領運搬証 昭和19年(1944) 鎌倉国宝館
- 参考 仏像の制作工程模型
 模型 一木造り 木造4点 現代 東京国立博物館
 模型 寄木造り 木造3点 現代 東京国立博物館
 模型 玉眼 木造3点 現代 東京国立博物館

エ 「かながわの正月 ーよい年になりますようにー」展

会 期：12月12日(土) ～ 1月24日(日)

(※新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発出に伴い臨時休館となり1月11日(月・祝)で終了)

主 催：神奈川県立歴史博物館

後 援：神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞横浜支局、読売新聞横浜支局、産経新聞横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞横浜支局、共同通信横浜支局、時事通信横浜総局、NHK 横浜放送局、TVK(テレビ神奈川)、ラジオ日本、FM ヨコハマ、J:COM

展示資料件数：364 件

入 場 者 数：1294 名(有料648 名、無料646 名)

担 当：学芸員 新井 裕美

概 要：正月にまつわる民俗資料、近世・近現代の暦や日記、正月行事の映像などを取り上げて、行事の根底に流れる心意を読み解き、郷土色豊かな諸行事を紹介した。本展は県内の正月行事を網羅的に取り上げた初めての展示であり、生活や社会の変化に伴い変化変容していく行事の様相を見つめ直した。これによって県内各地の文化的魅力と活力を再認識することができた。

関 連 行 事：・記念講演会「正月行事と子ども」1月24日(日)

・連続講座「かながわの正月行事」

1月10日、17日(日)

(※新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発出に伴い臨時休館となり中止)

・現地見学会「大磯の七所参りを見学する」

(※新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発出に伴い臨時休館となり中止)

・子ども向け「カドニュードウをつくろう」

12月20日(日)午前・午後2回実施

・学芸員による展示解説

12月12日、19日、26日、1月9日、16日、23日

(※1月9日、16日、23日は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発出に伴い臨時休館となり中止)

出 品 目 録：(凡例) №、指定、資料名、使用地/撮影地、製作年代/撮影、所蔵

資料名の前に付した記号のうち、◎は国宝、◎は重要文化財、◇は重要美術品、○は府県指定文化財、□ は市町村指定文化財を示す。末尾に「」があるものは写真・パネル展示の資料である。

1 道祖神に納められた煤払いの竹と正月飾り* 秦野市堀山下 平成31年(2019)1月2日撮 神奈川県立歴史博物館	11 九星の暦(明治三十五年御重宝) 厚木市 明治34年(1901) あつぎ郷土博物館
2 歳の市のチラシ 厚木市 昭和25年(1950) 個人	12 九星の暦(明治三十八年九星表) 厚木市 明治37年(1904) あつぎ郷土博物館
3 歳の市のチラシ 厚木市 昭和28年(1953) 個人	13 九星の暦(明治四十三年九星便) 厚木市 明治42年(1909) あつぎ郷土博物館
4 オザッキ 二宮町山西 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	14 九星の暦(大正二年九星早見) 厚木市 大正元年(1912) あつぎ郷土博物館
5 供え物をのせたオザッキ* 平塚市吉際 昭和55年(1980)1月7日撮影 神奈川県立歴史博物館	15 九星の暦(大正十二年農家必要九星表) 厚木市 大正11年(1922) あつぎ郷土博物館
6 だるま市* 小田原市飯泉 令和元年(2019)12月17日撮影 個人	16 九星の暦(昭和九年運勢之暦) 厚木市 昭和8年(1933) あつぎ郷土博物館
7 開眼しただるま 小田原市飯泉 令和元年(2019) 個人	17 九星の暦(昭和十年九星便) 厚木市 昭和9年(1934) あつぎ郷土博物館
8 絵ビラ 相模原市緑区中野 明治33年(1900)頃 個人	18 九星の暦(昭和十二年御重宝) 厚木市 昭和11年(1936) あつぎ郷土博物館
9 絵ビラ 秦野市 明治45年(1912)頃 個人	19 九星の暦(昭和十四年御重宝) 厚木市 昭和13年(1938) あつぎ郷土博物館
10 絵ビラ 愛川町田代 大正7年(1918)頃 神奈川県立歴史博物館	

20	九星の暦（昭和十八年略本暦） 厚木市 昭和 17 年（1942） あつぎ郷土博物館	45	杵 伊勢原市坪ノ内 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館
21	松竹梅の門松* 横浜市保土ケ谷区星川 平成 28 年（2016） 12 月 30 日撮影 神奈川県立歴史博物館	46	臼 （不明） （年代不明） 神奈川県立歴史博物館
22	櫓の門松* 秦野市堀山下 平成 31 年（2019） 1 月 2 日撮影 神奈川県立歴史博物館	47	鉾神様 相模原市緑区佐野川 昭和 51 年（1976） 1 月 1 日撮影 神奈川県立歴史博物館
23	トシガミの棚 相模原市緑区与瀬 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	48	ウナイゾメ* 相模原市緑区佐野川 昭和 51 年（1976） 1 月撮影 神奈川県立歴史博物館
24	巢ごもり松 相模原市緑区佐野川 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	49	道祖神に納められた人形* 秦野市堀山下 平成 31 年（2019） 1 月 2 日撮影 神奈川県立歴史博物館
25	荒神注連 横浜市保土ケ谷区二俣川 昭和 30 年代 神奈川県立歴史博物館	50	幣束 横浜市磯子区峯 昭和時代 神奈川県立歴史博物館
26	サンマタ 三浦市南下浦町金田 昭和 41 年（1966） 頃 神奈川県立歴史博物館	51	厄神のトシヤド 三浦市南下浦町金田 昭和 30 年（1955） 頃 神奈川県立歴史博物館
27	フネ 三浦市南下浦町金田 昭和 41 年（1966） 頃 神奈川県立歴史博物館	52	厄神のトシヤド 三浦半島南部 昭和時代中期か 神奈川県立歴史博物館
28	クバリ飾り 藤沢市遠藤 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	53	厄神の棚 相模原市中央区田名 昭和 45 年（1970） 頃 神奈川県立歴史博物館
29	正月飾り 藤沢市遠藤 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	54	初詣のパンフレット 昭和 16 年（1941） 神奈川県立歴史博物館
30	天照大神とトシトクジン様のお飾り 大和市深見 平成 15 年（2003） 大和市つる舞の里歴史資料館	55	正月の膳（複製） 山北町中川 神奈川県立歴史博物館
31	大神宮様の正月飾り（複製） 大和市下鶴間 神奈川県立歴史博物館	56	正月用の箸 二組 横須賀市久比里 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館
32	正月飾り 愛川町田代 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	57	七つ鉢 横浜市南区南太田 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館
33	トシガミ 秦野市三廻部 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	58	年賀切手「うさぎと少女」 昭和 26 年（1951） 個人
34	フネ 真鶴町岩 昭和 40 年（1965） 神奈川県立歴史博物館	59	年賀切手「竹蛇」 昭和 52 年（1977） 個人
35	トシガミの注連 箱根町仙石原 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	60	「竹蛇」の切手が貼られた初日カバー 昭和 52 年（1977） 個人
36	トシガミ棚飾り 箱根町仙石原 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	61	寄附金付お年玉付年賀 50 円郵便切手「相模土鈴頭竜」 平成 24 年（2012） 個人
37	輪飾り 箱根町仙石原 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	62	□荒神の供え物 三浦市初声町三戸 昭和 40 年代 神奈川県立歴史博物館
38	仏の注連 箱根町仙石原 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	63	□荒神の供え物 三浦市諏訪町 昭和 40 年代 神奈川県立歴史博物館
39	エビスの注連 箱根町仙石原 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	64	荒神の供え物 横浜市戸塚区笠間 昭和 50 年代 神奈川県立歴史博物館
40	神棚の正月飾り* 平塚市吉際 昭和 55 年（1980） 1 月 7 日撮影 神奈川県立歴史博物館	65	□荒神の供え物 川崎市麻生区東百合丘 昭和 50 年代 神奈川県立歴史博物館
41	トシガミ（模造） 藤沢市遠藤 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	66	□荒神の供え物 藤沢市宮原 昭和 50 年代 神奈川県立歴史博物館
42	正月飾り 横浜市保土ケ谷区星川 令和 2 年（2020） 個人	67	荒神の供え物 相模原市緑区青山 昭和 40 年代 神奈川県立歴史博物館
43	餅つき* 横浜市神奈川区菅田 昭和 53 年（1978） 撮影 神奈川県立歴史博物館	68	□荒神の供え物 厚木市小野 昭和 50 年代 神奈川県立歴史博物館
44	蒸籠 海老名市河原口 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	69	□荒神の供え物 松田町神山 昭和 50 年代 神奈川県立歴史博物館
		70	□荒神の供え物 大井町金子 昭和 50 年代 神奈川県立歴史博物館
		71	あぶ風 伊勢原市西富岡 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館

72	とんび飴 伊勢原市西富岡 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	98	菱餅（複製） 川崎市中原区上丸子山王町 川崎市民ミュージアム
73	だるま飴 伊勢原市西富岡 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	99	繭玉団子の木を挿す台 山北町 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館
74	口独楽 伊勢原市大山 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	100	繭玉団子の木を挿す台 1 山北町 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館
75	初夢双六『小学男生』第3巻第1号 大正10年（1921）1月 神奈川県立歴史博物館	101	木に挿す団子* 大磯町虫窪 平成6年（1994）1月14日撮影 神奈川県立歴史博物館
76	お年玉双六『オサナゴ』第4巻第1号 大正14年（1925）1月 神奈川県立歴史博物館	102	人参や小判などを模した団子* 大磯町虫窪 平成6年（1994）1月14日撮影 神奈川県立歴史博物館
77	羽子板 横須賀市公郷町 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	103	完成した団子の木* 大磯町虫窪 平成6年（1994）1月14日撮影 神奈川県立歴史博物館
78	羽子板 横浜市内神奈川区六角橋 昭和50年代 神奈川県立歴史博物館	104	人参（赤）、胡瓜（緑）、落花生と繭玉（白）を模した団子* 秦野市今泉 平成27年（2015）1月14日撮影 神奈川県立歴史博物館
79	羽子板 横浜市内神奈川区西神奈川 昭和20年代 神奈川県立歴史博物館	105	鎌の刃を模した団子* 秦野市今泉 平成27年（2015）1月14日撮影 神奈川県立歴史博物館
80	厚木大神楽 祠 厚木市内ほか 昭和時代中期 あつぎ郷土博物館	106	煙草の葉を模した団子* 秦野市今泉 平成27年（2015）1月14日撮影 神奈川県立歴史博物館
81	厚木大神楽 獅子頭 厚木市内ほか 江戸時代末期か個人	107	「一万円」と刻んだ団子* 秦野市今泉 平成27年（2015）1月14日撮影 神奈川県立歴史博物館
82	リヤカーで運ばれる祠* 厚木市内 昭和60年（1985）1月2日撮影 神奈川県立歴史博物館	108	「十万円」と刻んだ団子* 秦野市今泉 平成27年（2015）1月14日撮影 神奈川県立歴史博物館
83	獅子舞* 藤沢市内 昭和60年（1985）1月2日撮影 神奈川県立歴史博物館	109	八頭（里芋）を模した団子と米俵を模した団子* 秦野市今泉 平成27年（2015）1月14日撮影 神奈川県立歴史博物館
84	御嶽神社の太占 愛川町半原 昭和34年（1959） 神奈川県立歴史博物館	110	完成した団子の木* 秦野市今泉 平成27年（2015）1月14日撮影 神奈川県立歴史博物館
85	御嶽神社の太占 愛川町半原 昭和41年（1966） 神奈川県立歴史博物館	111	アワボヒエボをつくる* 相模原市緑区相原 昭和63年（1988）1月撮影 神奈川県立歴史博物館
86	船の上から蜜柑や菓子を撒く 鎌倉市腰越 令和2年（2020）1月4日撮影 神奈川県立歴史博物館	112	アワボヒエボ 相模原市緑区牧野 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館
87	大漁旗 三浦市南下浦町金田 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	113	堆肥の上にアワボヒエボを立てる* 相模原市南区上鶴間 昭和55年（1980）1月14日撮影 神奈川県立歴史博物館
88	大漁旗 三浦市南下浦町金田 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	114	アワボヒエボ 山北町中川 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館
89	トモ旗 三浦市南下浦町松輪 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	115	アワボヒエボ 逗子市久木 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館
90	大漁旗（日の丸） 三浦市南下浦町松輪 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	116	アワボヒエボ 山北町玄倉 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館
91	『檀家年頭帳』 厚木市三田 明治25年（1892） 清源院	117	綿花を模したアワボヒエボ 山北町 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館
92	御札と版木 厚木市三田 （年代不明） 清源院	118	綿花を模したアワボヒエボ 山北町玄倉 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館
93	七草を叩く* 平塚市吉原 昭和55年（1980）1月7日撮影 神奈川県立歴史博物館	119	里芋を模したアワボヒエボ 山北町 昭和30年代 神奈川県立歴史博物館
94	的射* 川崎市中原区上丸子山王町 平成31年（2019）1月7日撮影 神奈川県立歴史博物館	120	豆の実を模したアワボヒエボ 山北町 昭和30年代 神奈川県立歴史博物館
95	的 川崎市中原区上丸子山王町 昭和63年（1988） 川崎市民ミュージアム	121	一房に稗、豆、綿花を模したアワボヒエボ 山北町中川 昭和30年代 神奈川県立歴史博物館
96	大根のケズリカケ（複製） 川崎市中原区上丸子山王町 川崎市民ミュージアム		
97	田楽（複製） 川崎市中原区上丸子山王町 川崎市民ミュージアム		

122	稗を模したアワボヒエボ	山北町	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	147	ケズリカケ用鼻つき鉈	藤沢市宮原	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館
123	アワボヒエボ	山北町	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館	148	ケズリカケ用鼻つき鉈	秦野市寺山	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館
124	ケズリカケ	葉山町木古庭	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	149	ケズリカケの製作(再現)*	横浜市保土ヶ谷区星川	平成28年(2016)12月26日撮影	神奈川県立歴史博物館
125	ケズリカケ 2	葉山町木古庭	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	150	成木責めのタタキ	秦野市	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館
126	ケズリカケ 3	山北町世附	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館	151	釜の中から取り出された葦筒*	横浜市港北区師岡町	平成31年(2019)1月14日撮影	神奈川県立歴史博物館
127	ケズリカケ 2	山北町世附	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館	152	粥が入った葦筒(複製)	横浜市港北区師岡町		神奈川県立歴史博物館
128	ケズリカケ 1	山北町世附	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館	153	葦筒を小刀で開く様子*	横浜市港北区師岡町	平成31年(2019)1月14日撮影	神奈川県立歴史博物館
129	ケズリカケ 1	山北町中川	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館	154	開かれた葦筒*	横浜市港北区師岡町	平成31年(2019)1月14日撮影	神奈川県立歴史博物館
130	ケズリカケ 1	山北町玄倉	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館	155	筒粥神事の結果(1046回)	横浜市港北区師岡町	平成7年(1995)	神奈川県立歴史博物館
131	ケズリカケ 1	箱根町仙石原	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	156	通用口に立てられたカドニュードウ*	山北町中川	平成27年(2015)1月18日撮影	神奈川県立歴史博物館
132	ケズリカケ 2	藤沢市遠藤	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館	157	玄関に立てられたカドニュードウ*	山北町中川	平成27年(2015)1月18日撮影	神奈川県立歴史博物館
133	ケズリカケ 1	横浜市保土ヶ谷区星川	令和2年(2020)	神奈川県立歴史博物館	158	カドニュードウ	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館
134	ケズリカケ 1	横浜市保土ヶ谷区星川	昭和時代	神奈川県立歴史博物館	159	カドニュードウ	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館
135	ケズリカケ 1	秦野市堀西	昭和40年代	神奈川県立歴史博物館	160	カドニュードウ	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館
136	ケズリカケ 2	秦野市今泉	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館	161	カドニュードウ	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館
137	ケズリカケ 1	秦野市今泉	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館	162	カドニュードウ	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館
138	ケズリカケ 1	秦野市今泉	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館	163	カドニュードウ	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館
139	ケズリカケ 1	秦野市寺山	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館	164	カドニュードウ	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館
140	ケズリカケ 1	秦野市堀西	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館	165	カドニュードウ	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館
141	ケズリカケ 2	山北町世附	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館	166	カドニュードウ	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館
142	ケズリカケ 1	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	167	カドニュードウ	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館
143	ケズリカケ 1	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	168	カドニュードウ	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館
144	ケズリカケ 2	山北町	昭和時代中期	神奈川県立歴史博物館	169	カドニュードウ	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館
145	道祖神に供えられたケズリカケ*	秦野市今泉	平成27年(2015)1月14日撮影	神奈川県立歴史博物館	170	カドニュードウ	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館
146	神棚に供えられたケズリカケ*	秦野市今泉	平成27年(2015)1月14日撮影	神奈川県立歴史博物館	171	カドニュードウ	山北町世附	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館

172	カドニュードウ	山北町世附	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	199	チャッキラコの神饌（複製）	三浦市三崎	神奈川県立歴史博物館
173	カドニュードウ	山北町世附	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	200	本宮の祠前で踊りの奉納*	三浦市三崎	平成29年（2017）1月15日撮影 神奈川県立歴史博物館
174	カドニュードウ	山北町世附	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	201	海南神社で踊りの奉納*	三浦市三崎	平成29年（2017）1月15日撮影 神奈川県立歴史博物館
175	カドニュードウ	山北町世附	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	202	女子の着物	三浦市三崎	平成時代 ちゃつきらこ保存会
176	カドニュードウ	山北町世附	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	203	女子の着物	三浦市三崎	平成時代 ちゃつきらこ保存会
177	カドニュードウ	山北町世附	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	204	チャッキラコの道具（チャッキラコ、舞扇、髪飾り）	三浦市三崎	平成時代 ちゃつきらこ保存会
178	カドニュードウ	山北町世附	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	205	飲食店での福おどり*	小田原市根府川	令和2年（2020）1月12日撮影 神奈川県立歴史博物館
179	カドニュードウ	山北町玄倉	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	206	寺山神社で福おどりの奉納*	小田原市根府川	令和2年（2020）1月12日撮影 神奈川県立歴史博物館
180	カドニュードウ	山北町皆瀬川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	207	寺山神社で福おどりの奉納*	小田原市根府川	令和2年（2020）1月12日撮影 神奈川県立歴史博物館
181	カドニュードウ	山北町湯触	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	208	福おどりの衣装	小田原市根府川	平成時代 鹿島踊保存会
182	カドニュードウ	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	209	福おどりの道具（手拭、箆、扇、面、牛蒡注連）	小田原市根府川	平成時代 鹿島踊保存会
183	カドニュードウ	山北町中川	昭和30年代	神奈川県立歴史博物館	210	福おどりの幟	小田原市根府川	平成時代 鹿島踊保存会
184	ノウギ	相模原市緑区牧野	昭和62年（1987）	神奈川県立歴史博物館	211	アクマツパライの面（複製）	平塚市根坂間	神奈川県立歴史博物館
185	俵 箱根町仙石原	昭和時代中期		神奈川県立歴史博物館	212	アクマツパライ*	秦野市堀山下	平成時代 神奈川県教育委員会
186	『浜浅葉日記』	横須賀市太田和	安政3年（1856）	横須賀市自然・人文博物館	213	アクマツパライの幟	秦野市堀山下	嘉永5年（1852）あくまっぱらい保存会
187	『浜浅葉日記』	横須賀市太田和	安政4年（1857）	横須賀市自然・人文博物館	214	アクマツパライの幟	秦野市堀山下	（年代不明）あくまっぱらい保存会
188	『浜浅葉日記』	横須賀市太田和	安政7年（1860）	横須賀市自然・人文博物館	215	アクマツパライの面	秦野市堀山下	昭和55年（1980）ほか あくまっぱらい保存会
189	『浜浅葉日記』	横須賀市太田和	文久2年（1862）	横須賀市自然・人文博物館	216	天狗の衣装	秦野市堀山下	平成時代 あくまっぱらい保存会
190	『浜浅葉日記』	横須賀市太田和	文久4年（1864）	横須賀市自然・人文博物館	217	アクマツパライの道具（鈴、拍子木、幣束）	秦野市堀山下	（年代不明） あくまっぱらい保存会
191	『星野日記』	厚木市金田	明治25年（1892）	個人	218	アクマツパライの縁起物（福笹）	秦野市堀山下	（年代不明） 平塚市博物館
192	『星野日記』	厚木市金田	明治28年（1895）	個人		アクマツパライの縁起物（版木、御札）	秦野市堀山下	（年代不明） あくまっぱらい保存会
193	○『相澤日記』第四号	相模原市緑区相原	明治26年（1893）	個人	219	太鼓	秦野市堀山下	昭和時代 あくまっぱらい保存会
194	○『相澤日記』第五号	相模原市緑区相原	明治28年（1895）	個人	220	団扇2	秦野市堀山下	平成時代 あくまっぱらい保存会
195	『小山日記』	相模原市南区下溝	大正3年（1914）	相模原市立博物館	221	アクマツパライの幣束1	秦野市八沢	昭和時代 神奈川県立歴史博物館
196	『小山日記』	相模原市南区下溝	大正7年（1918）	相模原市立博物館	222	道祖神の御札	茅ヶ崎市小和田	昭和時代 平塚市博物館
197	『小山日記』	相模原市南区下溝	大正8年（1919）	相模原市立博物館	223	道祖神の御札	平塚市土屋	昭和時代 平塚市博物館
198	『山下日記』	大和市福田	昭和4年（1929）	個人	224	道祖神の御札	秦野市本町	昭和10年代 相模原市立博物館
					225	道祖神の御札	秦野市曾屋	昭和時代 神奈川県立歴史博物館

226	道祖神の御札	秦野市今泉	昭和時代	神奈川県立歴史博物館
227	道祖神の御札	秦野市今泉	昭和時代	神奈川県立歴史博物館
228	道祖神の御札	秦野市今泉	昭和時代	神奈川県立歴史博物館
229	道祖神の御札	秦野市尾尻	昭和10年代	相模原市立博物館
230	道祖神の御札	秦野市名古木	平成31年(2019)	平塚市博物館
231	道祖神の御札	秦野市堀西	昭和10年代	相模原市立博物館
232	道祖神の御札	秦野市渋沢	昭和10年代	相模原市立博物館
233	道祖神の御札	秦野市堀川	昭和10年代	相模原市立博物館
234	道祖神の御札	秦野市堀川	昭和10年代	相模原市立博物館
235	道祖神の御札	秦野市堀山下	昭和10年代	相模原市立博物館
236	道祖神の御札	秦野市堀山下	昭和10年代	相模原市立博物館
237	道祖神の御札	秦野市千村	昭和10年代	相模原市立博物館
238	道祖神の御札	秦野市千村	昭和10年代	相模原市立博物館
239	道祖神の御札	秦野市千村	昭和10年代	相模原市立博物館
240	道祖神の御札	秦野市曲松	昭和10年代	相模原市立博物館
241	道祖神の御札	秦野市曲松	昭和10年代	相模原市立博物館
242	道祖神の御札	秦野市菖蒲	昭和10年代	相模原市立博物館
243	道祖神の御札	秦野市東地区	昭和10年代	相模原市立博物館
244	道祖神の御札	秦野市西地区	昭和10年代	相模原市立博物館
245	道祖神の御札	秦野市内か	昭和10年代	相模原市立博物館
246	道祖神の御札	秦野市内か	昭和10年代	相模原市立博物館
247	道祖神の御札	秦野市内か	昭和10年代	相模原市立博物館
248	道祖神の御札	秦野市内か	昭和10年代	相模原市立博物館
249	道祖神の御札	中井町久所	昭和10年代	相模原市立博物館
250	道祖神の御札	大井町井ノ口	昭和10年代	相模原市立博物館
251	道祖神の御札	大井町上中村	昭和10年代	相模原市立博物館
252	道祖神の御札	山北町都夫良野	昭和10年代	相模原市立博物館
253	カセドリの細工物(模造)	横浜市都筑区川向町	昭和時代	神奈川県立歴史博物館
254	石売り*	秦野市西大竹	平成30年(2018)1月8日撮影	神奈川県立歴史博物館
255	酒が供えられた石*	秦野市西大竹	平成30年(2018)1月8日撮影	神奈川県立歴史博物館
256	オマラサマ	平塚市小鍋島	(年代不明)	平塚市博物館
257	完成した大根飾り*	伊勢原市日向	平成29年(2017)1月14日撮影	神奈川県立歴史博物館
258	大根飾りの製作*	伊勢原市日向	平成29年(2017)1月14日撮影	神奈川県立歴史博物館
259	大根飾りの製作*	伊勢原市日向	平成29年(2017)1月14日撮影	神奈川県立歴史博物館
260	道祖神に供えられた大根飾り*	伊勢原市日向	平成29年(2017)1月14日撮影	神奈川県立歴史博物館
261	道祖神の小屋(1/10複製)	川崎市多摩区登戸東本町		川崎市市民ミュージアム
262	七所参りの御飯屋*	大磯町大磯	令和2年(2020)1月10日撮影	神奈川県立歴史博物館
263	道祖神の小屋*	大磯町国府本郷	平成31年(2019)1月12日撮影	神奈川県立歴史博物館
264	小屋の内部*	大磯町国府本郷	平成31年(2019)1月12日撮影	神奈川県立歴史博物館
265	道祖神の小屋*	秦野市今泉	平成30年(2018)1月14日撮影	神奈川県立歴史博物館
266	太鼓を叩く*	秦野市今泉	平成30年(2018)1月14日撮影	神奈川県立歴史博物館
267	道祖神の小屋*	箱根町宮城野	平成31年(2019)1月12日撮影	神奈川県立歴史博物館
268	道祖神の供え物*	箱根町宮城野	平成31年(2019)1月12日撮影	神奈川県立歴史博物館
269	道祖神の小屋(1/2複製)	箱根町宮城野		箱根町立郷土資料館
270	道祖神の小屋*	箱根町宮城野	平成31年(2019)1月12日撮影	神奈川県立歴史博物館
271	参拝者にお祓いをする小屋の中の子どもたち*	箱根町宮城野	平成31年(2019)1月12日撮影	神奈川県立歴史博物館
272	単体道祖神(複製)	綾瀬市寺尾西	宝永5年(1708)	神奈川県立歴史博物館
273	双体道祖神(複製)	大和市福田	寛保3年(1743)	大和市つる舞の里歴史資料館
274	双体道祖神	藤沢市高倉	文政13年(1830)	神奈川県立歴史博物館
275	双体道祖神(複製)	大和市深見	(年代不明)	大和市つる舞の里歴史資料館

- 276 ○丸彫単体坐像道祖神* 小田原市根府川 (年代不明)
/令和2年(2020)1月12日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 277 丸彫単体坐像道祖神 小田原市根府川 平成8年
(1996) 鹿島踊保存会
- 278 性器を模した道祖神* 相模原市中央区田名 (年代不明)
/平成31年(2019)1月6日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 279 藁人形の道祖神* 茅ヶ崎市柳島 昭和51年(1976)1月
14日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 280 石祠型道祖神* 松田町惣領 (年代不明) /令和2年
(2020)1月14日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 281 五輪塔や宝篋印塔の道祖神* 川崎市麻生区岡上 (年代
不明) /平成31年(2019)1月15日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 282 五輪塔や宝篋印塔の道祖神(複製) 川崎市麻生区岡上
川崎市市民ミュージアム
- 283 文字型道祖神* 海老名市国分南 昭和49年(1974)/令和
2年(2020)10月22日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 284 稲荷型道祖神* 小田原市東町 (年代不明) /令和2年
(2020)1月12日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 285 女の道祖神* 小田原市東町 (年代不明) /令和2年
(2020)8月7日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 286 北町女大門講中の双体道祖神 平塚市札場町 昭和63年
(1988) (双体道祖神) 平塚市博物館
- 287 北町女大門講中の双体道祖神 平塚市札場町 (年代不
明) 平塚市博物館
- 288 北町女大門講中の幟 平塚市札場町 昭和23年(1948)
~30(1955) 平塚市博物館
- 289 北町女大門講中のオンベヨ* 平塚市札場町 昭和52年
(1977)頃 平塚市博物館
- 290 北町男大門講中の双体道祖神 平塚市札場町 (年代不
明) 平塚市博物館
- 291 オンベとサイト* 鎌倉市材木座 平成31年(2019)1月
11日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 292 オンベ* 大磯町大磯 平成30年(2018)1月10日撮影
神奈川県立歴史博物館
- 293 オンベとサイト* 大磯町国府本郷 平成31年(2019)
1月13日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 294 オンベとサイト* 大井町金子 令和2年(2020)1月13
日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 295 オンベ* 箱根町宮城野 平成31年(2019)1月19日撮
影 神奈川県立歴史博物館
- 296 松や竹を芯にしたサイト* 大磯町大磯 平成30年
(2018)1月13日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 297 豆腐などが供えられた道祖神* 大磯町大磯 平成27年
(2015)1月11日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 298 ヤンナゴッコの櫓* 大磯町大磯 平成30年(2018)1月
13日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 299 ヤンナゴッコの櫓 大磯町大磯 昭和63年(1988)
大磯町郷土資料館
- 300 海岸の立てられたサイト* 大磯町大磯 平成30年
(2018)1月13日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 301 燃えさかるサイト* 大磯町大磯 平成31年(2019)1月
13日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 302 海中へ曳かれる櫓* 大磯町大磯 平成31年(2019)1月
13日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 303 潰されたお宮* 大磯町大磯 平成31年(2019)1月13日
撮影 神奈川県立歴史博物館
- 304 町内を曳き廻される櫓* 大磯町大磯 平成31年
(2019)1月13日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 305 『道祖神勘定帳』1 大磯町大磯 大正13年(1924)
神奈川県立歴史博物館
- 306 海岸のセイト* 三浦市初声町三戸 平成3年(1991)
1月7日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 307 谷戸のオミヒメサマ(複製) 三浦市初声町三戸 (年代
不明) 神奈川県立歴史博物館
- 308 上のオミヒメサマ(複製) 三浦市初声町三戸 (年代
不明) 神奈川県立歴史博物館
- 309 風呂に入れられるオミヒメサマ* 三浦市初声町三戸
平成6年(1994)1月7日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 310 各戸を廻るオミヒメサマの厨子と幣束* 三浦市初声町三戸
平成6年(1994)1月7日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 311 正月飾りと共に燃やされる道祖神* 平塚市高浜台 平成
31年(2019)1月13日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 312 道祖神の御飯屋を焼く* 伊勢原市神戸 平成29年
(2017)1月14日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 313 火中へ投げ入れられる青年* 伊勢原市神戸 平成29年
(2017)1月14日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 314 三つ又の枝に挿した団子* 藤沢市遠藤 平成6年
(1994)1月13日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 315 燃え上がる書初め* 大井町金子 令和2年(2020)1月
13日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 316 神輿 小田原市小八幡 (年代不明) 小田原市小八幡
地区
- 317 神輿を担ぐ* 山北町山北 平成30年(2018)1月14日
撮影 神奈川県立歴史博物館
- 318 山車を曳く* 山北町山北 平成30年(2018)1月14日
撮影 神奈川県立歴史博物館
- 319 山車を曳く* 小田原市南鴨宮 令和2年(2020)1月11日
撮影 神奈川県立歴史博物館
- 320 『平家物語』の「扇的」をテーマにした人形山車*
小田原市前川 令和2年(2020)1月12日撮影 神奈川
県立歴史博物館
- 321 北条氏直をテーマにした人形山車* 小田原市前川 令和
2年(2020)1月12日撮影 神奈川県立歴史博物館
- 322 山の神の掛軸 藤沢市遠藤 (年代不明) 神奈川県立
歴史博物館
- 323 『山講中連名控帳』 藤沢市遠藤 明治26年(1893)
神奈川県立歴史博物館
- 324 『山講中連名帳』 藤沢市遠藤 大正2年(1913)

神奈川県立歴史博物館		8月12日～16年6月17日 神奈川県立歴史博物館	
325	『山講中連名控帳』 藤沢市遠藤 大正9年(1920) 神奈川県立歴史博物館	346	『家庭之友』第1巻第9号 明治36年(1903) 国立歴史民俗博物館
326	『山講中連名控帳』 藤沢市遠藤 昭和12年(1937) 神奈川県立歴史博物館	347	『婦人会』第39巻1号 昭和4年(1929) 国立歴史民俗博物館
327	オリカケ 相模原市緑区若柳 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	348	『婦人之友』第30巻第1号 昭和11年(1936) 1月 神奈川県立図書館
328	エビス講掛軸 1 藤沢市遠藤 昭和2年(1927) 神奈川県立歴史博物館	349	『婦人之友』第31巻第1号 昭和12年(1937) 1月 神奈川県立図書館
329	『恵比寿講連名簿』 藤沢市遠藤 明治35年(1902) 神奈川県立歴史博物館	350	『婦人之友』第32巻第1号 昭和13年(1938) 1月 神奈川県立図書館
330	『村江べ寿講帳』 藤沢市遠藤 大正6年(1917) 神奈川県立歴史博物館	351	『婦人之友』第33巻第1号 昭和14年(1939) 1月 神奈川県立図書館
331	天神講掛軸 横浜市戸塚区公田 慶応4年(1868) 神奈川県立歴史博物館	352	『婦人之友』第35巻第1号 昭和16年(1941) 1月 神奈川県立図書館
332	天神の小絵馬(複製) 神奈川県立歴史博物館	353	『婦人之友』第37巻第1号 昭和18年(1943) 1月 神奈川県立図書館
333	豆撒きの升 横浜市鶴見区生麦 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	354	『婦人之友』第45巻第1号 昭和26年(1951) 1月 神奈川県立図書館
334	豆撒きの升 横浜市鶴見区生麦 昭和時代中期 神奈川県立歴史博物館	355	『婦人之友』第49巻第1号 昭和30年(1955) 1月 神奈川県立図書館
335	ヤキカガシ(複製) 大和市下鶴間 神奈川県立歴史博物館	356	『婦人之友』第50巻第1号 昭和31年(1956) 1月 神奈川県立図書館
336	『詔書写』 明治5年(1872) 神奈川県立公文書館	357	『婦人之友』第55巻第1号 昭和36年(1961) 1月 神奈川県立図書館
337	『太政官達第三百三十七号』 明治5年(1872) 神奈川県立公文書館	358	『婦人之友』第56巻第1号 昭和37年(1962) 1月 神奈川県立図書館
338	『太陽暦講釈』 年代不明 神奈川県立歴史博物館	359	『婦人之友』第58巻第1号 昭和39年(1964) 1月 神奈川県立図書館
339	『新暦早合点』 明治5年(1872) 神奈川県立歴史博物館	360	大磯の左義長のパンフレット 大磯町大磯 平成30年(2018) 個人
340	『明治七年甲戌太陽略歴』 明治7年(1874) 神奈川県立歴史博物館	361	大磯の左義長のパンフレット 大磯町大磯 令和2年(2020) 個人
341	『太陽暦和解』 明治7年(1874) 神奈川県立歴史博物館	362	山王網一色通信 冬号 小田原市東町 平成31年(2019) 個人
342	『前田家日記』 三浦市初声町三戸 明治3年(1870)～8年 個人 (神奈川県立公文書館寄託)	363	恵方巻を宣伝する店頭の様子* 秦野市西大竹 平成30年(2018) 1月11日撮影 神奈川県立歴史博物館
343	『鈴木藤助日記』 川崎市宮前区 明治5年(1872) 5月15日～6年3月15日 神奈川県立歴史博物館	364	恵方巻のチラシ 令和2年(2020) 個人
344	『鈴木藤助日記』 川崎市宮前区 明治11年(1878) 12月21日～12年9月14日 神奈川県立歴史博物館		
345	『鈴木藤助日記』 川崎市宮前区 明治15年(1882)		

(3) コレクション展

1階フリーゾーンにあるコレクション展示室において、常設展示では紹介しきれない館のコレクションの一部を、年1回程度展示している。(観覧料無料)

「運動のすゝめ 一五輪と国体 戦後神奈川のスポーツイベントー」展【中止】

会 期：6月27日(土) ～ 9月6日(日)

担 当：学芸員 武田 周一郎

関 連 行 事：・学芸員による展示解説

6月28日、7月26日、8月9、30日

(4) その他の展示

ア 特別陳列「出土文字資料からみる古代の神奈川」展

会 期：2月6日(土) ～ 3月28日(日)

(新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発出に伴い臨時休館となり、3月23日(火)～28日(日)の6日間の会期となる)

会 場：特別展示室

主 催：神奈川県立歴史博物館

展示資料件数：121件

入 場 者 数：767名

担 当：学芸部長 望月 一樹

概 要：古代の東国に様相については、かつては文献資料が乏しく、かつ断片的であることから、在地の具体的な社会を窺い知ることは難しい状況であった。そのような中、1980年代以降各地で開発に伴う発掘調査が盛んになると、それまで知りえなかった新たな文字資料が土中から数多く発見される。そしてこれら出土文字資料により、東国における古代社会の様相も次第に明らかになってきたのである。神奈川県内でも、市町村で発掘調査が進み、多くの出土文字資料を得られている。そしてそれら出土文字資料は、それ以前に知られていなかった古代神奈川の新たな姿を物語ってくれているのである。

そこで本展では、県内の遺跡から出土した文字資料を中心に、都城出土の木簡や、以前から知られていた文献資料を加え、文字資料から窺える古代神奈川の様相について、現時点での成果を紹介した。

関 連 行 事：・県博セミナーⅡ期「出土文字資料から古代神奈川をさぐる」

2月28日、3月7日、14日(日)

(新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発出に伴い臨時休館となり中止)

・学芸員による展示解説

2月13日、21日、3月13日、21日

(新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発出に伴い臨時休館となり中止)

出 品 目 録：(凡例) No.、名称、時代、遺跡、所蔵

*資料名の前に付した記号のうち、□は県指定文化財、○は市町指定文化財を示す。

1 ○文字瓦「无射志国荏原評」 7世紀末 川崎市宮前区／影向寺遺跡 川崎市教育委員会	11 墨書土器「大住」 9世紀前半 平塚市／天神前遺跡一第8地点一 平塚市教育委員会
2 文字瓦「大伴五十戸」 7世紀末 小田原市／千代台周辺 明治大学博物館	12 墨書土器「住」 8世紀後半 平塚市／天神前遺跡一第8地点一 平塚市教育委員会
3 木簡「六十四」 8世紀 小田原市／下曽我遺跡 神奈川県教育委員会	13 墨書土器「政所」 9世紀後半～10世紀前半 平塚市／四之宮高林寺遺跡 平塚市教育委員会
4 木簡「□□□□神丸」 8世紀 小田原市／下曽我遺跡 神奈川県教育委員会	14 墨書土器「家」 9世紀前半 平塚市／四之宮諏訪前A遺跡 平塚市教育委員会
5 木簡状木製品 8世紀 小田原市／下曽我遺跡 國學院大学博物館	15 墨書土器 人面墨書 8世紀後半 平塚市／真土六ノ城遺跡一第8地点一 平塚市教育委員会
6 墨書土器「永東」「寺」 9世紀～10世紀 小田原市／下曽我遺跡 國學院大学博物館	16 ○墨書土器「国厨」 8世紀後半 平塚市／稻荷前A遺跡 平塚市教育委員会
7 墨書土器「大家」 9世紀～10世紀 小田原市／下曽我遺跡 國學院大学博物館	17 墨書土器「旧鼓一」 8世紀 平塚市／稻荷前A遺跡第3地点 平塚市教育委員会
8 墨書土器「永東」 9世紀～10世紀 小田原市／下曽我遺跡 國學院大学博物館	18 銅印「平」 10世紀中葉 平塚市／構之内遺跡第3地点 平塚市教育委員会
9 墨書土器「永毛」 9世紀～10世紀 小田原市／下曽我遺跡 國學院大学博物館	19 ○文字瓦「石田一斗口(加)」 8世紀 小田原市／千代廃寺 個人蔵(小田原市郷土文化館寄託)
10 墨書土器「郡厨」 8世紀中葉～後半 平塚市／天神前遺跡一第8地点一 平塚市教育委員会	20 ○文字瓦「□(石)田一斗加沙八升」 8世紀 小田原市／千代廃寺 個人蔵(小田原市郷土文化館寄託)

- 21 ○木簡 「八月三日前遺米四斗五升二合又□×」 8世紀前半カ 小田原市／千代南原遺跡第Ⅶ地点 小田原市教育委員会（複製は当館）
- 22 ○木簡 「× [] □九升五合運三遍積阿×」 8世紀前半カ 小田原市／千代南原遺跡第Ⅶ地点 小田原市教育委員会
- 23 墨書土器 「千字文」「文」 10世紀中葉 小田原市／永塚下り畑遺跡第Ⅳ地点 小田原市教育委員会
- 24 墨書土器 「永日」 9世紀中葉～10世紀前半 小田原市／永塚下り畑遺跡第Ⅳ地点 小田原市教育委員会
- 25 墨書土器 「上主帳」 8世紀後半 小田原市／永塚下り畑遺跡第Ⅳ地点 小田原市教育委員会
- 26 墨書土器 「捌拾」 8世紀後半 小田原市／永塚下り畑遺跡第Ⅳ地点 小田原市教育委員会
- 27 墨書土器 「厨」 9世紀前半 小田原市／千代仲ノ町遺跡第Ⅳ地点 小田原市教育委員会
- 28 刻印土器 「美濃」 8世紀前半 小田原市／永塚北畑遺跡第ⅩⅡ地点 小田原市教育委員会
- 29 墨書土器 「厨」 9世紀前半～中葉 茅ヶ崎市／西方A遺跡第7次調査 茅ヶ崎市教育委員会
- 30 墨書土器 「太」 9世紀前半～後半 茅ヶ崎市／七堂伽藍跡 神奈川県教育委員会
- 31 墨書土器 「浄」 9世紀前半～後半 茅ヶ崎市／七堂伽藍跡 神奈川県教育委員会
- 32 墨書土器 「太」 9世紀前半～後半 茅ヶ崎市／七堂伽藍跡 神奈川県教育委員会
- 33 墨書土器 「太寺」 9世紀前半～後半 茅ヶ崎市／七堂伽藍跡 神奈川県教育委員会
- 34 墨書土器 「罌□（田カ）」 9世紀前半～後半 茅ヶ崎市／七堂伽藍跡 神奈川県教育委員会
- 35 人面墨書土器 8世紀前半 茅ヶ崎市／七堂伽藍跡 神奈川県教育委員会
- 36 人面墨書土器 8世紀前半 茅ヶ崎市／七堂伽藍跡 神奈川県教育委員会
- 37 人形木製品 9世紀 茅ヶ崎市／七堂伽藍跡 神奈川県教育委員会
- 38 刀型木製品 9世紀 茅ヶ崎市／七堂伽藍跡 神奈川県教育委員会
- 39 木簡状木製品 9世紀 茅ヶ崎市／七堂伽藍跡 神奈川県教育委員会
- 40 絵馬 9世紀 茅ヶ崎市／七堂伽藍跡 神奈川県教育委員会
- 41 紡錘車「神」 9世紀 茅ヶ崎市／七堂伽藍跡 神奈川県教育委員会
- 42 墨書土器 「田」 9世紀中葉～後半 茅ヶ崎市／香川・下寺尾遺跡群北B地区 茅ヶ崎市教育委員会
- 43 墨書土器 「田」 9世紀中葉～後半 茅ヶ崎市／香川・下寺尾遺跡群北B地区 茅ヶ崎市教育委員会
- 44 墨書土器 「力 真」 9世紀中葉～後半 茅ヶ崎市／香川・下寺尾遺跡群北B地区 茅ヶ崎市教育委員会
- 45 墨書土器 「天」（則天文字） 9世紀中葉～後半 茅ヶ崎市／香川・下寺尾遺跡群北B地区 茅ヶ崎市教育委員会
- 46 墨書土器 「土」 9世紀中葉～後半 茅ヶ崎市／香川・下寺尾遺跡群北B地区 茅ヶ崎市教育委員会
- 47 墨書土器 「具」 9世紀中葉～後半 茅ヶ崎市／香川・下寺尾遺跡群北B地区 茅ヶ崎市教育委員会
- 48 墨書土器 「大町」 9世紀中葉～後半 茅ヶ崎市／香川・下寺尾遺跡群北B地区 茅ヶ崎市教育委員会
- 49 墨書土器 「大町」 9世紀中葉～後半 茅ヶ崎市／香川・下寺尾遺跡群北B地区 茅ヶ崎市教育委員会
- 50 人面墨書土器 9世紀中葉～後半 茅ヶ崎市／香川・下寺尾遺跡群北B地区 茅ヶ崎市教育委員会
- 51 墨書土器 「寺□」 9世紀中葉～後半 茅ヶ崎市／香川・下寺尾遺跡群北B地区 茅ヶ崎市教育委員会
- 52 墨書土器 「寺」 9世紀中葉～後半 茅ヶ崎市／香川・下寺尾遺跡群篠谷地区 茅ヶ崎市教育委員会
- 53 木簡 「×心心長□□□大□」 9世紀中頃～10世紀初頭 茅ヶ崎市／香川・下寺尾遺跡群北B地点 茅ヶ崎市教育委員会
- 54 ○木簡 「×道道道×」 9世紀 茅ヶ崎市／居村B遺跡 茅ヶ崎市教育委員会
- 55 ○木簡 「[×] □郡十年料□ 放生布施□事」 貞観 10年（868）カ 茅ヶ崎市／居村B遺跡 茅ヶ崎市教育委員会（複製は当館）
- 56 ○木簡 「茜槽」 9世紀 茅ヶ崎市／居村B遺跡 茅ヶ崎市教育委員会
- 57 ○木簡「貞観□年八月十□日勾村□殿秋村□□給 []」 貞観年間（859～875） 茅ヶ崎市／居村B遺跡 茅ヶ崎市教育委員会
- 58 ○木簡 「□福人妻之□」 9世紀 茅ヶ崎市／居村B遺跡 茅ヶ崎市教育委員会
- 59 ○木簡 「之之之及及人」 9世紀 茅ヶ崎市／居村B遺跡 茅ヶ崎市教育委員会
- 60 ○木簡 「糴五斗天平五年七月十四日×」 天平5年（733） 鎌倉市／今小路西遺跡 鎌倉市教育委員会（複製は当館）
- 61 □木簡 「鎌倉郷鎌倉里輕マ□寸稻天平五年九月」 天平5年（733）9月 綾瀬市／宮久保遺跡 神奈川県教育委員会（複製は当館）
- 62 墨書土器 「石井」 9世紀中葉～後半 綾瀬市／宮久保遺跡 神奈川県教育委員会
- 63 木簡「荒山大豆五 []」 9世紀 伊勢原市／西富岡・向畑遺跡 神奈川県教育委員会
- 64 墨書土器「高坐官」 10世紀前半 海老名市／大谷向原遺跡 海老名市教育委員会
- 65 墨書土器「郡」 9世紀前半 海老名市／大谷真鯨遺跡 海老名市教育委員会
- 66 墨書土器「大宅 大」 9世紀前半 海老名市／大谷真鯨遺跡 海老名市教育委員会

- 67 墨書土器 「寺」 9世紀前半 海老名市／海老名本郷遺跡
海老名市教育委員会
- 68 墨書土器 「甲」 9世紀後半 海老名市／海老名本郷遺跡
海老名市教育委員会
- 69 墨書土器 「生」 10世紀前半 海老名市／海老名本郷遺跡
海老名市教育委員会
- 70 墨書土器 「生」 10世紀前半 海老名市／海老名本郷遺跡
海老名市教育委員会
- 71 墨書土器 「生」 9世紀後半 海老名市／海老名本郷遺跡
海老名市教育委員会
- 72 墨書土器 「生」 9世紀後半 海老名市／海老名本郷遺跡
海老名市教育委員会
- 73 墨書土器 「丙」 9世紀後半 海老名市／海老名本郷遺跡
海老名市教育委員会
- 74 刻書土器 「寿・玖・壽・□・□・□」 10世紀 海老名市／海老名本郷遺跡 海老名市教育委員会
- 75 墨書土器 「一万」 9世紀後半～10世紀中葉 藤沢市／南鍛冶山遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 76 墨書土器 「寺一万」 9世紀後半～10世紀中葉 藤沢市／南鍛冶山遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 77 墨書土器 「一万寺」 9世紀後半～10世紀中葉 藤沢市／南鍛冶山遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 78 墨書土器 「寺一万」 9世紀後半～10世紀中葉 藤沢市／南鍛冶山遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 79 墨書土器 「寺一万」 9世紀後半～10世紀中葉 藤沢市／南鍛冶山遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 80 ○人面墨書土器 「□□□大□郡三宅郷」 8世紀中葉 藤沢市／南鍛冶山遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 81 ○人面墨書土器 8世紀中葉 藤沢市／南鍛冶山遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 82 線刻紡錘車 「大□□□□□□□」 藤沢市／南鍛冶山遺跡1 藤沢市郷土歴史課
- 83 墨書土器 「寺」 9世紀後半～10世紀中葉 藤沢市／下ノ根遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 84 墨書土器 「一万寺」 9世紀後半～10世紀中葉 藤沢市／下ノ根遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 85 墨書土器 「全」 9世紀後半～10世紀中葉 藤沢市／下ノ根遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 86 墨書土器 「天」 9世紀後半～10世紀中葉 藤沢市／下ノ根遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 87 墨書土器 「罌本寺」 8世紀後半 横浜市緑区／東耕地遺跡 神奈川県教育委員会
- 88 墨書土器 「□本寺」 8世紀後半 横浜市緑区／東耕地遺跡 神奈川県教育委員会
- 89 墨書土器 「村」 9世紀後半 横浜市緑区／東耕地遺跡 神奈川県教育委員会
- 90 墨書土器 「村」 9世紀後半 横浜市緑区／東耕地遺跡 神奈川県教育委員会
- 91 墨書土器 「村」 9世紀後半 横浜市緑区／東耕地遺跡 神奈川県教育委員会
- 92 ○刻書土器 「土廿」 8世紀後半 藤沢市／鵜沼藤原遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 93 墨書土器 「方岡」 8世紀後半 平塚市／真田・北金目遺跡群 平塚市教育委員会
- 94 墨書土器 「佛」 9世紀前半 平塚市／真田・北金目遺跡群 平塚市教育委員会
- 95 墨書土器 「佛八」 8世紀後半 平塚市／真田・北金目遺跡群 平塚市教育委員会
- 96 墨書土器 「寺」 8世紀後半 平塚市／真田・北金目遺跡群 平塚市教育委員会
- 97 墨書土器 「天」(則天文字) 8世紀後半 平塚市／真田・北金目遺跡群 平塚市教育委員会
- 98 墨書土器 「天」(則天文字) 8世紀後半 平塚市／真田・北金目遺跡群 平塚市教育委員会
- 99 墨書土器 「正」(則天文字) 9世紀後半 平塚市／真田・北金目遺跡群 平塚市教育委員会
- 100 墨書土器 「罌」 8世紀後半 平塚市／真田・北金目遺跡群 平塚市教育委員会
- 101 墨書土器 「方」 9世紀後半～10世紀前半 藤沢市／上ノ原 (No. 372) 遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 102 刻書土器 「虫」 9世紀後半～10世紀前半 藤沢市／上ノ原 (No. 372) 遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 103 墨書土器 「宅」 9世紀後半～10世紀前半 藤沢市／上ノ原 (No. 372) 遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 104 墨書土器 「虫」 9世紀後半～10世紀前半 藤沢市／上ノ原 (No. 372) 遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 105 墨書土器 「貝」 9世紀後半～10世紀前半 藤沢市／上ノ原 (No. 372) 遺跡 藤沢市郷土歴史課
- 106 ○銅印 「填」 10世紀 大磯町／馬場台遺跡 大磯町郷土資料館
- 107 木簡(複製) 「諸岡五十戸」 7世紀後半 奈良県／石神遺跡 横浜市歴史博物館(原品は奈良文化財研究所)
- 108 木簡(複製) 「三宅郷茜廿斤」 天平6～10年(734～738)カ 奈良県／平城京二条大路跡 横浜市歴史博物館(原品は奈良文化財研究所)
- 109 木簡(複製) 「橘樹郷茜十一斤」 天平6～10年(734～738)カ 奈良県／平城京二条大路跡 神奈川県立歴史博物館(原品は奈良文化財研究所)
- 110 木簡(複製) 「相模国高座郡美濃里秦□(贅カ)」 和銅7年(714) 奈良県／長屋王邸跡 当館(原品は奈良文化財研究所)
- 111 相模国封戸租交易帳(複製) 天平7年(735) 当館(原品は正倉院)
- 112 駿河国正税帳(複製) 天平10年(738) 横浜市歴史博物館(原品は正倉院)
- 113 相模国司牒(複製) 天平勝宝8歳(756)1月12日 横浜市歴史博物館(原品は重文・早稲田大学図書館)
- 114 相模国司牒(複製) 天平勝宝8歳(756)2月6日 横浜市歴史博物館(原品は重文・早稲田大学図書館)

115 相模国朝集使解（複製） 天平勝宝7歳（755）11月13日 横浜市歴史博物館（原品は重文・早稲田大学図書館）	119 調庸布（写真パネル） 天平10年（738）9月 正倉院 写真は『正倉院寶物銘文集成』（吉川弘文館）
116 東西市庄解（複製） 天平勝宝7歳（756）5月7日 横浜市歴史博物館（原品は重文・早稲田大学図書館）	120 調庸布（写真パネル） 天平勝宝元年（749）10月 正倉院 写真は『正倉院寶物銘文集成』（吉川弘文館）
117 調庸布（模造） 天平勝宝6年（754）カ 土浦市立博物館（原品は東京国立博物館）	121 調庸布（写真パネル） 天平勝宝元年（749）カ 正倉院 写真は『正倉院寶物銘文集成』（吉川弘文館）
118 調庸布（写真パネル） 天平勝宝8歳（756）11月 正倉院 写真は『正倉院寶物銘文集成』（吉川弘文館）	

イ 令和2年度かながわの遺跡展「相模川 遺跡紀行～3万年のものがたり～」

会 期：2月6日（土）～ 3月7日（日）

（※新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発出に伴う臨時休館により、横浜会場（当館）では開催中止。会期中に緊急事態宣言が解除される可能性があったため、展示作業は通常どおり実施した。）

会 場：特別展示室

主 催：神奈川県教育委員会、神奈川県立歴史博物館、厚木市教育委員会

後 援：朝日新聞横浜総局、産経新聞社横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、神奈川新聞社、東京新聞横浜支局、共同通信社横浜支局、時事通信社横浜総局、TVK、NHK 横浜放送局、FM ヨコハマ、ラジオ日本、J:COM

展示資料件数：508 件

担 当：神奈川県教育局生涯学習部文化遺産課中村町駐在事務所 主査 丸吉 繁一

概 要：神奈川県は、山地、台地、沖積平野、海浜砂丘域と多様な地形を内包しており、その形成には川が大きく関与している。川は多くの恵みをもたらし、人ははるか昔から川と深くかかわって生きてきた。中でも相模川は、本県を代表する河川である。山梨県の山中湖に端を発した流れは、丹沢山地を横断して県の中央付近を流下し、相模湾にそそぐ。

相模川流域には数多くの遺跡が分布しており、様々な時代・性格の遺跡をみることができる。特に近年の大規模道路工事事業に伴う発掘調査の結果、中下流域の自然堤防体を中心に資料が充実し、新たな知見が多く得られた。

展示では近年発掘調査の完了した圏央道（さがみ縦貫道路）の成果を中心として、旧石器時代から近代までの相模川流域の遺跡を通史的にみる。そして、川の持つ資源・運輸・遮断といった特性に着目しつつ、「川と人間とのかかわり」をテーマとして、相模川のほとりで暮らした人々を描き、川と人との関係を通じて、足元に眠る我々の歴史を考えるものである。

関 連 行 事：・特別講演会

第1回「相模川の沖積平野における地形環境返還と遺跡の立地」12月26日（土）

第2回「相模川流域からみた中世社会」2月7日（日）

第3回「再考 南関東の弥生文化」2月27日（土）

・学芸員による展示解説

2月14日、21日、3月6日

（新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発出に伴い臨時休館となり中止）

出 品 目 録：（凡例）No、資料名【指定】、出土遺跡名（所在地）、年代、所蔵

1 鉄舌長鏝 【平塚市指定重要文化財】 相模川河床 鎌倉時代 平塚市博物館	11 ヘラ形石器 津久井城跡（相模原市） 旧石器時代 神奈川県教育委員会
2 しがらみ状遺構 河原口坊中遺跡（海老名市） 弥生時代 神奈川県教育委員会	12-13 局部磨製石斧 津久井城跡（相模原市） 旧石器時代 神奈川県教育委員会
3-6 ナイフ形石器 津久井城跡（相模原市） 旧石器時代 神奈川県教育委員会	14 打製石斧 津久井城跡（相模原市） 旧石器時代 神奈 川県教育委員会
7-10 台形様石器 津久井城跡（相模原市） 旧石器時代 神奈川県教育委員会	15-16 叩き石 津久井城跡（相模原市） 旧石器時代 神奈川 県教育委員会

17 台石 津久井城跡(相模原市) 旧石器時代 神奈川県教育委員会

18 石斧製作を示す接合資料 津久井城跡(相模原市) 旧石器時代 神奈川県教育委員会

19-24 黒曜石原石 【相模原市指定有形文化財】 田名塩田 遺跡群A地区(相模原市) 旧石器時代 相模原市立博物館

25-28 ナイフ形石器 小保戸遺跡(相模原市) 旧石器時代 神奈川県教育委員会

29-30 彫器 小保戸遺跡(相模原市) 旧石器時代 神奈川県教育委員会

31-40 槍先形尖頭器 【神奈川県指定重要文化財】 田名向原遺跡(相模原市) 旧石器時代 相模原市立博物館

41 スクレイパー 【神奈川県指定重要文化財】 田名向原遺跡(相模原市) 旧石器時代 相模原市立博物館

42-43 細石刃 大保戸遺跡(相模原市) 旧石器時代 神奈川県教育委員会

44 細石刃核 大保戸遺跡(相模原市) 旧石器時代 神奈川県教育委員会

45-46 縄文土器 深鉢 川尻中村遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

47 縄文土器 深鉢 川尻遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

48 縄文土器 深鉢 【都留市指定有形文化財】 中溝遺跡(山梨県都留市) 縄文時代 ミュージアム都留

49 縄文土器 深鉢 川尻中村遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

50 縄文土器 釣手土器 原東遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

51 縄文土器 深鉢 関山遺跡(山梨県上野原市) 縄文時代 山梨県立考古博物館

52 縄文土器 釣手土器 宮の前遺跡(山梨県西桂町) 縄文時代 西桂町教育委員会

53-57 縄文土器 川尻中村遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

58 土偶 川尻中村遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

59 土鈴 川尻中村遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

60 土鈴 東遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

61-64 打製石斧 川尻中村遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

65-66 磨製石斧 川尻中村遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

67 石皿 川尻中村遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

68 磨石 川尻中村遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

69-70 垂飾 川尻中村遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

71-72 縄文土器 はじめ沢下遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

73-80 縄文土器 畑久保西遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

81 石皿 はじめ沢下遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

82 くぼみ石 はじめ沢下遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

83 磨石 はじめ沢下遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

84 叩き石 はじめ沢下遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

85 打製石斧 はじめ沢下遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

86 石錘 はじめ沢下遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

87 石鏃 はじめ沢下遺跡(相模原市) 縄文時代 神奈川県教育委員会

88-95 弥生土器 中野桜野遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

96-101 弥生土器 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

102-107 弥生土器 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

108-115 磨製石斧・石斧未成品 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

116 磨石 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

117 砥石 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

118 叩き石 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

119 くぼみ石 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

120-121 環状石器 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

122 鍬 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

123-124 多又鍬 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

125 鋤 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

126 又鋤 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

127-131 鍬身 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

132-133 鍬未成品 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

134 臼 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

135-136 堅杵 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代
神奈川県教育委員会

137 エブリ 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

138 田下駄 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

139 鎌柄 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

140 斧柄・斧台 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

141 横杵 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

142-145 横槌 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

146-148 紡錘車 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

149-150 杵 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

151 経送りか(未成品) 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

152 緯打具 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

153 布送具 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

154 鉢 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

155 高杯 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

156 籠 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

157 槽 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

158 槽(未成品) 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

159-160 タモ 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

161 櫛(未成品) 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

162 アカ取り(未成品) 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

163 栓 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

164 梯子 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

165 小銅鐸 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

166 鉄斧 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

167-168 鹿角製装具 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

169 ト骨 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

170 垂飾(サメ歯製) 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

171-172 銅鏃 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

173-175 小銅環 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

176-177 銅釧 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

178-182 ガラス小玉 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

183 組合せ木製品 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

184 火切臼 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

185 銅鐸形土製品 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

186 勾玉(未成品) 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

187 近畿地方の土器 河原口坊中遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

188-199 玉つくり関連遺物 社家宇治山遺跡(海老名市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

200 錐 社家宇治山遺跡(海老名市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

201 砥石 社家宇治山遺跡(海老名市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

202 銅鏡(双頭龍文鏡) 戸田小柳遺跡(厚木市) 弥生～古墳時代 神奈川県教育委員会

203 銅鏡(珠文鏡) 倉見川端遺跡(寒川町) 古墳時代 神奈川県教育委員会

204-208 土師器 倉見川端遺跡(寒川町) 古墳時代 神奈川県教育委員会

209 鉄鎌 倉見川端遺跡(寒川町) 古墳時代 神奈川県教育委員会

210 鉄斧 倉見川端遺跡(寒川町) 古墳時代 神奈川県教育委員会

211-212 須恵器 中野桜野遺跡(海老名市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

213-214 須恵器 河原口坊中遺跡(海老名市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

215 須恵器 社家宇治山遺跡(海老名市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

216-217 弥生土器 社家宇治山遺跡(海老名市) 弥生時代 神奈川県教育委員会

218-221 土師器 社家宇治山遺跡(海老名市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

222 ガラス小玉 社家宇治山遺跡(海老名市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

223 碧玉管玉 河原口坊中遺跡(海老名市) 古墳時代
神奈川県教育委員会

224 水晶切子玉 河原口坊中遺跡(海老名市) 古墳時代
神奈川県教育委員会

225 ガラス小玉 河原口坊中遺跡(海老名市) 古墳時代
神奈川県教育委員会

226 須恵器 河原口坊中遺跡(海老名市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

227-228 土師器 宮山中里遺跡(寒川町) 古墳時代 神奈川県教育委員会

229-230 須恵器 宮山中里遺跡(寒川町) 古墳時代 神奈川県教育委員会

231-232 大刀 桜樹古墳群(厚木市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

233 鐔 桜樹古墳群(厚木市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

234 刀子 桜樹古墳群(厚木市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

235-238 鉄鎌 桜樹古墳群(厚木市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

239-240 両頭金具 桜樹古墳群(厚木市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

241 絞具 桜樹古墳群(厚木市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

242-244 留金具 桜樹古墳群(厚木市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

245-250 耳環 桜樹古墳群(厚木市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

251 瑪瑙勾玉 桜樹古墳群(厚木市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

252-253 水晶切子玉 桜樹古墳群(厚木市) 古墳時代
神奈川県教育委員会

254-255 琥珀囊玉 桜樹古墳群(厚木市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

256-257 滑石丸玉 桜樹古墳群(厚木市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

258 ガラス小玉 桜樹古墳群(厚木市) 古墳時代 神奈川県教育委員会

259-260 須恵器(墨書土器「国厨」) 坪ノ内遺跡(平塚市)
平安時代 神奈川県教育委員会

261-264 緑釉陶器 六ノ域遺跡(平塚市) 平安時代 神奈川県教育委員会

265-266 緑釉陶器 大会原遺跡(平塚市) 平安時代 神奈川県教育委員会

267-268 奈良三彩 六ノ域遺跡(平塚市) 平安時代 神奈川県教育委員会

269 土師器(甲斐型坏) 六ノ域遺跡(平塚市) 奈良時代
神奈川県教育委員会

270 灰釉陶器(朱墨付着) 坪ノ内遺跡(平塚市) 平安時代
神奈川県教育委員会

271 陶硯 戸田小柳遺跡(厚木市) 平安時代 神奈川県教育委員会

272 須恵器(朱墨付着) 上ノ町遺跡(茅ヶ崎市) 平安時代
神奈川県教育委員会

273 灰釉陶器(朱墨付着) 河原口坊中遺跡(海老名市) 平安時代
神奈川県教育委員会

274-275 緑釉陶器 河原口坊中遺跡(海老名市) 平安時代
神奈川県教育委員会

276-277 土師器(甲斐型坏) 河原口坊中遺跡(海老名市)
奈良時代 神奈川県教育委員会

278 須恵器 河原口坊中遺跡(海老名市) 平安時代 神奈川県教育委員会

279 水煙(複製品) 相模国分寺跡(海老名市) 奈良・平安時代
海老名市教育委員会

280 仏像(天部立像) 六ノ域遺跡(平塚市) 平安時代 神奈川県教育委員会

281-282 須恵器 河原口坊中遺跡(海老名市) 平安時代
神奈川県教育委員会

283-286 土師器・須恵器(煤付着) 河原口坊中遺跡(海老名市)
平安時代 神奈川県教育委員会

287 瓦塔 河原口坊中遺跡(海老名市) 平安時代 神奈川県教育委員会

288 瓦塔(露盤) 宮山中里遺跡(寒川町) 平安時代 神奈川県教育委員会

289-292 土師器 河原口坊中遺跡(海老名市) 平安時代
神奈川県教育委員会

293-294 須恵器 河原口坊中遺跡(海老名市) 平安時代
神奈川県教育委員会

295 管状土錘 河原口坊中遺跡(海老名市) 平安時代 神奈川県教育委員会

296-300 須恵器 中野中里遺跡(相模原市) 平安時代
神奈川県教育委員会

301 灰釉陶器 中野中里遺跡(相模原市) 平安時代 神奈川県教育委員会

302-304 土師器 中野中里遺跡(相模原市) 平安時代
神奈川県教育委員会

305 鉄鐸 中野中里遺跡(相模原市) 平安時代 神奈川県教育委員会

306-310 土師器(墨書土器「西」) 宮山中里遺跡(寒川町)
平安時代 神奈川県教育委員会

311-313 かむらけ 河原口坊中遺跡(海老名市) 鎌倉時代
神奈川県教育委員会

314 陶器河原口坊中遺跡(海老名市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会

315-316 青磁 河原口坊中遺跡(海老名市) 鎌倉時代
神奈川県教育委員会

317 白磁 河原口坊中遺跡(海老名市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会

318 軒平瓦 河原口坊中遺跡(海老名市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会

319 管状土鍾 河原口坊中遺跡(海老名市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会

320 金剛盤 河原口坊中遺跡(海老名市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会

321 陶器 跡堀遺跡(海老名市) 室町時代 神奈川県教育委員会

322 かわらけ 跡堀遺跡(海老名市) 室町時代 神奈川県教育委員会

323 舟形木製品 跡堀遺跡(海老名市) 室町時代 神奈川県教育委員会

324 白磁 大会原遺跡(平塚市) 室町時代 神奈川県教育委員会

325 青白磁 社家宇治山遺跡(海老名市) 室町時代 神奈川県教育委員会

326-328 かわらけ 社家宇治山遺跡(海老名市) 室町時代 神奈川県教育委員会

329 石鉢 社家宇治山遺跡(海老名市) 室町時代 神奈川県教育委員会

330-332 五輪塔 社家宇治山遺跡(海老名市) 室町時代 神奈川県教育委員会

333-336 かわらけ 城際遺跡(厚木市) 室町時代 神奈川県教育委員会

337-342 陶器 城際遺跡(厚木市) 室町時代 神奈川県教育委員会

343-346 青磁 城際遺跡(厚木市) 室町時代 神奈川県教育委員会

347-348 漆器碗 城際遺跡(厚木市) 室町時代 神奈川県教育委員会

349 ふいご羽口 城際遺跡(厚木市) 室町時代 神奈川県教育委員会

350-351 とりべ 城際遺跡(厚木市) 室町時代 神奈川県教育委員会

352-354 鉄滓 城際遺跡(厚木市) 室町時代 神奈川県教育委員会

355-363 鉄鋌・鉄製品 城際遺跡(厚木市) 室町時代 神奈川県教育委員会

364 銭貨 宮ノ越・宮ノ前遺跡(厚木市) 室町時代 神奈川県教育委員会

365-366 石臼 宮ノ越・宮ノ前遺跡(厚木市) 室町時代 神奈川県教育委員会

367 引磬 宮ノ越・宮ノ前遺跡(厚木市) 室町時代 神奈川県教育委員会

368-373 かわらけ 上ノ町遺跡(茅ヶ崎市) 室町～安土桃山時代 神奈川県教育委員会

374-375 磁器(染付) 上ノ町遺跡(茅ヶ崎市) 室町～安土桃山時代 神奈川県教育委員会

376-379 陶器 上ノ町遺跡(茅ヶ崎市) 室町～安土桃山時代 神奈川県教育委員会

380 桶 上ノ町遺跡(茅ヶ崎市) 室町～安土桃山時代 神奈川県教育委員会

381 ふいご羽口 上ノ町遺跡(茅ヶ崎市) 室町～安土桃山時代 神奈川県教育委員会

382-383 とりべ 上ノ町遺跡(茅ヶ崎市) 室町～安土桃山時代 神奈川県教育委員会

384-385 木地皿 上ノ町遺跡(茅ヶ崎市) 室町～安土桃山時代 神奈川県教育委員会

386-387 かわらけ(漆付着) 上ノ町遺跡(茅ヶ崎市) 室町～安土桃山時代 神奈川県教育委員会

388 刀子 上ノ町遺跡(茅ヶ崎市) 室町～安土桃山時代 神奈川県教育委員会

389-392 かわらけ 津久井城跡(相模原市) 室町～安土桃山時代 相模原市立博物館

393 磁器(白磁) 津久井城跡(相模原市) 室町～安土桃山時代 相模原市立博物館

394-395 磁器(染付) 津久井城跡(相模原市) 室町～安土桃山時代 相模原市立博物館

396 陶器 津久井城跡(相模原市) 室町～安土桃山時代 相模原市立博物館

397 石臼 津久井城跡(相模原市) 室町～安土桃山時代 神奈川県教育委員会

398 漆喰 津久井城跡(相模原市) 室町～安土桃山時代 相模原市立博物館

399 引手 津久井城跡(相模原市) 室町～安土桃山時代 相模原市立博物館

400 鉄砲玉 津久井城跡(相模原市) 室町～安土桃山時代 神奈川県教育委員会

401-404 とりべ 津久井城跡(相模原市) 室町～安土桃山時代 相模原市立博物館

405 ふいご羽口 津久井城跡(相模原市) 室町～安土桃山時代 相模原市立博物館

406-408 鉄滓 津久井城跡(相模原市) 室町～安土桃山時代 相模原市立博物館

409 磁器(肥前) 津久井城跡(相模原市) 江戸時代 神奈川県教育委員会

410-411 磁器(景德鎮ほか) 津久井城跡(相模原市) 江戸時代 神奈川県教育委員会

412 磁器(肥前) 津久井城跡(相模原市) 江戸時代 神奈川県教育委員会

413-415 陶器 津久井城跡(相模原市) 江戸時代 神奈川県教育委員会

416-417 かわらけ 津久井城跡(相模原市) 江戸時代 神奈川県教育委員会

418 鎧具足 津久井城跡(相模原市) 江戸時代 神奈川県教育委員会

419-420 磁器(景德鎮系) 東町二番遺跡(厚木市) 室町～安土桃山時代 厚木市教育委員会

421-422 陶器 東町二番遺跡(厚木市) 室町～安土桃山時代 厚木市教育委員会

423-424 かわらけ 東町二番遺跡(厚木市) 室町～安土桃山時代 厚木市教育委員会

425-430 磁器(肥前) 東町二番遺跡(厚木市) 江戸時代
厚木市教育委員会

431-432 陶器 東町二番遺跡(厚木市) 江戸時代 厚木市
教育委員会

433-436 器碗(「高」銘) 東町二番遺跡(厚木市) 江戸時代
～明治 厚木市教育委員会

437 矢立 東町二番遺跡(厚木市) 江戸時代～明治 厚木市
教育委員会

438-439 分銅 東町二番遺跡(厚木市) 江戸時代～明治
厚木市教育委員会

440 焼印 東町二番遺跡(厚木市) 江戸時代～明治 厚木市
教育委員会

441-451 磁器(肥前) 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時
代 神奈川県教育委員会

452-459 陶器 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代
神奈川県教育委員会

460 火鉢 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈川県
教育委員会

461-462 火打石 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代
神奈川県教育委員会

463 硯 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈川県教
育委員会

464 温石 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈川県
教育委員会

465 石臼 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈川県
教育委員会

466 漆器丸盆 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈
川県教育委員会

467 漆器碗蓋 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈
川県教育委員会

468 曲物 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈川県
教育委員会

469 下駄 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈川県
教育委員会

470 おたま 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈川
県教育委員会

471 籠 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈川県教
育委員会

472 ノコギリ 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈
川県教育委員会

473 鎌 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈川県教
育委員会

474 刀子 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈川県
教育委員会

475-476 釘 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈
川県教育委員会

477 鋸 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈川県教
育委員会

478 簪 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈川県教
育委員会

479 錐 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代 神奈川県教
育委員会

480-481 煙管 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代
神奈川県教育委員会

482-484 寛永通宝 社家宇治山遺跡(海老名市) 江戸時代
神奈川県教育委員会

485-489 磁器 徳利・徳利栓 河原口坊中遺跡(海老名
市) 明治～大正 神奈川県教育委員会

490 磁器 碗 河原口坊中遺跡(海老名市) 明治～大正
神奈川県教育委員会

491-493 ガラス瓶・蓋 河原口坊中遺跡(海老名市) 明治
～大正 神奈川県教育委員会

494-495 耐火レンガ 河原口坊中遺跡(海老名市) 明治～
大正 神奈川県教育委員会

496-498 レンガ 河原口坊中遺跡(海老名市) 明治～大正
神奈川県教育委員会

499-500 白色ガラス瓶(クリーム壺) 四大縄遺跡(海老名
市) 大正～昭和 海老名市教育委員会

501-504 不明鉄製品 四大縄遺跡(海老名市) 大正～昭和
海老名市教育委員会

505 一銭(大正十年) 四大縄遺跡(海老名市) 大正 海老名
市教育委員会

506-508 磁器 四大縄遺跡(海老名市) 大正～昭和 海老
名市教育委員会

ウ フリーゾーンにおけるパネル展示

(ア) 「かながわの近代建築」

概 要：神奈川県内には、現在も明治・大正・昭和戦前期に建てられた数多くの近代建築が残されている。これらの近代建築の多くは、横浜における開港場や居留地に由来する建築、湘南地域に幅広く分布する避暑・避寒のための別荘建築、海軍の軍都として発展した横須賀などに見られる軍事関連の建築、箱根を中心とした観光地に建てられた旅館やホテル建築、京浜工業地帯の一角を占める横浜・川崎の臨海部の工場建築という、五つの要素に大別してとらえることができる。これは神奈川県内の近代建築の特色を表現しているだけでなく、神奈川県の近代の歩みを考える上で重要な要素でもある。

本展示では、神奈川県内に現存する近代建築のうち、当館の建物である旧横浜正金銀行本店本館や「キングの塔」と通称される神奈川県庁本庁舎をはじめとする 24 棟の建物を取り上げ、その魅力を紹介した。

会 期：通年
会 場：1 階 フリーゾーン 廊下
展示資料点数：25 点（番外のマップを含む）

出 品 目 録：（いずれも写真パネル）（凡例） No.、名称、所在地、竣工年月

番外 かながわの近代建築 MAP (神奈川県内の近代建築のうち 60 棟を地図上に示し、各建物の写真と概要データを紹介したものの。)	12 横浜税関本関庁舎 横浜市中区海岸通 1934 年(昭和 9) 3 月
1 旧横浜正金銀行本店本館(神奈川県立歴史博物館) 横浜市中区南仲通 1904 年(明治 37)7 月	13 横浜郵船ビル(日本郵船歴史博物館) 横浜市中区海岸通 1936 年(昭和 11)10 月
2 神奈川県庁舎(神奈川県庁本庁舎) 横浜市中区日本大通 1928 年(昭和 3)10 月	14 旧内田家住宅(外交官の家) 横浜市中区山手町 1910 年(明治 43)
3 旧新港埠頭煉瓦二号倉庫(横浜赤レンガ倉庫 2 号館) 横浜市中区新港 1911 年(明治 44)5 月	15 旧英国総領事公邸(横浜市イギリス館) 横浜市中区山手町 1937 年(昭和 12)
4 旧三井物産横浜支店(三井物産横浜ビル) 横浜市中区日本大通 1 号ビルー1911 年(明治 44)8 月、2 号ビルー1927 年(昭和 2)	16 旧大倉精神文化研究所(横浜市中区大倉山記念館) 横浜市中区大倉山 1932 年(昭和 7)4 月
5 旧開港記念横浜会館(横浜市開港記念会館) 横浜市中区本町 1917 年(大正 6)6 月	17 福住旅館金泉楼・萬翠楼 足柄下郡箱根町湯本 1877 年(明治 10)・1878 年(明治 11)
6 旧川崎銀行横浜支店(日本興亜馬車道ビル) 横浜市中区弁天通 1922 年(大正 11)	18 富士屋ホテル本館 足柄下郡箱根町宮ノ下 1891 年(明治 24)
7 旧生糸検査所(横浜第 2 合同庁舎) 横浜市中区北仲通 1926 年(大正 15)2 月	19 旧日本爆発物製造株式会社支配人執務室(旧海軍火薬廠将校クラブ、旧横浜ゴム平塚製造所記念館) 平塚市浅間町 1912 年(明治 45)頃
8 ホテルニューグランド本館 横浜市中区山下町 1927 年(昭和 2)11 月	20 旧木下邸 中郡大磯町大磯 明治時代末期
9 旧横浜商工奨励館(横浜情報文化センター) 横浜市中区日本大通 1929 年(昭和 4)4 月	21 旧近藤邸 藤沢市鵠沼東(同市内より移築) 1925 年(大正 14)
10 旧三井銀行横浜支店(三井住友銀行横浜支店) 横浜市中区本町 1931 年(昭和 6)3 月	22 旧華頂家住宅主屋(旧華頂宮邸) 鎌倉市浄明寺 1929 年(昭和 4)
11 旧横浜英国総領事館(横浜開港資料館旧館) 横浜市中区日本大通 1931 年(昭和 6)	23 旧藤沢ゴルフ倶楽部クラブハウス(神奈川県立体育センター食堂) 藤沢市善行 1932 年(昭和 7)
	24 旧前田家別邸(鎌倉文学館本館) 鎌倉市長谷 1936 年(昭和 11)8 月

(イ) 「写真で見る馬車道の歴史」

概 要：馬車道は本町 4 丁目の交差点から吉田橋までのわずか 500 メートルほどの通りであるが、歌謡曲でも歌われたヨコハマを代表する道路のひとつである。幕末横浜開港とともに生まれ、港と市街地を結ぶ往来として発展し、明治 4(1871)年の地図には「馬車道」の名前が記されている。輸出入の品々を運んだ荷馬車や外国人などが乗った馬車が通行していたことから「馬車道」とよばれ、多くの人たちが往来し、さまざまな商店が建ち並ぶ一方、貿易商社や金融機関が軒を並べる通りでもあった。

馬車道 150 年の歩みを写真パネルで紹介した。

会 期：4 月 1 日 ～ 3 月 30 日(火)
会 場：1 階 フリーゾーン 廊下
展示資料点数：11 点

出 品 目 録：（いずれも写真パネル）（凡例） No.、名称(作者)、時代、所蔵・写真提供者

1 横浜一覽之真景(部分) 橋本玉蘭斎(五雲亭)貞秀 明治 4 年(1871) 所蔵 神奈川県立歴史博物館	3 (絵葉書)横浜正金銀行 明治末 所蔵 神奈川県立歴史博物館
2 横浜吉田橋通繁盛之図 歌川国輝(二代) 山本平吉版 明治 3 年(1870) 所蔵 神奈川県立歴史博物館	4 (絵葉書)明治時代の馬車道 明治末 所蔵 神奈川県立歴史博物館

5 (絵葉書) 横浜震災実況 横浜正金銀行付近の惨状 大正 12 年 (1923) 所蔵 神奈川県立歴史博物館	写真提供 神奈川新聞社
6 空襲で焼け野原になった馬車道 昭和 20 年(1945) 写真提供 アメリカ国立公文書館	9 国際仮装行列の仮面ライダー 昭和 48 年(1973) 写真提供 神奈川新聞社
7 オート三輪が走る馬車道 昭和 35 年(1960) 写真提供 神奈川新聞社	10 馬車道まつりパレード 昭和 51 年(1976) 写真提供 馬車道商店街協同組合
8 東宝会館(現リッチモンドホテル) 昭和 34 年(1959)	11 馬車道で歌うピンクレディー 昭和 52 年(1977) 写真提供 馬車道商店街協同組合

(ウ) 『米夷紀事』にみる大槻磐溪によるペリー来航前後の情報収集活動

概要 要：JSPS 科研費 JP18K0952 (平成 30 年度～令和 2 年度 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C) 「開国期・危機的状況下における知識人による情報活動と意志決定過程に関する研究」研究代表者 主任学芸員 嶋村 元宏) の成果の一部を社会へ還元することを目的として実施。これまで十分に知られていなかった仙台藩儒者・大槻磐溪著『米夷紀事』(国立国会図書館所蔵) から判明した磐溪が嘉永 7 年の正月から 2 月頃までおこなったペリー来航前後の探索活動の結果についてわかりやすく伝えた。

会 期：3 月 31 日(水) ～ 令和 3 年 10 月 4 日(日) 予定

会 場：1 階 フリーゾーン 廊下

展示資料件数：10 点

担 当：主任学芸員 嶋村 元宏

出 品 目 録：(いずれも展示パネル) (凡例) No.、名称、時代、所蔵(文書群名)

1 趣旨	6 第 2 回浦賀調査：嘉永 7 年正月 25 日から
2 大槻磐溪	7 第 1 回横浜調査：嘉永 7 年 2 月 10 日から
3 大槻磐溪著『米夷紀事』	8 横浜周辺の風説
4 第 1 回浦賀調査：嘉永 7 年正月 3 日～7 日頃	9 第 2 回横浜調査：嘉永 7 年 2 月 19 日から
5 江戸での情報収集：嘉永 7 年正月 12 日頃～24 日頃	10 科研費について/講演会の案内

エ フリーゾーン等における「馬車道を描く日曜画家展作品」展示

(ア) 「馬車道を描く日曜画家展 歴代金賞作品展」

概要 要：昭和 55 年度から始められた「馬車道を描く日曜画家展」の歴代金賞受賞作品を、会議室に展示した。なお、例年と同様、令和 2 年度の第 41 回において、主任学芸員 角田 拓朗が審査員の一人として協力した。

会 期：10 月 30 日(金) ～ 11 月 5 日(木)

会 場：1 階 会議室

主 催：馬車道商店街協同組合、神奈川県立歴史博物館

展 示 点 数：合計 39 点(第 2 回(昭和 56 年度)～第 40 回(令和元年度)の金賞作品)

(5) 教育普及・学習支援事業

広く県民の学習ニーズに応えるべく学習の機会を提供し、博物館で行う講座・講演会や各種行事などへの参加を通して、神奈川の歴史・文化や文化財についての知識・関心を深めることを目的として実施した。なお、講座等の催し物は定員を減らし受講者の間隔をあけて密にならないよう座席位置を工夫するなど新型コロナウイルス感染症感染防止対策に万全を期して運営した。

ア 県立社会教育施設公開講座

生涯学習課主管の有料の連続講座(各回 1,000 円、全回申込者を優先するが、定員に達しない場合は各回単独受講可能)

県博セミナー I 期「相模川流域の仏教美術とその周辺をさぐる」

(定員 50 名 応募者 158 名(単回を含む事前申込者))

概 要：特別展「相模川流域のみほとけ」に関連し、相模川流域の仏教美術や歴史について専門家が語る。

会 場：地下講堂

- ・第1回 10月18日(日) 13:30～15:30 (受講者41名)
「相模原の仏像と神奈川県博の悉皆調査」館長 薄井 和男
- ・第2回 10月25日(日) 13:30～15:30 (受講者43名)
「相模川中流下流流域の仏像」学芸員 神野 祐太
- ・第3回 11月1日(日) 13:30～15:30 (受講者41名)
「毛利荘の飯山寺と律院・教院」法政大学准教授 大塚 紀弘 氏
- ・第4回 11月8日(日) 13:30～15:30 (受講者36名)
「相模川の源流ー山梨の仏像ー」山梨県立博物館学芸員 近藤 暁子 氏
- ・第5回 11月15日(日) 13:30～15:30 (受講者28名)
「相模川流域の古代」藤沢市郷土歴史課学芸員 荒井 秀規 氏
※担当(普及担当)：学芸員 神野 祐太(非常勤学芸員 市野 悦子)

イ 特別展等関連行事(特別展等のテーマに沿った内容の講演会等の実施)

(ア) 特別展「相模川流域のみほとけ」

a 入門講座

「相模川流域のみほとけたち」(無料、ただし特別展観覧券が必要)

開催日：10月11日(日)14:00～15:30(定員35名 応募者153名 受講者28名)

概 要：特別展「相模川流域のみほとけ」の入門編となる講座で、仏像は好きだが見方が分からない、地元神奈川の仏像についてもっと知りたいと思っている方向けに、今回出品された仏像を例に取り上げながら基本的な仏像の見方や特別展の見所を紹介する。

講 師：学芸員 神野 祐太

※普及担当：非常勤学芸員 福田 真由美

b 現地見学会(無料)

「相模国分寺跡を歩く」

開催日：11月11日(水)13:30～15:30(定員20名 応募者113名 受講者17名)

概 要：相模国分寺は奈良時代に聖武天皇が各国に建立され、国史跡に指定された最も早い国分寺跡の一つである。隣接する海老名市温故館の企画展「えびなの観音さま」を合わせて見学し、海老名の仏像についての理解を深める機会とする。

講 師：海老名市教育委員会教育部教育総務課主幹(兼)郷土資料館長 押方 みはる 氏

海老名市教育委員会社会教育指導員 園部 理恵 氏

※担当(普及担当)：学芸員 神野 祐太(非常勤学芸員 豊田 倫子)

(イ) 特別展「かながわの正月ーよい年になりますようにー」

a 体験型イベント(無料、ただし保護者の見学は特別展観覧券が必要)

「カドニュードウをつくろう」

開催日：1回目 12月20日(日)10:00～12:00(定員10名 応募者4名 受講者3名)

2回目 12月20日(日)14:00～16:00(定員10名 応募者4名 受講者4名)

概 要：山北町で小正月になると作られる魔除け「門入道」。子ども向けに門入道が作られる意味を解説の上、展示見学。形や色をアレンジした門入道を作成し、県内の伝統文化を知る機会とした。

講 師：学芸員 新井 裕美

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

ウ 学芸員による展示解説

特別展・特別陳列等の担当学芸員による展示解説。

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため、展示室内(当日自由参加)での開催を地下講堂での講座形式(当日先着順)に替えて開催した。

展覧会名	開催日	時間	会場	解説者	受講者 (名)
特別展「相模川流域 のみほとけ」	10月10日(土)	13:30 ～ 14:00	講堂	学芸員 神野 祐太 ※11月7日(土)は 館長 薄井 和男	16
	10月17日(土)				41
	10月24日(土)				50
	10月31日(土)				41
	11月7日(土)				43
	11月14日(土)				32
	11月21日(土)				39
	11月28日(土)				25
小計					287
特別展「かながわの 正月ーよい年になり ますようにー」	12月12日(土)	13:30 ～ 14:00	講堂	学芸員 新井 裕美	15
	12月19日(土)				5
	12月26日(土)				10
小計					30
合計					317

エ ミュージアムトーク「今月の逸品」

常設展展示資料より毎月逸品をピックアップし、学芸員が解説を行うもの。

(申込不要、無料、ただし常設展観覧券が必要、毎月第三水曜日 14:00～15:00)

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため、展示室内での開催に替えてウェブサイトのみでの展開とし、詳しい解説を掲載した。

開催月	逸品テーマ	解説者
4月	※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため中止。4月は掲載準備期間。	
5月	「関八州大絵図」	根本 佐智子
6月	「眞葛焼 高浮彫牡丹に眠猫覚醒蓋付水指」	小井川 理
7月	「相模人形芝居一本朝廿四孝より勝頼と八重垣姫」	三浦 麻緒
8月	「二代広重『諸国名所百景』」	桑山 童奈
9月	「昭和の冷蔵庫」	武田 周一郎
10月	「山中藩陣屋之図」	寺西 明子
11月	「五姓田義松《六面相》」	角田 拓朗
12月	「阿弥陀如来坐像」	神野 祐太
1月	「曾我一族の中世」	渡邊 浩貴
2月	「三浦市間口洞穴遺跡と神奈川県立博物館の発掘調査」	千葉 毅
3月	「上白根遺跡出土の火葬骨蔵器」	望月 一樹

オ その他の行事

(ア) 建物見学会（無料、ただし常設展観覧券が必要 各回定員 10 名）

「旧横浜正金銀行本店本館見学会」

国の重要文化財である旧館部分について、学芸員が案内・解説する。

・開催日：9月26日(土) ①10:30～11:30 (応募者 29 名 受講者 4 名)

②14:00～15:00 (応募者 17 名 受講者 7 名)

・開催日：12月4日(金) ①10:30～11:30 (応募者 11 名 受講者 11 名)

②14:00～15:00 (応募者 14 名 受講者 10 名)

講 師：企画普及課長・学芸員 丹治 雄一

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子／ 豊田 倫子

(イ) 博物館入門講座(無料、ただし常設展の観覧券が必要、各回定員 35 名)

受講者の博物館利用がより豊かなものになることを目指し、当館の様々な活動や学芸員の仕事について、講義・見学・体験を交えて紹介する。なお、ボランティアに参加希望の方には本講座の受講を勧めており、講座終了後に令和3年度から活動する博物館ボランティアの募集説明会を行った。

・第1回 9月6日(日) 13:00~16:00(応募者 79 名 受講者 28 名)

館内見学と講義「学芸員の目と技(考古資料の特性、扱い)」 主任学芸員 千葉 毅

・第2回 9月20日(日) 13:00~16:00(応募者 80 名 受講者 31 名)

館内見学と講義「学芸員の目と技(中世資料の特性、見方)」 学芸員 梯 弘人

※普及担当：非常勤学芸員 福田 真由美

(ウ) ミュージアムコンサート

「クラシック・ヨコハマ 2020 ミュージアムコンサート in 神奈川県立歴史博物館」

(無料、ただし常設展観覧券が必要)

日 時：12月5日(土) 14:00~14:40 (定員 35 名 応募者 57 名 参加者 23 名)

演奏者：篠原 悠那 氏、若杉 知怜 氏、柴田 花音 氏、中 恵菜 氏

(ミュージック・マスタース・コース・ジャパン修了生)

概 要：「クラシック・ヨコハマ 2020」(クラシック・ヨコハマ推進委員会、毎日新聞社、横浜市主催)の一環として、室内楽(弦楽四重奏)を実施。

※担当：非常勤学芸員 福田 真由美

カ 子ども・青少年向け教育普及事業

(ア) ミュージアム・ミッション 2020

2003 年からはじまった地域連携イベントが元になっており、みなとみらい・関内・山手地区にある博物館を巡っていく、夏休みの子ども向け事業。クイズ等の課題(ミッション)をクリアしながら巡ることで、博物館に親しむ機会を創出することをねらいとしたもの。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため、博物館を実際に訪れるのに替えて、特設サイトを新たに開設し参加館 10 館に関するクイズを WEB 上で出題する形式で開催した。

開催期間：8月1日(土)~30日(日)

開催期間中の閲覧数：5,769 件

開催館園：(10 館) 大佛次郎記念館、県立神奈川近代文学館、JICA 横浜 海外移住資料館、シルク博物館、ニュースパーク(日本新聞博物館)、野毛山動物園、放送ライブラリー、三菱みなとみらい技術館、横浜人形の家、当館

※担当：非常勤学芸員 市野 悦子

(イ) おうちでかながわけんぱく

新型コロナウイルス感染症の影響による休校等でおうち時間が増えた子どもたちが楽しめるよう、令和2年4月下旬にホームページ上に新たに開設した子ども向け WEB コンテンツ。学校再開後も内容を更新し続け、展示資料をもとに塗り絵や工作、布を用いて仏像の衣の着方を学ぶ内容などを掲載した。

閲覧数：12,239 件

キ 中止とした行事

新型コロナウイルス感染症の影響により、次の行事を中止した。

※応募者数が記載されている行事は、募集中または募集締切後に開催中止としたもの。

(ア) 県立社会教育施設公開講座

県博セミナーⅡ期「出土文字資料から古代神奈川をさぐる」

(応募者 73 名〈単回を含む事前申込者〉)

・第1回「出土文字資料の魅力ー木簡・墨書土器・漆紙文書」開催予定日：2月28日(日)

・第2回「神奈川県の古代地方官衙・寺院と出土文字資料」開催予定日：3月7日(日)

・第3回「古代神奈川の祭祀・信仰ー出土木簡を中心にー」開催予定日：3月14日(日)

- (イ) 特別展「明治錦絵×大正新版画―世界が愛した近代の木版画―」関連行事
 ※本特別展は新型コロナウイルス感染症の影響により、会期を8月25日から9月22日に変更して復活開催した。当初会期4月25日(土)～6月21日(日)で開催予定だった関連行事は次のとおり。
- ・実物講座「近代木版画の展開 アートとビジネスのはざまに」
開催予定日：5月17日(日) (応募者18名)
 - ・子ども向けワークショップ「木版画を摺ってみよう！」
開催予定日：5月3日(日・祝)～5日(火・祝) (当日自由参加)
 - ・実演講座「木版画を彫る・摺る」 開催予定日：6月6日(土) (応募者16名)
 - ・学芸員による展示解説(当日自由参加)
開催予定日：4月25日、5月3日、4日、5日、24日、31日、6月7日、14日、21日
- (ウ) コレクション展「運動のすゝめ―五輪と国体 戦後神奈川のスポーツイベント―」関連行事
- ・学芸員による展示解説(当日自由参加) 開催予定日：6月28日、7月26日、8月9日、30日
- (エ) 特別展「十王図」関連行事
- ・講演会「神奈川県所有《十王図》の修理内容とその特殊性」 開催予定日：7月19日(日)
 - ・子ども向け講演会「ほんとうは怖くない！エンマさま」 開催予定日：8月2日(日)
 - ・講演会「十王図の図像と転写にみる死生観」 開催予定日：8月23日(日)
 - ・学芸員による展示解説(当日自由参加)
開催予定日：7月18日、25日、8月1日、8日、15日、22日、29日
- (オ) 特別展「相模川流域のみほとけ」関連行事
- ・子ども向け体験コーナー「ぶつぞうぬりえにいどむ！」
開催予定日：会期中(10月10日(土)～11月29日(日))
 - ・横浜本町郵便局による風景印押印イベント
- (カ) 特別展「かながわの正月―よい年になりますように」関連行事
 ※現地見学会「大磯の七所参りを見学する」は「大磯の左義長」中止に伴い、中止とした。
- ・記念講演会「正月行事と子ども」 開催予定日：1月24日(日) (応募者40名)
 - ・連続講座「かながわの正月行事」(全2回) (応募者51人〈単回を含む事前申込者〉)
第1回 1月10日(日)、第2回 1月17日(日)
 - ・現地見学会「大磯の七所参りを見学する」 開催予定日：1月上旬
 - ・学芸員による展示解説(当日先着順) 開催予定日：1月9日、16日、23日
- (キ) 特別陳列「出土文字資料からみる古代の神奈川」関連行事
- ・学芸員による展示解説(当日先着順) 開催予定日：2月13日、21日、3月13日、21日
- (ク) 令和2年度かながわの遺跡展「相模川 遺跡紀行～3万年のものがたり～」関連行事
- ・特別講演「相模川流域からみた中世社会」 開催予定日：2月7日(日) (応募者168名)
 - ・特別講演「再考 南関東の弥生文化」 開催予定日：2月27日(土) (応募者135名)
 - ・担当者による展示解説(当日先着順) 開催予定日：2月14日、20日、3月6日
- (ケ) その他行事
- ・建物見学会「旧横浜正金銀行本店本館見学会」
開催予定日：4月18日(土) (応募者20名)、5月16日(土) (応募者5名)、
3月27日(土)
 - ・講座・現地見学会
「岩石・石材から見た横浜の近代建築と近代化遺産」 開催予定日：5月23日(土)
(応募者15名)
「岩石・石材から見た横須賀の近代建築と近代化遺産」 開催予定日：10月3日(土)

- ・浦賀ウインドオーケストラによるミュージアムコンサート 開催予定日：7月12日（日）
- ・子ども向け体験教室
 - 「石臼と糸車を回そう！」 開催予定日：8月6日（土）
 - 「作ってみよう！まが玉」 開催予定日：1月31日（日）（応募者8名）
 - 「鎧兜ができるまで」 開催予定日：2月21日（日）
- ・学んでたのしむはくぶつかん（自由参加） 開催予定期間：通年
- ・教員のための博物館講座 開催予定日：8月6日（木）、7日（金）

ク 学校連携事業の状況

(ア) 小・中・高等学校及び特別支援学校等の利用状況

	県 内											
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		その他		県内合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月												
5月							休 館					
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	1	64	1	88	2	30	0	0	1	12	5	194
10月	1	98	3	107	3	32	0	0	0	0	7	237
11月	2	214	10	385	3	29	0	0	0	0	15	628
12月	4	326	0	0	0	0	0	0	0	0	4	326
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月							休 館					
3月	0	0	1	38	0	0	0	0	0	0	1	38
合計	8	702	15	618	8	91	0	0	1	12	32	1,423

	県 外											
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		その他		県外合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月												
5月							休 館					
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	2
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	1	5
10月	0	0	2	51	0	0	0	0	0	0	2	51
11月	1	65	0	0	0	0	1	15	0	0	2	80
12月	0	0	2	33	1	13	0	0	0	0	3	46
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月							休 館					
3月	0	0	6	104	0	0	0	0	0	0	6	104
合計	1	65	11	193	2	15	1	15	0	0	15	288

	令和2年度総計		平成31（令和元）年度総計		平成30年度総計		平成29年度総計		平成28年度総計	
	校数	校数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月	休館		32	1,291	0	0			44	1,331
5月			63	1,536	93	2,233			88	2,710
6月	0	0	37	1,096	31	867				
7月	1	2	14	361	11	53				
8月	0	0	51	594	10	54				
9月	6	199	17	366	19	378				
10月	9	288	16	491	19	775	休館			
11月	17	708	58	3,006	42	2,568				
12月	7	372	18	490	15	603				
1月	0	0	33	1,159	25	1,016				
2月	休館		14	262	30	1,495				
3月	7	142	0	0	6	222				
合計	47	1,711	353	10,652	301	10,264			132	4,041

来館児童・生徒の県内外の内訳

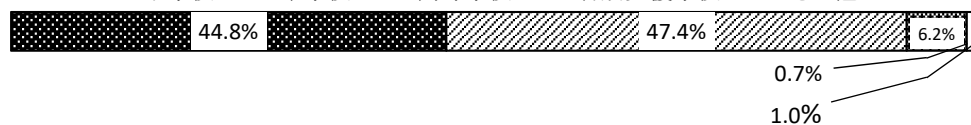
■ 県内 □ 県外



総数 1,711 人

来館児童・生徒の校種別内訳

■ 小学校 □ 中学校 ▨ 高等学校 □ 特別支援学校 ■ その他



総数 1,711 人

(イ) 当館の利用目的

(単位：校数)

	利用目的	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
	教科学習(社会科等)	4 (50%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)
	総合的な学習の時間	1 (13%)	1 (8%)	1 (33%)	0 (0%)
	学校行事(遠足等)	3 (38%)	11 (85%)	1 (33%)	0 (0%)
	その他(部活動等)	0 (0%)	1 (8%)	0 (0%)	0 (0%)
	合 計	8	13	3	0
県外	教科学習(社会科等)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	総合的な学習の時間	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	学校行事(遠足等)	1 (100%)	1 (100%)	0 (0%)	1 (100%)
	その他(部活動等)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	合 計	1	1	0	1

※事前連絡校による統計

※義務教育学校、中等教育学校は課程により分類

(ウ) 学校の博物館利用の状況

(単位：校数)

校 種	事前準備			博物館活用			利用形態			付帯施設利用		
	事前連絡校	下見来館	電話打合せ	ボランティア解説	ワークシート活用	特別依頼	全員一斉	グループ	その他	駐車場	講堂・会議室	その他
小学校	9	7	2	0	5	0	9	0	0	1	7	1
中学校	14	2	12	0	0	1	1	13	0	0	1	2
高等学校	3	1	2	0	0	1	3	0	0	0	0	0
特別支援学校	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
合計	27	11	16	0	5	3	14	13	0	1	8	3

※事前連絡校による統計

※「ワークシート活用」＝館提供のワークシートを活用して見学。

※「特別依頼」＝学芸員による館の概要説明や建物の解説など。

※付帯施設利用の「その他」＝ライブラリーの利用、エントランスでのチェックポイント設置など。

(エ) ボランティア、学芸員等による解説依頼へのテーマ別対応状況

(単位：延べ校数)

依頼テーマ	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他
テーマ1 さがみの古代に生きた人びと	0	0	0	0	0
テーマ2 都市鎌倉と中世びと	0	0	0	0	0
テーマ3 近世の街道と庶民文化	0	0	0	0	0
テーマ4 横浜開港と近代化	0	0	0	0	0
テーマ5 現代の神奈川と伝統文化	0	0	0	0	0
特別展示・その他 (含む専門解説)	0	1	1	1	0

(オ) 教員、児童・生徒に向けた資料の提供

小・中学生向けの「小・中学生の歴史学習に関連した展示資料」と、小・中学校教員向けの「歴史学習に対応した主な展示資料」を引き続きホームページに掲載するとともに、下見に来館した教員へ配付するなど、展示の内容を紹介する資料として活用した。また、高校生向けには日本史で学習する内容と関連の深い資料を紹介する展示ガイド「高校生のための展示資料50」を新たに作成し、ホームページに掲載した。

(カ) ワークシートの作成と活用

見学時に利用できる小学生向けの「けんぱく見学シート」のほか、クイズ形式の見学シートとして、小学校3・4年生向けの「けんぱくクイズ」、小学校5・6年生から中学生向けの「けんぱくミッション」をホームページに掲載し提供している。

(キ) 教員対象の講座・研修の実施

社会体験研修の実施

(1回目)

日 時 8月4日(火)、5日(水) 9:00～17:45 一部参加者は6日(木)

参加者 7名

内 容 8月4日(火) ガイダンス、館内見学、企画普及課業務、情報資料課業務
 5日(水) 学芸員業務(博物館資料の調査と整理) 体験
 6日(木) ワークショップ

(2回目)

日 時 8月11日(火), 12日(水), 13日(木) 9:00~17:45

参加者 2名

内 容 8月11日(火) ガイダンス、館内見学、企画普及課業務
12日(水) 学芸員業務(博物館資料の調査と整理)体験
13日(木) ワークショップ

(7) 出張講座

休館中の学校連携の一環として開始した、学芸員が講師となり県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に出張して講義をする「出張講座」を実施した。なお、日付欄の※はオンラインによる実施。

日付	学校名	講座名	概要	講師名	対象学年 授業時限数 受講者数
7月16日 (木)	横須賀市 立浦賀小 学校	鎌倉大仏に なってみよう	神奈川の仏像、特に鎌倉大仏について、その形の意味や服装を受講者に実際にまねしてもらいながら講義を行った。	学芸員 神野 祐太	小6 2時限 74名
11月5日 (木)	横浜市立 上瀬谷小 学校	絵図で見る 江戸時代	所蔵の絵図や学校がある地域が描かれた絵図などを見ながら江戸時代の特徴や江戸時代から続く地域の歴史について講義を行った。	非常勤学芸員 根本 佐智子	小6 2時限 90名
11月19日 (木)	横浜市立 駒林小 学校	日本の開国 と異文化交 流	ペリー来航、横浜開港など、日本の開国過程や、幕末明治期における異文化交流の諸相について、アクティブラーニング形式で講義を行った。	主任学芸員 嶋村 元宏	小6 3時限 85名
11月20日 (金)	川崎市立 宮内小 学校	日本の開国 と異文化交 流	ペリー来航、横浜開港など、日本の開国過程や、幕末明治期における異文化交流の諸相について、アクティブラーニング形式で講義を行った。	主任学芸員 嶋村 元宏	小6 2時限 133名
11月19日 (木)・20日 (金)	フェリス 女学院中 学校・高等 学校	鎧兜の移り 変わりから 見る歴史	主に中世、平安後期から戦国時代の鎧兜から、時代による鎧兜の変遷や社会の変化について紹介した。	学芸員 梯 弘人	高2 2時限 40名
12月22日 (火)	横浜市立 間門小 学校	考古学の魅 力	考古学とは何か。どのような楽しさがあるのかを、身近な遺跡や遺物などを通して紹介した。	主任学芸員 千葉 毅	小6 1時限 105名
1月22日 (金) ※	フェリス 女学院中 学校・高等 学校	中世武士の 鎌倉	武士の常識・非常識について、教科書では取り上げられない資料を使いながら解説し、中世武士と都市鎌倉について紹介した。	学芸員 渡邊 浩貴	中2 3時限 185名
1月27日 (水) ※	都立桜修 館中等教 育学校	博物館・学 芸員の仕事	博物館という施設とそこで資料に関わる様々な仕事をしている学芸員について、実際の体験に基づき解説した。	学芸員 武田 周一郎	中1 1時限 156名
2月2日 (火) ※	相模原市 立大野台 中学校	鎌倉大仏に なってみよう	神奈川の仏像、特に鎌倉大仏について、その形の意味や服装を実際にまねしてもらいながら紹介した。	学芸員 神野 祐太	中1 1時限 130名

2月18日 (木)	横浜市立 美しが丘 東小学校	昔の道具を 調べてみよ う	現在の生活と比較しながら、高 度経済成長期以前の生活を調 べ、使用していた道具と生活の 変化について解説した。	学芸員 新井 裕美	小3 2時限 80名
合 計					19時限 1,078名

(ケ) 大学団体利用

授業内容等の専門性を高めるため、の常設展または特別展等の見学や学芸員による解説を行う。

【受入実績】

	来 館 日	大 学 名	数 (名)
1	8月18日 (火)	東海大学	5
2	10月13日 (火)	慶應義塾大学	4
3	10月31日 (土)	成城大学	3
4	11月10日 (火)	早稲田大学	11
5	11月11日 (水)	青山学院大学	7
6	11月11日 (水)	明治学院大学	17
7	11月12日 (木)	慶應義塾大学	5
8	11月15日 (日)	大阪大学	6
合 計			58

(6) ミュージアムライブラリー

県民の学習活動を支援する場として、1階フリーゾーンにミュージアムライブラリーを設置している。
図書、情報システム端末（デジタルミュージアム用）などがあり、展示を中心とした神奈川の歴史や文化
について学ぶことが出来る。

職員が1名以上常駐し、質問等を受け付けるなど、生涯学習の場として広く利用されるように運営してい
る。（図書、情報システムの内容についてはそれぞれの項目に記載）

令和2年度の利用者総数は2,445名で、フリーゾーンを含めた入館者に対する比率は9.9%である。

ア 閲覧用座席数

16席、来館者用情報システム端末：2台

イ 利用者数

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
小学生			3	5	33	6	5	3	9	1		3	68
中学生			0	2	3	0	0	0	1	1		1	8
高校生			0	1	2	3	0	1	0	0		0	7
大学生			1	6	8	24	4	1	1	3		2	50
一般成人			104	140	289	249	231	240	133	34		54	1,474
65歳以上			43	73	79	137	173	210	79	14		30	838
生徒引率			0	0	0	0	0	0	0	0		0	0
合計			151	227	414	419	413	455	223	53		90	2,445
開館日数(日)			17	25	27	24	26	26	21	7		7	180
1日平均			8.9	9.1	15.3	17.5	15.9	17.5	10.6	7.6		12.9	13.6

ウ 利用形態

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
図書閲覧			70	131	262	237	278	272	131	29		56	1,466
情報システム端末			5	41	14	16	26	5	5	4		0	116
各種照会※			47	74	105	115	152	139	82	14		31	759
コピー (件数)			14	8	20	24	45	37	17	5		2	172
サービス (枚数)			52	108	310	274	749	261	414	99		39	2,307

※写真資料の特別利用手続、ポスター掲出・チラシ配架依頼、周辺施設の所在地に関する照会などへの対応

(7) 普及印刷物

ア 図録

- ・特別展図録「明治錦絵×大正新版画―世界が愛した近代の木版画―」令和2年4月25日発行
- ・特別展図録「相模川流域のみほとけ」令和2年10月10日発行
- ・特別展図録「かながわの正月―よい年になりますように―」令和2年12月11日発行

イ 広報印刷物

- ・特別展「明治錦絵×大正新版画―世界が愛した近代の木版画―」ポスター・チラシ
- ・特別展「相模川流域のみほとけ」ポスター・チラシ
- ・特別展「かながわの正月―よい年になりますように―」ポスター・チラシ
- ・特別陳列「出土文字資料からみる古代の神奈川」ポスター・チラシ
- ・「催し物のご案内(2021年4月～2022年3月)」

ウ 神奈川県立歴史博物館だより

- 『神奈川県立歴史博物館だより』VOL. 26 No. 1 通巻214号 令和2年8月18日 (2,000部)
- 『神奈川県立歴史博物館だより』VOL. 26 No. 2 通巻215号 令和2年10月20日 (2,000部)
- 『神奈川県立歴史博物館だより』VOL. 26 No. 3 通巻216号 令和3年2月10日 (2,000部)

(8) ボランティアの活動

博物館ボランティアについては、展示解説ボランティアの活動を平成9年度から開始し、平成13年度から活動年数を最長5年とした。また、平成22年度からは行事補助ボランティアを導入して活動を拡大した。令和2年度は研修中の新規ボランティア(令和3年4月活動予定)を含め122名(令和3年3月末日現在)である(詳細は下記「(イ)ボランティア数」参照)。なお、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のための臨時休館等の影響で、令和2年度はボランティアの活動期間が短くなり活動内容も制限されるなど、貴重なボランティア活動機会の逸失になることを考慮し、令和2年度を活動任期に換算せず全ボランティアの活動任期を1年間延長した。

ア 活動状況及び実績

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、令和2年4月1日～9月1日及び令和3年1月12日～3月31日のボランティア活動を休止したことで、約4ヵ月間のみの活動となった。令和2年9月の活動再開後は、作成した「新型コロナウイルス感染症感染予防のための県立歴史博物館ボランティア活動マニュアル」をもとに、安心安全を第一に考え、活動時間の短縮、展示解説の休止など活動内容に制限を設ける形で、看視活動を中心に工夫しながら活動した。また、ボランティア会では、幹事会(各曜日班から2名の幹事を選出)を組織し、月1回、館側の担当者と様々な調整や情報の交換を行うほか、年3回『ボランティアニュース』の編集・発行や、自主的な館外研修の企画等を行っている。

【参考：活動休止前の活動内容】

展示解説ボランティア：常設展の展示解説、特別展開催中には1日2回の定時解説(11時、15時)を行うほか、看視や来観客案内を行う。

行事補助ボランティア：子ども向け行事等の指導補助をはじめ、受付や案内など、学習支援事業の補助を行う。

(ア) 活動日数及び人数

月	活動日数(日)	延べ活動人数(名)
4	0	0
5	0	0
6	0	0
7	0	0
8	0	0
9	24	179
10	26	312
11	26	294
12	17	195
1	0	0
2	0	0
3	0	0
合計	93	980

※令和2年4月～8月、令和3年1月～3月は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため活動休止

(イ) ボランティア数(令和3年3月末現在)

展示解説ボランティア 計 107 名

	火曜班	水曜班	木曜班	金曜班	土曜班	日曜班	計
展示解説ボランティア	20	19	18	18	16	16	107
うち R3.4月活動開始 予定新規ボランティア	5	8	2	2	4	3	24

行事補助ボランティア 計 15 名

行事補助ボランティア	15
うち R3.4月活動開始 予定新規ボランティア	1

(年代別・男女別人数等)

年代	男	女	計
20	1	0	1
30	1	0	1
40	0	2	2
50	2	9	11
60	37	21	58
70	35	14	49
合計	76	46	122
平均年齢	67.5	64.8	66.5

イ 専門研修

翌年度の新規採用ボランティアを対象として、展示解説に必要な常設展示に関する知識や資料の保存、教育普及活動について、その内容を知ってもらうために実施する。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、当初予定を変更した。

- ・令和2年度活動開始の新規採用ボランティア対象（令和元年度中に4日間終了）

実施日 9月12日, 19日

※令和元年度未了となった3日間の研修を、9月に延期するとともに2日間に短縮して実施した。

- ・令和3年度活動開始予定の新規採用ボランティア対象

令和3年4月以降に延期して実施予定

※当初予定は令和3年1月～3月の全7日間。

ウ その他の研修

(ア) 特別展勉強会

特別展「相模川流域のみほとけ」・「かながわの正月」開催にあたり、展示解説・看視活動に備えるため、必要な図録や資料を配布するとともに、これまで展示室で担当学芸員が解説しながら行っていた勉強会を、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、講堂での講座形式に替えて実施した。

(イ) フォローアップ研修

常設展示等解説のフォローアップとして、以下のテーマで研修講座を実施した。なお、1月9日(土)に「学校団体利用者向け対応」をテーマに開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止とした。

実施日	テ ー マ
11月14日(土)	テーマ5現代「くり返されるものの変化」ー昭和の冷蔵庫を中心にー

(9) 博物館実習生の受入れ

「神奈川県立歴史博物館博物館実習生受け入れ要領」に基づき、見学実習と実務実習を受け入れた。

ア 見学実習

当館の概要(歴史・施設・組織・展示や事業概要など)について説明した後、展示室、バックヤード等の見学を行う。

【受入れ実績】

	来館日	大 学 名	人 数 (名)
1	8月10日(月・祝)	奈良大学	1
2	9月13日(日)	日本女子大学	9
3	9月13日(日)	日本女子大学	6
4	10月16日(金)	日本女子大学	13
5	11月15日(日)	文教大学	3
6	12月12日(土)	日本大学	17
7	12月12日(土)	日本大学	17
合 計			66

イ 実務実習

博物館運営に関わる業務や教育普及事業、学芸部の資料の取扱いや整理の方法などについて学ぶ全6日間の実習を行った。

○応 募 数 : 30 大学 37 名

○受 入 数 : 16 大学 16 名

○実 受 入 数 : 16 大学 16 名

○実受入大学名 : 青山学院大学、跡見学園女子大学、お茶の水女子大学、神奈川大学、京都府立大学、国土館大学、駒沢女子大学、滋賀県立大学、清泉女子大学、大正大学、東京学芸大学、東洋大学、日本大学、日本大学通信教育部、法政大学、立正大学

(1 大学につき 1 名)

【実習内容】

	日 付	内 容
第1日目	9月9日(水)	ガイダンス、当館の概要、館内・バックヤード見学、博物館の広報とデザイン、学校連携
第2日目	9月10日(木)	ボランティア活動、写真資料の役割と保存、博物館資料の収集と収蔵資料データベース(情報システム)、写場見学・撮影体験、環境と資料保存の実践
第3日目	9月11日(金)	考古資料の取り扱い方(展示と梱包)、民俗資料の取り扱い方(クリーニングと保管)
第4日目	9月18日(水)	美術資料の取り扱い方と調査について(卷子、軸装、浮世絵、額、マット装)
第5日目	9月19日(木)	歴史資料の取り扱い方と調査、模擬展示
第6日目	9月20日(金)	教育普及の実践と発表

6 資料

(1) 条例・規則

ア 神奈川県立の博物館条例

〔 昭和 41 年 10 月 7 日 〕
条例第 43 号

最終改正 平成 28 年 10 月 21 日条例第 77 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

名 称	位 置	目 的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区南仲通 5 丁目 60 番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市入生田 499 番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第 3 条 博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第 4 条 博物館に展示している博物館資料を観覧する者(以下「観覧者」という。)は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度定めることができる。

3 教育委員会は、第 1 項本文及び前項に規定する観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者(別表備考 2 に規定する者を除く。)は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第 5 条 前条第 1 項本文及び第 2 項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号。別表備考において「法」という。)第 1 条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者という。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第 6 条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第 8 条 教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第 9 条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して6月をこえない範囲内で教育委員会規則で定める日から施行する。（昭和41年11月18日教育委員会規則第8号で、同41年11月21日から施行。ただし、第4条から第9条までの規定の施行期日にあつては昭和42年3月22日とし、第10条の規定の施行期日にあつては昭和42年4月1日とする。）
(略)

附 則(平成28年10月21日条例第77号)

この条例は、平成28年12月1日から施行する。

別表(第4条関係)(抄)

区 分		個 人	20人以上の団体
神奈川県立歴史博物館	20歳以上65歳未満の者 (学生及び高校生を除く。)	1人につき 300円	1人につき 250円
	20歳未満の者(高校生を除く。)	同 200円	同 150円
	学生(65歳以上の者を除く。)		
	65歳以上の者	同 100円	同 100円
	高 校 生		

備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

イ 神奈川県立の博物館組織規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第10号

最終改正 平成18年3月31日教育委員会規則第13号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第2条 神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第3条 管理課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 公印に関すること。
- (2) 文書の收受、発送、保存、閲覧等に関すること。
- (3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関すること。
- (4) 人事に関すること。
- (5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関すること。
- (6) 予算の経理に関すること。
- (7) 観覧料の徴収に関すること。
- (8) 物品の調達及び処分に関すること。
- (9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関すること。
- (10) その他他部課の主管に属しないこと。

第4条 削除

(企画普及課の事務)

第5条 企画普及課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館活動の企画及び調整に関すること。
- (2) 博物館活動の普及及び広報に関すること。
- (3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。
- (4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関すること。

(情報資料課の事務)

第6条 神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの運用に関すること。

2 神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。

(学芸部の事務)

第7条 学芸部においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
- (2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和41年11月21日から施行する。

(略)

附 則(平成18年3月31日教育委員会規則第13号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

ウ 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第9号

最終改正 平成28年11月29日教育委員会規則第23号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(権限の委任)

第2条 次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。

- (1) 神奈川県立の博物館条例(昭和41年神奈川県条例第43号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定により観覧料を定めること。
- (2) 条例第4条第3項の規定により観覧券を交付すること。
- (3) 条例第4条第4項の規定により観覧券に代わるものを認めること。
- (4) 条例第5条の規定により観覧料を減免すること。
- (5) 条例第6条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。
- (6) 条例第7条の規定により利用を承認すること。
- (7) 条例第8条の規定により利用を制限すること。

(休館日等)

第3条 神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)
- (2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
- (3) 12月28日から翌年の1月4日まで
- (4) その他教育長が定める日

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。

(開館時間等)

第4条 開館時間は、次のとおりとする。

名 称	開 館 時 間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後4時以降は、入館することができない。

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の様式)

第5条 条例第4条第3項に規定する観覧券は、神奈川県立歴史博物館にあつては第1号様式とし、神奈川県立生命の星・地球博物館にあつては第2号様式とする。

(観覧料の減免申請)

第6条 観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。

(観覧料の還付申請)

第7条 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。

(利用の方法)

第9条 博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。

(資料の館外貸出し)

第10条 次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館
- (4) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校
- (5) その他教育長が適当と認めるもの

2 前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。

(館外貸出しの期間)

第11条 博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は、特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

2 前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。

3 教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であつても、当該博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しをした資料の利用方法)

第12条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。

(資料滅失等の届出)

第13条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失(損傷)届出書を教育長に提出しなければならない。

(寄託を受けた資料の利用の制限)

第14条 寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行なうことができない。

(委任)

第15条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和41年11月21日から施行する。ただし、第2条から第9条までの規定は、昭和42年3月22日から施行する。

(略)

附 則(平成28年11月29日教育委員会規則第23号)

この規則は、平成28年12月1日から施行する。

(2) 利用案内

- 1 名 称 : 神奈川県立歴史博物館 (Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History)
- 2 所 在 地 : 横浜市中区南仲通 5-60 〒231-0006
- 3 電 話 : 045-201-0926(代表)
- 4 F A X : 045-201-7364
- 5 ホームページ : <https://ch.kanagawa-museum.jp/>
- 6 交 通 : みなとみらい線「馬車道駅」3・5番出口から徒歩1分、
横浜市営地下鉄「関内駅」9番出口から徒歩5分、JR「桜木町駅」新南口 (ICカード専用)
から徒歩5分
- 7 休 館 日 : 月曜日(ただし、祝日の場合は開館)、資料整理休館日、年末年始
- 8 観 覧 料 : ○常設展
 - ・20歳以上(学生を除く) : 300円(250円) ()内は20名以上の団体
 - ・20歳未満及び学生 : 200円(150円)
 - ・高校生及び65歳以上 : 100円(100円)
 - ・中学生以下及び障害者手帳等をお持ちの方は無料○特別展
 - ・常設展とは別料金となり、金額は展示ごとに別途定める。○コレクション展
 - ・無料
- 9 団 体 見 学 : 事前にご連絡ください。
- 10 地 図



(3) 新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館の状況

臨時休館の状況		備 考（経緯等）
令和2年 3月 4日	臨時休館（～6月7日）	<ul style="list-style-type: none"> ・3月 4日～15日臨時休館 [3月2日付け] ・3月16日～31日臨時休館 [3月11日付け] ・4月以降も当分の間休館 [3月30日改定 県の基本方針] ・8月31日まで休館 [4月 6日改定 県の基本方針]
(6月 8日	休館日)	<div>4月 7日 ～ 5月 6日 緊急事態宣言 ～ 5月31日</div>
6月 9日	通常開館（～令和3年1月11日）	<ul style="list-style-type: none"> ・6月 9日から再開館 [5月25日改定 県の基本方針]
令和3年 1月12日	臨時休館（～3月21日）	<div>1月 7日 ～ 2月 7日 緊急事態宣言 ～ 3月 7日 ～ 3月21日</div> <ul style="list-style-type: none"> ・1月12日から休館 [1月 8日付け] ・3月 7日まで臨時休館延長 <div>2月 2日改定 特措法に基づく緊急事態措置 に係る神奈川県実施方針</div> ・引き続き臨時休館 <div>3月 5日付け 国における緊急事態宣言再延長 に伴う県教育委員会の基本的対応</div>
(3月22日	休館日)	<ul style="list-style-type: none"> ・段階的緩和期間中(3月22日～31日)は事前予約された方に限り入館を可能 [3月18日改定 県の基本方針]
3月23日	臨時休館 ただし、事前予約された方に限り入館可能	<div>3月22日 ～ 31日 段階的緩和期間</div>

※「県の基本方針」とは「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」を示す

神奈川県立歴史博物館年報 令和2年度

令和4(2022)年2月12日

編集・発行 〒231-0006

横浜市中区南仲通5-60

神奈川県立歴史博物館

本書の無断転載を禁ず

ISSN 1346-6127

Kanagawa Kenritsu Rekishi Hakubutsu-kan

Nen-po

Annual Report of the Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

(2020.4~2021.3)

Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

Naka-ku, Yokohama, Kanagawa, JAPAN